

## 会 議 録

|             |     |                                                                      |      |    |
|-------------|-----|----------------------------------------------------------------------|------|----|
| 会議の名称       |     | 令和２年度（2020 年度）第４回つくば市行政経営懇談会                                         |      |    |
| 開催日時        |     | 令和３年（2021 年）２月５日（金）18:00 開会 20:00 閉会                                 |      |    |
| 開催場所        |     | つくば市役所２階 職員研修室                                                       |      |    |
| 事務局（担当課）    |     | 政策イノベーション部 企画経営課                                                     |      |    |
| 出席者         | 委員  | 飯田委員、上田委員、上平委員、佐藤委員、白倉委員、永田委員、星埜委員、堀委員、水谷委員、溝上委員                     |      |    |
|             | その他 |                                                                      |      |    |
|             | 事務局 | 森政策イノベーション部長、杉山政策イノベーション部次長、大越企画経営課長、会田企画経営課長補佐、中村企画経営課長補佐、大見係長、栗島主事 |      |    |
| 公開・非公開の別    |     | ■公開    □非公開    □一部公開                                                 | 傍聴者数 | ３人 |
| 非公開の場合はその理由 |     |                                                                      |      |    |
| 議題          |     | (１) 令和２年度（2020 年度）つくば市行政経営懇談会提言（案）について<br>(２) スーパーシティ基本方針について        |      |    |
| 会議次第        | 1   | 開会                                                                   |      |    |
|             | 2   | 議事                                                                   |      |    |
|             |     | (１) 令和２年度（2020 年度）つくば市行政経営懇談会提言（案）について                               |      |    |
|             |     | (２) スーパーシティ基本方針について                                                  |      |    |
|             | 3   | その他                                                                  |      |    |
|             | 4   | 閉会                                                                   |      |    |

|                                                                                                                                                                   |  |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| <p>&lt;審議内容&gt;</p> <p>○事務局 定刻となりましたので、只今から、令和２年度（2020年度）第４回つくば市行政経営懇談会を開会いたします。本日は３名の委員がZoomで参加しております。よろしくお願いいたします。</p> <p>では、早速ですが、議事に入りたいと思います。進行は座長にお願いした</p> |  |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|

と思います。座長、よろしくお願いいたします。

○座長　こんばんは。まず、本日の予定を申し上げさせていただきます。本日御議論いただく内容は、議事次第にございますとおり、令和２年度（2020年度）つくば市行政経営懇談会提言（案）について及びスーパーシティ基本方針についてです。

本日の会議ですが、午後８時を終了予定として進めていきたいと思いますので、皆様御協力よろしくお願いいたします。また、会議の公開、非公開につきましては、既に原則公開ということが決定されておりますので、本日も公開ということで進めさせていただきます。

次に、本日の配付資料について確認させていただきたいと思います。次第に、本日使用する資料一覧、下のほうに配付資料という形でございます。御確認いただきまして過不足がある場合は、事務局までお知らせください。よろしいでしょうか。

では、早速議事に入らせていただきます。

まず、議事の１、令和２年度（2020年度）つくば市行政経営懇談会提言（案）についてです。第３回では、つくば市が目指すべき市民参加についてということで、委員の皆様には無作為抽出による委員等候補者名簿の活用、若い世代の参加者の拡大、応募者数の増加の３点をテーマに御意見を頂きました。今回は、皆様の御意見をもとに事務局がまとめました令和２年度（2020年度）つくば市行政経営懇談会提言（案）を御確認いただきまして、御意見を頂きたいと考えております。

それでは、まず、事務局から説明をお願いします。

○事務局　【資料１に基づき説明】

○座長　ありがとうございます。これまでの皆様の協議を踏まえて、事務局から提言案が示されました。この提言書案につきまして、可能でしたら、本日の第４回の懇談会で最終確認とさせていただければと思っておりますので、

補足、修正、意見等、皆様、御意見がありましたら、遠慮なく御発言していただきたいというふうに考えております。

ただ、冒頭に事務局からも意見がありましたように、決して今回で終わりというわけではなくて、必要でしたら第5回も、また、開催させて検討したいと考えておりますので、よろしくお願いします。

では、提言案につきまして、何か御意見、感想ございましたらどうぞ。特に、一つずつ押さえるということも必要かもしれませんが、まずは全体的に御意見等ございましたら、御発言いただければと思います。

委員、どうぞ。

○委員 今まで私たちが話し合っていた内容をすごく組み入れていただいて感謝しております。ありがとうございます。

それで、私、一つつけ加えたいことがございます。この間からつくばセンタービルリニューアルに関するオープンハウスの結果概要がホームページに出ておりまして、私もそれを興味深く読ませていただいたのですが、12月15日から12月28日までの2週間、10時から21時まで、御来場いただいた方から意見を抽出するという方法だったのですが、結果を見ると意見37だったようなのです。今の時期、コロナで不要不急の外出というのは非常に皆さん避け、できれば行かないようにしようと、行政からもお願いしている状態で、やはり少し離れた場所で議論を求めるというのは難しかったのではないかと思います。

職員の方が夜9時まで張りついていらっしゃったというのは、本当にその御足労は大変だったと思います。だからこそ、もっとたくさんの意見がもらえるような場所を探してほしかったなと。こういったことって、やはりアンケート抽出する場合、目標サンプル数、人口に対して何%目標というのを最初に数値目標を出して、その目標を、この時期だったら、どこでとれるかということを考えていただくほうが、より多くの市民の意見を頂けるのではな

いかと。

例えば、この時期でも人が集まる場所といったら市役所です。市役所の1階はたくさんの人が、税金や転入手続、いろんな形でいらっしゃる一番近い場所だと思うのです。そこで最初に意見を集め、少し難しいと思ったら1週間で場所を変えとか、柔軟な対応をされて、その目標値に向かわせるような、そういった数値目標をアンケートの際には設定していただくとよいのではないかと思います。

やはりこのセンタービルにしても何にしても、市民の意見というのはとても大事で、一つでも多く、一つでもたくさんの意見を吸収したいと、そういつて思っていたのであれば、ぜひ目標をつくって、人口の1%とか、今計算したら0.02%だったのです。37人とウェブ上の28人を合わせて65人。24万6,000人の人口に対して65人の意見だったと。これが市民の意見です、というのは、もったいないなと思いました。ですから、ぜひそういった数値目標を今後出していただいて、それに向かうべく、こういった収集方法が適切かということ、そして難しいようだったら途中で場所を変える、方法を変える、柔軟な対応が求められるのではないかと思います。提言に載っていないので随分迷ったのですけれども、ぜひ市民参加を推進するために申し上げたいと思いました。

○座長 ありがとうございます。今の点について、事務局から何か御意見ございますか。

○事務局 政策イノベーション部です。今の委員から頂いた内容について、例えば、1人に言ったものが全部反映させるとなると、大変なことになるので、これもかなり凝縮してといいますか、意見が重なっているものを中心に引き上げさせていただいていますので、今、委員から頂いた意見も含めて、今日、出た意見については、この委員の皆さんの間で提言に盛り込むのが妥当かどうかという議論をしていただいて、それで合意された内容について盛り込む。

あるいは、これは重要なものだけれども、ほかとの並びでどうかということもあり得るかと思うので、その場合は、もちろん議事録上には残って留意事項にはなるわけなのですけれども、掲載はしないという判断もあり得るので、その辺はこの場で議論してもらえれば。

○座長 ありがとうございます。取りあえず自由に御意見頂いて、今、事務局から御意見ありましたように、既に今回も皆さんの意見を全部取り入れているわけでは決してなく、まとめた部分ということもありますので、それで最終的に判断させていただくということで、まずは、皆さんお気づきになった御意見をどんどんおっしゃっていただくという形で進めたいと思いますが、よろしいでしょうか。

ほかに、いかがでしょうか。

○委員 ①番の提言になるのかちょっと分かりませんが、少し事務局のほうでお伺いしたいのですが、今、市民委員の公募をしています、自分で手を挙げて市民委員をやってみたいというような人たちが登録されるというようなことが可能なかどうか。もし可能であるとすれば、もう少し広く公募をしながら、市民委員やってみませんか。こういう委員会がつくば市にはあって、そこではこんなテーマについて話し合いをして、政策にいかしていますというようなことが市民の人たちに分かりやすい形で提示される。公募や、あるいは無作為抽出で選ばれた委員の方たちがいきなり審議会の委員になってくださいと言われても、かなり二の足を踏むというか。広報などにも審議会の委員を公募しています、と何百字かで小論文を提出してくださいというようながあると、積極的に参加しにくいと思うのです。

ですから、去年はこういうテーマについて、こんなことをしましたよと。ホームページには議事録や資料などが情報公開されているのですけれども、そういったものをもう少し分かりやすい形で提示して、こういう話し合いをしている場です、というようなことを分かりやすく提示することで、手を挙

げやすくするというような工夫が必要なのかなと思います。

ですから、まずは、いろんな人がたくさん集まるような機会にチラシのようなものを作って、市民委員やってみませんかというような形で手を挙げた方たちを登録していただいて、そういう人たちの中から、いろんな審議会に参加していただくというような、無作為抽出以外にも登録制で自分から手を挙げた方たちにもぜひ入っていただく。そういう登録していただく方をたくさん増やしていくような工夫を何かできればいいのではないかと思います。

○座長 ありがとうございます。皆さんの意見を聞いていて、すぐ前言を撤回するようで恐縮なのですが、私の理解では、市民委員は自分で手を挙げられて、作文等々をお出しになった方から選ばれる部分もあると理解していますが、その手を挙げられた方を何か登録、データベース化みたいなことはされているのですか。それとも一回一回データは消去されているのですか。

○事務局 市民委員に手を挙げていただいた方のリストは企画経営課で管理をしております、そちらで今会議に参加している方や兼務状況を確認できる状態にはしております。職員もその一覧を見ることができます。

○座長 公募で採択されなかった人は。

○事務局 公募で採択されなかった方については、記録を残してはおりません。企画経営課でも、その情報については各審議会の担当者から提供を受けておりません。

○座長 企画経営課で持っているデータも採択された人のデータだけということですか。応募してきた人のデータをもう少し活用してもいいのではないかということですか。

○委員 そうですね、もう少し広く市民委員になってみませんかという形で周知し、募集をし、そしてぜひやってみたいという人たちを増やしていき、それをデータベース化していくということをしていくというか、そういうような形の人選の仕方もあるのではないかと。

○座長 個人情報の保有って結構うるさいので、多分、消している部分もあるのではないかとと思いますが、御意見としてはありがとうございます。

ほかの御意見いかがでしょうか。

○委員 私としましては、大分お願いしたようなことが取り入れていただいています、ありがたいなというふうに思っております。

一つ、市の職員の方というのは、結局行政サイドでいろいろ考えていらっしゃると思うのですが、やはりもう反面は生活者なのです。ですから、市民としての考え方とか立場とかお気持ちがあると思うのです。その板挟みになっている面があって大変だとは思いますが、その辺のところも導入していただくと、もう少し市民寄りの発想というか、文面とかいろんな面で気づきが出てくるのではないかなというふうに思うのです。

私、去年までの状況は分からないので、大分、私自分目線というか、そういうことを提案させていただきまして、それがたくさん入っているので、そういう意味では本当にうれしいなと思っておりますが。もう少し突っ込んでいくと、よく理解されている職員の方の生身の、本音のところの考え方をどう施策にうまく反映することができるかということになると、もっと進むのではないかなと。

○座長 ほかにいかがでしょうか。

○委員 確かに、関心のある人を登録して応募者数を増加ということは、とても大切だと思うのですが、逆に、あまり関心がないとか、そういうことを全然知らなかったという人を拾い上げるには、無作為抽出は意味があるのではないかなと私個人的に思います。

私も全然知らなくて、たまたま、つくば市から手紙が届いて、たまたまそのときにコロナのせいで仕事がテレワークでなって、家にいたということもあって、やってみようかなという気になったのですけれども、全然そんなことを知らなかった人に参加してもらおうという、割合としては応募したり、登

録したりする人に比べて、無作為抽出で選ばれましたといっても、それを引き受ける人の割合はあまり高くはないと思うのですけれども、いろいろな意見を拾うという意味では、この無作為抽出の委員等候補者名簿の活用の推進ということはいいかと思います。

ここの3ポツのところに、全ての分野に関心がある、どの分野でもいいという項目が追加してもらえると、回答しやすくなるかなと思います。第1希望から第3希望まで丸つけてくださいといわれても決めかねるという人もいると思うので。それから、最後のところにジェンダーバランス、年齢、居住地等の偏りがないように配慮しますという一文があるのもいいかなと思います。

○座長 ありがとうございます。では、委員、お願いします。

○委員 まず、体裁の部分なのですけれども、今回、提言の内容として3点に特に絞って提言しているというところだと思うのですが、なぜこの3点に絞って検討しているのかというところの言及がないような気がしていて。多分、皆さん議論を重ねているので、当然の前提だとは思いますが、パッとこれだけを見た人が、なぜこの三つなのというのが分かりづらいと思うので、そこをどこかに補足してあげると、4の検討なのか、あるいは課題のところなのか、現状と課題のところなのかと思うのですけれども、ここに入れてあげると、スムーズに読みやすいのかなという気がしました。

あと、提言の内容の部分なのですが、5の①の3ポツ目。ここも希望分野を問う選択肢のこれを追加するとともにとあるのですが、多分これ読んで見ると、そもそもどういう募集の仕方をしているか分かっていないので、現状こういうふうになっているけれども、こう変えますというほうが、なるほど、となるかなと思います。ここは同じ部分なのですが、最後のほうの市民委員選定の際のジェンダーバランス、年齢層、居住地等に偏りがないよう配慮する一文を記載されたいという、この意味がちょっと分からなくて、これは

どういう意味なのかなというところと、私の考えとしては、無作為抽出の際にも、例えば、ここの層に重点的に聞きたいというのがあった場合には、そこからあえて絞って偏りをわざとかけて選んでいきたいと思いますというようなことも必要なのかなと。例えば、②の若い世代のもので参加してほしいという場合には、30代以下の名簿から選ぶとか、そういうようなこともあったので、ここの表現と、必ずしも偏りが無いということだけを追求する必要がない場合もある、むしろ特定の層から選ぶ必要がある場合もあるのではないかなと思いました。

○座長 ありがとうございます。そのほか、いかがでしょうか。

○委員 さっき言い忘れたことなのですけれども、仕事を持っていると6時からだったら、まだ、そこまで参加しにくいことはありませんが、2時とか3時とかだと休暇を使わないといけません。裁判員制度と同じように、こういう市民委員などに選ばれてお休みを取る場合は、特別休暇のような、有給の制度があるといいかと思います。そういうことをつくば市のほうから、つくばにある会社なり、研究所なり、国の機関にお口添えいただけると、私としては非常にありがたいかなというように思います。

○座長 ほかに。ウェブで参加されていらっしゃる方、いかがでしょうか。どうぞ、お願いします。

○委員 今いろいろな御意見が出ましたけれども、提言としてよくまとめてくださったなと思います。でも、あまりにまとまり過ぎていて、これを読まれるのは多分、市の上の方たちだと思うので、それで十分お分かりになると思うのですが、一般の人たちが読んだとき、特に、先ほどから出ていますけれども、無作為抽出によるとかそういうところで、かみ砕くのは少し無理かもしれませんが、例えばとか、付記、つけ足し、説明がどこかにあるといいのではないかなと思います。

私自身が、もし、こういう委員に自分から積極的に出るということになっ

たときに、やはり周りの人たちからの誘いとか口コミとかが出やすいと思うのです。ですから、市の広報の中で、こういう審議委員会でこういう意見が出ましたよというようなものを、コラム的なものでもいいから、何とか審議会だよりのような感じで出してみると、少しハードルが下がって、みんなの目に触れるのではないかなと思います。

○座長 ありがとうございます。

○委員 こういった提言、まとめていただいて、本当にありがたいと思います。実際に参加する立場になってみると、やはり参加しやすいというのが一番大事かなと思って。その選び方も、無作為もあるのですが、例えば、絞り込みというところで、AIやビッグデータを使って、こういう事案に対してはこういう人たちが適切なのではないかという検索をかけて、かなり絞り込んで話してもらえるような対象先というのを出していくのも一つの手なのかなという気がします。

○座長 ありがとうございます。最後になってしまいましたが、いかがでしょうか。

○委員 私も提言読ませていただいて、まとめていただいてありがとうございました。とてもよくまとまっていると思うので、前の方がおっしゃったように、文章的に伝わりづらいというのはあるのかもしれないのですが、行政文書というのはこういうものなのかなと読んでいる次第です。私は特に問題ありませんでした。以上です。

○座長 ありがとうございます。そのほかに、もう既に発言された方でも構いませんが、追加で御意見、ポイントといかがでしょうか。

今頂いた御意見で重複する部分もあったかと思う部分は、一つは、やはり情報発信、市民参加委員、市民委員を募るときに、つくば市としてはいろいろされていらっしゃると思いますが、まだまだ市民委員の制度、応募の仕方等々を含めて、より積極的な情報発信の方法を考えていただきたいと思っ

て、コラムであったり、チラシであったり様々な手法が考えられると思いますがという点が1点あったかなと思います。

順不同ですが、我々何回も議論しているので、無作為抽出だとか用語が特に、選択肢が三つまでしか選べないというようなことも無意識のうちに頭に入っているのですが、初めて読まれる方は、何のことやら理解が難しいと思うので、本文にその説明を入れるのか、はたまた付記という形で枠外に説明を入れるのかは検討が必要ですがけれども、要望の説明もしくは情報の追加といったことは提言として必要ではないか。また、委員のほうから、そもそも何でこの三つなのという理由が確かに御指摘されればないわけでありまして、その辺りは必要かなと思いました。

また、①の無作為抽出のところで、委員の選定にいろいろ偏りが無いということがいいと思うことも必要ですが、一方で、あえて偏りが必要なときもある、これはどうやって報告書に書くかというのは非常に難しいところではありますが、そこはぜひ、何でもかんでもバランスではないというところを分かるような記載の仕方があってもいいのかなと私は思います。皆さんいかがでしょうか。

それから、せっかく市民の方々が委員をやってもいいとおっしゃってくださっていらっしゃる方の情報を、先ほど思わず個人情報と言ってしまったのですが、そもそも手を挙げていただいたときに、この情報をほかでも使わせて、何か役立たせていただくというか、市からの情報提供の際にも使わせていただいていいかということ。例えば、丸とかバツでつけるとか、そんな感じで積極的にそういった方々をデータベース化するというと、少し言葉が悪いのですが、情報を活用する。そのほか、市民参加を推進していくために、例えば、数値目標の設定とかそういったことも、あとAI等々で単に無作為抽出というときにビッグデータ、AIの利用といったことも今後は検討する必要があるみたいなコメント、御意見が出ていたように思いますが、

いかがでしょうか。

今、申し上げた点で、やはりそれはちょっと違うのではないかという御意見等がありましたら、場合によっては、このまま報告書になってしまいますので、おっしゃっていただければと思いますが。

○事務局 事務局から、多分、事務局で補足しておいたほうがいいことをお伝えした上で、委員で議論していただければと思いますけれども。座長、もう一つ、所属先なんかへの特別休暇については最後に言いますが。

まず、言葉の補足です。無作為抽出とか、そういった分りにくいのではないかと、それについては、例えばこういうやり方があるのではないかと、いうことを申し上げると、この提言自体は、市長に最後手交して、市長に、この提言を踏まえて今後どうするか、市政運営上どうするかということを考えさせるための提言です。ですから、市民向けの提言ではないのですね、市役所向けと。

一方で、例えば、審議会のホームページに載せる、こういう方向性で市が審議委員の市政参加を推進していますといったときには、こういう提言がいつ出されているということを示すということは重要であるというのは、そのとおりだと思います。

ですので、例えばですけれども、提言上では特に言葉の補足はしないのですけれども、この提言を今後、もう一つの話である市が市民参加について積極的にやっています、いろいろアピールすべきじゃないかという取り組みと併せて、この提言を例えばホームページに載せるだとかいうときに、補足的な説明を、提言の解説みたいなものというものをつけてあげると、その提言を読んだときに、無作為抽出が分からないときに、その解説が後ろについているとかということで、提言そのものにいろいろ形容していくと、若干その趣旨が変わってしまうかもしれないので、例えば、そういうやり方があるのではないかなと思いました、ということが一つと。

それから、三つに絞っている理由を書いたほうがいいのではないかということで、これは恐らくやり方が二つあるかなというふうに思います。一つが現状と課題のところに、少し、例えば、若者の参加率が低いというようなバックデータのものを載せるというやり方。それからもう一つは、4番の検討のところの書き方として、3ページから4ページに枠がありますけれども、「主に審議会等の市民委員の参加について協議を行った、この協議を踏まえ、無作為抽出、若い世代、審議会等の市民委員の増加の特にこの三つについて、つくば市における」として、大前提は解説しないのですけれども、そのストーリーとしては、まず、審議会への積極参加という大きな枠組みがあって、それで例えば事務局側から出したデータだとか、あとは皆さんの問題意識を踏まえて今こういう三つに大きく分類できるのではないかとあって、その提言の構成がそうなっているので、そのような語順で文章の順番で説明すると、恐らく引っかかりが少なくなるかな。軽微な修正という意味では、後者のほうがいいかなと思います。

それから、あとは、委員の御提案は、私の認識では、応募していただいて、だめだった人にもまた声をかけましょうということに加えて、もう少し緩く、この審議会というふうには特化せずに、例えば、去年だったら、こういうような審議会について市民委員を募集していますと、こういう意見を頂いて、こういうふうに反映しました。市民委員で参加することは非常に有意義なことですし、面白いですよというような広報をした上で、無作為抽出名簿でもなく、特定の審議会でもなく、特に、優先的にといいますか、そういうような審議会の募集があったときには声かけさせていただきますよというような人を作ったほうがいいのではないかと趣旨と私は受け取ったのですけれども、そういうことですね。

○委員　そうですね。市民委員の候補者募集みたいな感じで、社会教育ですと、いろいろな講師の名簿というか、登録したりしていますよね。そういうよう

な感じで、やってみたいという人たちが気軽に、多分、時限制で2年間、3年間とかという形で、ある程度掲載期間は限ったほうがいいと思いますけれども、気軽に手を挙げて名簿に登録しておけば、その中からちょっと選抜できるというような、そういうイメージでした。

○事務局　なので、新たなカテゴリーができるということになるのですけれども、無作為抽出名簿よりも、事前に関心を示しているリストというのがあって、そういうものも活用すべきじゃないかという意見だと思うので、その辺りと。

最後に、特別休暇の話は、これは結構、多分裁判員制度でもはっきり決まっていなだと思います。報酬を二重でもらってもいいのかみたいなものについては議論はされていて、法務省が見解を出しているところなのですけれども。特に、法務省なり裁判所からこういうふうにしてくださいみたいなことは言っていないと思うのです。その上で、一般的なルールとしては、審議会等への参加によって、一応、僅かですけれども謝金が支払われるので、謝金を受け取るときに、特別休暇というよりは年休をとっていただいて、年休なのでももちろん消化はされるのですけれども、給与が出て、報酬ではなくて謝金なので、あくまでも交通費だとか、子供を保育園に預けなきゃいけないから発生する費用の弁償という形で出るという整理で行っているケースが多いのではないかなと思います。

ですから、これは例えばですけれども、恐らく委員の御趣旨としては、対職場で市の審議会に出るということをもっと気軽に、正当化されやすくしてほしいというか、それはしょうがないよねというふうな雰囲気があればいいという御趣旨だとすれば、例えば、委員から希望があったときには、職場に対して、この方を委員にするので御配慮お願いしますみたいな文書を市から出すとかということは、個別に、希望に応じてあるのかなと。それが恐らく一番緩い形で、最終的に謝金云々みたいなところには踏み込まずに、職場

の方の理解を求めるところには資すると思いました。

すみません、この上で引き続きこれを盛り込む、盛り込まないという話で。

○座長 どこから行きましょうか。まず、委員に御提案いただいた、なぜ三つに絞ったかというのは、今の事務局のような形で。

○委員 そんなに長々と書いていただく必要はないと思ひまして、ただ、つながりを見せられると、よりスムーズに行くかなというところなので。特に異存はございません。

○座長 ありがとうございます。若い人があまり参加していないというようなバックグラウンド情報がどこかに数値で明記されていると、よりいいかなとは思ひました。

次に、広く無作為抽出とはまた別にリストを作るとか、名簿を作るとかということは、せつかく手を挙げてくださっている人がいて、その情報をもっと積極的に活用してもいいのではないかなと思ひますが、皆さんいかがでしょうか。個人情報の保有に気をつけて、委員がおっしゃったように、ある程度時限つきで、1回手を挙げたら永遠にそれが使われるということではなくてというふうに、ある程度載せて作ってもいいのではないかなと思ひます。

そもそも論で、すみません、私も少し勘違いしましたがけれども、今回の提言は、あくまでも、資料の1ページ目、資料の1と右端に書いてあるところを御覧いただくと、あくまでも市長に出す提言、答申という形で出すもので、これはおっしゃられたように、いきなりホームページにこのまま提言が載るということを必ずしも意味していないということですよ。

○事務局 行政経営懇談会の資料としては掲載されます。

○座長 行政経営懇談会の資料としては載る。それは、市民であれば誰でもホームページにアクセスできる。

○事務局 市民に読んでいただきたい資料として載るわけではないということ

です。ですから、先ほど私申し上げたのは、行政経営懇談会の配付資料として載るところに解説を入れるというよりは、今後の取り組みとして、市民参加などについて積極的に広報だとか、報告書をまとめるだとか、これは例ですけれども、そういうことをやる一環で、例えば、行政経営懇談会のページに資料1とかで載っているものとは別に、市民参加の推進みたいなページの中にこの提言を載せて、ただその提言だけだと市民にとっては分かりにくい。そのページ自体は市民向けのページなのですけれども、そのときに解説というようなことができるといいと。それは速やかに出るのは行政経営懇談会の資料なので、それをぱっと見る人が、先にこれを見る人がいる可能性というのは当然あるかなと思います。

○座長 という状況だそうですが、よろしいでしょうか。要するに、提言書そのものの中には、用語集は入れないということだと私は理解したのですが。

ただ、今後この提言を受けてどうするかということは、当然、市役所として何らかのアクションを起こすわけですから、そのときにはきちっと解説をつけてということですね。

○事務局 事務局からもう一点補足させていただきます。資料と会議録については、つくば市のホームページで総務部総務課がまとめている会議録の公開というページがあって、そちらで基本的公開されています。それと別に、行政経営懇談会単独でホームページを持っておりまして、各会議の日程や傍聴者数、資料と会議録などを掲載している状態です。

○座長 なので、アクセスは容易であるということです。よろしいでしょうか。

それから制度のことではございますが、特別制度をつくれというよりは、また、御本人が委員になっていることをオープンにしたいケースもある可能性もありますので、希望すれば、市から所属長に、手続を取る際に御配慮いただくというような形で書くことであれば、市の側も難しくなく、すぐにもできるということではないかと思いますが、それを提言書の中でどうい

う表記をするかとなると、私はやはり市民委員に参加しやすい職場にも環境を整えるように広報していくみたいな感じもあってもいいのかなとは、具体的に制度をつくるということには踏み込まないのですけれども、より喚起するとか、そういう形かとは思いますが、いかがでしょうか。

ほかに、何かございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○座長 よろしいですか。それでは、今頂いた御意見をもとに、本日、御提案させていただきます資料1は、決定させていただきたいというふうに考えております。この行政経営懇談会の方々、全員メールで資料をお渡ししている、それとも郵送。

○事務局 メールと郵送と併せて送付しております。

○座長 本来ですと、軽微な修正でしたら、最終的な提言書のまとめは私に一任していただきたいと思っはいたのですが、今日いろいろな御意見も結構出ましたので、一度、メールもしくは郵送で時間を限らせていただくこととなりますが、見ていただいて、最終的な、ただ、いろいろな方がいろいろな御意見言ったときの最終的な判断は私に御一任させていただくということにして、今日の案であとは私に一任ではなく、もう一度見ていただきたいと思うのですが、その時間的余裕は事務局のほうにございますか。

○事務局 はい、あります。すみません、先ほど挙がっていた中で、どう取り扱うか明確化されていないのが一つ残っているかなと思ひまして、数値目標の設定です。それをどう書くかは、恐らくもう少し御意見頂いたほうがいいかなと思ひました。

○座長 数値目標を挙げてという点について、御意見いかがでしょうか。

○事務局 イメージとしては、例えば、オープンハウスをやります、パブコメをやります、市民からの意見の数を200件目指すみたいなものを最初に掲げて、その200件の達成に向けて、足りなそうだったら途中で増強するような場

所を何か所かに増やしたりだとか、場所を変えたり、パブコメやっているの  
でお願いしますみたいなことをやったほうがいいという趣旨ですね。

○委員　そうです。

○座長　いかがですか。それでは、委員。

○委員　数値設定というようになると、それを追い求めてしまうというか、あ  
とは幾らやってもなかなか集まらないものというのもあると思います。もの  
によっては、逆にそれが足かせになってしまうケースもあると思うので、な  
かなか書き方が難しいかなと。ものによって、適切なものであれば、そうい  
う数値目標というののもあっていいのかなとは思うのですけれども、そこは対  
象をじっくり検討した上で適切なものを設定していかないと、ちょっと難し  
い。例えば、パブコメとかであれば、これは数値目標というのはすぐわない  
のではないかと思いますし、その辺の検討が必要になってくるのではないかと  
は思います。

○座長　ほかに、いかがでしょうか。

○委員　私のほうも、委員に賛成で、やはり無理にでも数値目標を定めてしま  
うと、それを達成するということが目標になってしまって、本来の趣旨から  
外れてしまうような気がするので、数値目標を取られるとしても、全部にじ  
ゃなくて、どれをとというのが、適切に選ぶことが必要かなと思います。

○座長　ほかにいかがですか。そうですね、パブコメに数値目標というのはな  
じまないと思いますが、一方で、何かアリバイ証明的に意見を募るというこ  
ともあまり望ましいことではないので。一つは、意見を求めるときには、少  
しでも多くの意見を集められるような工夫を今後はすると。そのときに、時  
間とか場所の設定も柔軟に対応できる。変更を考えるということもあるみた  
いなことを考えて、数値目標という言葉自体は避けるということではいか  
がでしょうか、よろしいですか。

ほかに何かございますか、事務局のほうよろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○座長 それでは、先ほども申し上げましたけれども、皆さんありがとうございました。ただいま頂きました御意見をもとに、事務局が再度、提言案を修正させていただき、皆様のほうに修正案を御覧いただいて、最終的には私のほうに一任させていただくという形でまとめさせていただきたいと思います。ありがとうございます。

それでは次に、議事の２番目、スーパーシティ基本方針について移らせていただきたいと思います。

では、ここで一度事務局に進行をお返ししたいと思いますので、どうぞ事務局よろしくをお願いします。

○事務局 ありがとうございます。それでは、ここから議事の２、スーパーシティ基本方針についてです。

以降なのですが、この議事の２につきましては、政策イノベーション部スマートシティ戦略室の担当が御説明と進行を務めさせていただきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

○事務局 私から御説明させていただきます。

行政経営懇談会でスーパーシティの関係の議論をさせていただくというのは、前回お認めいただきまして、それを踏まえまして、今回、それから次回２月26日を予定しておりますけれども、２回に分けて御議論いただければというふうに思っております。

まず段取りについて、先にお話ししたいと思います。状況としましては、内閣府に対する申請の締切りが３月26日なのでありますが、申請書そのものについて議論していただくというのは、あまりなじまないのではないかとということで、申請書を作るに当たって参考とすべき基本方針案を、まず市のほうで策定しまして、この案に対していろいろ御意見を頂いて、御意見頂いた内容を反映したセット版の基本方針、これを市として出すと、このセットさ

れた基本方針に基づいて内閣府に対する申請書を作成して申請すると、そういう段取りを考えております。

この行政経営懇談会については、今回の第4回で、まず基本方針案について既に資料をお送りさせていただき、既にお目通しいただいているかもしれませんが、簡単に私のほうから補足で説明をさせていただいて、まずこの案について御議論いただくと。

次回については、今日、私からの説明などで少し理解が変わる、あるいは新しく基本方針案ではなくて、基本方針、ほかでもいろいろ意見を聞くので、その案がとれたバージョンについてもう一度御意見を頂いて、さらに修正をした上で、最後を固めるということを考えておりますので。その2回、今回頂いたものを、また第5回のときにお示しして、そこから、そのままなのか修正するのかというようなことで、行政経営懇談会のほうでは意見を頂ければと思います。

ちなみに、この行政経営懇談会以外の意見の聴取としましては、既に1月22日から1か月間の期間でパブコメがかかっております。本日お配りしているのは、そのパブコメの資料と全く同じものでございます。それから、これは市民の代表としての議会ですけれども、1月18日に全員協議会という、議会の全議員が参加して、プレス、報道機関も入る会議がございますけれども、そちらでやはり御説明をさせていただいております。さらに、これは来週の火曜日から始まるのですけれども、市役所の本庁舎1階、それからイーアスにおきまして、オープンハウスという形で市民の意見を聴取する機会をつくりたいというふうに思っております。そちらは基本方針案について、置いて読んでくださいというのはあまりに分かりにくいので、基本方針に基づいてパネルを作成しまして、具体的に、例えばこういうサービスというのが今検討されていますというようなことをお示しして、本庁舎には市役所職員いないので、紙に意見を書いていただいて入れていただいたり、後で、メールで

送っていただいたりするような形式ですけれども、イーアスには職員が常駐しておりますので、そこで職員と直接意見交換をしていただくと、もちろん意見交換の内容はしっかり記録をして、後で公表をさせていただく予定でございます。

それから、さらに住民説明会というのを予定しております。こちらは、コロナの関係で、特に茨城県の緊急事態宣言が、本日また延長されることが決まっていたけれども、その影響を受けて、本当であれば、いろんな地域、4か所の地域で対面とオンラインのハイブリッド式で行った上で、地域全体の住民の方を対象にしたオンライン、合わせて5回行う予定だったのですが、今の時点で開催を確定したのは、15日のオンラインの1回でございます。残りの4回については、中止ではなくて延期という形にさせていただいておりまして、これが内閣府の申請の前に開催されるようでしたら、そこで頂いた御意見なんかも基本方針に反映させていきたいということで、複数の意見を頂くような機会を設けていますので、行政経営懇談会で頂いた意見だとか、パブコメで頂いた御意見だとか、あるいは住民の方から直接窓口に来られて頂いた御意見だとか、複数のものを反映したものを、また第5回にお示しするということになります。まずは、段取りについて、少し長くなりましたけれども、少し丁寧に御説明させていただきました。】

それでは、資料に沿って御説明したいと思います。

#### 【資料3に基づき説明】

長くなりましたけれども、私からの説明は以上になります。

先ほどのスーパーシティに入る前の段階で、実は20分ぐらい遅れていた関係で、全体が押しているのですけれども、8時に終了というのは一応厳守でやりたいと思います。もしかすると5分ぐらい過ぎるかもしれませんが、この後、自由に御意見頂ければと思います。よろしくお願いいたします。

個別の内容についてでなくても、全体として、そもそもこのスーパーシテ

ィというのはけしからんとか、むしろ個別の内容ではないけれども、つくば市のためにはやったほうがいいだとか、そういうような大きな意見でももちろん結構ですので、ぜひ頂ければと思います。

○委員 よろしいでしょうか。聞こえていますか。

○事務局 聞こえております。どうぞ。

○委員 少し気になった点があります。遠隔地なので、ぱっと話させていただきます。冒頭で申し訳ないのですが、気になった点です。

まず、一つ気になったのは、この方針の中で、冒頭で、誰ひとり残さないというのが一つのポイントになっていると思うのです。ところが、対象地域は四つの地域ということは、その地域以外の人たちは取り残されてしまうのではないのでしょうか、それは実験なののでしょうか。この地域だけを行うのかというのがちょっと気になりまして。

あとは、ちょっと気になったのは、皆さんもいろんな意見出てくると思うのですが、年配の方にスマートフォンということなのですが、年配の方、スマートフォンを使うのは、これからやるのは相当困難が伴うのではないかと思うのです。せいぜいタブレット、大きなものでないと使いこなせないし、しかも簡単に使える形にしないと難しい部分があるのではないかなと。高齢者にはロボットも使われていますので、例えば、コミュニケーションロボットとか、あるいは見守りＡＩロボットやっているところがあります。こういったものの活用のほうが、効果が高いのではないかという気がしています。

それから、全体的に高齢者には、今はやりのレジリエンス、回復して成長させるという高齢者への意識を鮮明にしたほうがよろしいんじゃないかなと思いました。

最後に、一方的で申し訳ないのですが、横串を入れる中で、スーパーシティ構想にお金の決済の問題が抜けているのです。前もちょっとお話ししたのですが、もし、こういったものを行うのに地域デジタル通貨を入れて、様々

なサービスをそういったもので支払いとか決済とかできる構想なども入れられたらいいのではないかなと。お金はかかるかもしれないのですけれども。さらに、有名な方が言っていますが、イニシャルコインオファリング、ＩＣを、仮想通貨なども入れて資金調達をやって、市民に使ってもらおうという、そういった次元まで伸ばしてもいいのではないかと思います。

○事務局 ありがとうございます。今４点頂いたと思いますが、そのうち二つは御意見だと思っております。年配の方はスマホが難しいので、ほかに使いやすいタブレットだとか、あるいはコミュニケーションロボット、見守りロボットのほうがいいのではないかと、これは御意見として承りました。

それから、もう一つの御意見は、決済について、地域デジタル通貨だとか、仮想通貨というようなものを導入するのがいいのではないかと、これも御意見として承りました。

それで、一つ御質問があったかと思うのですけれども、４地域外が取り残されるのではないかと。これは、すみません、先ほどの私の説明に漏れがあったのですけれども、この４地域については、３月末の内閣府に対する申請の段階では、この地域に絞りたいというように思っておりますけれども、これは実験ではなくて、実装していくということがこのスーパーシティの狙いではあるものの、この地域で実際にやってみて、このサービスが、例えば、とてもいいだとか、これはコスト的にあまり合わないだとか、そういったことが見えてくるというのはあると思います。あとは、ほかの地域の方々から、宝陽台であって、これはうちにも導入してほしいというような声も徐々に出てくる可能性もございまして、そういったものについては、どんどんほかの地域にも展開していくということを考えております。

ただ、プロセスとして、少し細かい技術的な話になるのですけれども、内閣府に対して申請書を出した後に採択された場合には、つくばにおける区域会議というものが立ち上がるのですけれども、この区域会議でまたエリアが

決めていく。このエリアに限って規制緩和をします、というようなことを決めるのです。ですので、例えばですけれども、小田でなくて、また別のところでやりたいというときに、すぐにできるかというところではなくて、また区域会議の中でその地域でやることの是非を問うて、さらに先ほどステップの説明抜けましたけれども、この地域でやるべきかどうかということ、最終的にはその地域にお住まいの方々の、例えば、住民投票などによる意見を聞いた上で決めるのですけれども、そのプロセスをまたあつて、その地域に展開するときには取る必要があると思うというような感じですので、将来的には横展開して、この地域だけ特別ということには当然ならないようにするのですが、そのときに、すぐにできるというよりは、一つ一つプロセスを追っていかねばいけないのがこのスーパーシティの制度であるということをお理解いただきたいと思います。

一つ、すみません、レジリエンスのところですね。これは、高齢者のレジリエンスというのは、災害からの回復とかという意味じゃなくて、具体的にどういうものをイメージされておっしゃられましたでしょうか。

○委員 すみません、概念として、こういう取り組みは、高齢者のいわゆる回復、弱っている人たちとかそういうものを、弱っている人をさらに元に戻すという考え方ですね、それで成長させるというか、生きる喜びを与えるというような形の宣言も必要なのではないかと。全体を見ていると、やはり弱い人たちを助けるというようなものが支配的になっているような感じがするのです。困っている人たちを何とかしなければいけないというか、そういうところでした。

○事務局 なるほど、分かりました。ありがとうございます。それも御意見として承らせていただきたいと思います。

一つ、参考で申し上げますと、これは、地区は特定しませんが、ある区会の方とお話をしていたときに、うちの区会は、お年寄りの方がずっと家にいる

と。家にいてテレビを見ていて、独居の場合、誰も話す相手がいないという状況でかなり心配している。例えば、簡単に使えるタブレットみたいなもので、近所の人と簡単にワンタップで、そのとき話したい人がいれば出てきて、誰々さんこんにちはみたいな、ちょっとそっちに今から行くわね、というようなことで、オンライン上での会話がきっかけになって、実際に友達の家遊びに行くだとか、あるいは近くの公民館でやっているイベントに足を運ぶだとか、そういったことができるといいよねというような御意見も頂いております。

今おっしゃられた回復ですね。ずっと家にこもっていて動かない状況だったのを少し出るようにするということころも、恐らく委員おっしゃられたような趣旨の中に入るのかなというように思いましたので、御意見として承らせていただきます。ありがとうございます。

ほかの方いかがでしょうか。順番で、委員から先に。その後、委員。

○委員 こちらの先端的サービスの実装の中では入っていないのですけれども、私は教育も大切だと思っていて。というのは、コロナ禍で緊急事態宣言のときに一斉休校をされたときに、小学生のお子さんを持つ方も何人かおられたのですけれども。学校の課題というのはホームページからダウンロードしなくちゃいけないと。それを紙に印刷して、それを親が見守って、学校が決めた時間割に沿ってそれをやって、それを学校に持っていかななくちゃいけないと。家にプリンターなどがなかったり、ネット環境が整っていなかったりする人は、学校が印刷したものをくれるけれど、ということでした。親が、主にお母さんたちですけれども、非常に大変になってしまって。私の同僚は、たまたま特別休暇がとれる職場だったからよかったのですけれども、そうじゃないところでは、もしかしたら仕事を辞めなければいけない親御さんたちもおられたらうし。オンラインの授業ということをやっているのに、実際はオンラインじゃないところの仕事が非常に増えてしまって。学校のほうも

非常に混乱しているらしくて、何もお知らせがなく、ホームページ上で課題がいきなり訂正になっていて、宿題として子供に解かせた分をもう1回やり直しさせなくちゃいけなかったという、そういう混乱とかも起きているので。こういう先端的なことももちろんとても大切なのだけれども、足元で、小中学校のそのレベルで困っている人たちがいるので、そういうところもちょっと盛り込んでいただければいいかなと思いました。

○事務局 どうもありがとうございます。教育については、いろいろシステムの、1人1台端末が導入されてあって、これはシステムの部分でかなり追いついていないところもあるかと思うので、その辺りについても考えていきたいと思います。

○委員 まず、この四つの地域に先進的サービス実装というのがあるのですけれども、五つ項目があって、全てを導入していくという形があるのか、それとも要は順番を追ってやりますよとやっているのかというのがまず質問の一つで。

意見として、高齢者向けのスマホとかタブレットとか、さっきから配るとか配らないとか言っていますけれども、今、セコムさんとかアルソックさんとかが見守り安全サポートみたいなので、ボタンを押すとセコムさんにつながりますというのがあると思うのですけれども、ああいうのと一緒にサービスとしてやって、セコムさんじゃなくて、厳しいかもしれないですけれども、市役所の公務員さんが夜間対応する人とかいる、そういうのであったりして、話す機会をもっと増やしたほうがいいのかなと思うのです。タブレットだと字だけだし、配るにしてもなかなか厳しいし。それがあれば、高齢者の方と子育て世代の人が一緒に暮らしてあれば、それ1台で何でもそろうような気も、何でもそろうというわけではないですけれども、それから教育、防犯につながるし、いろいろな意味で、そのほうがよろしいじゃないのかなと私は思いました。

○事務局　ありがとうございます。一つ目の御質問については、非常に大事な点でして、これ全部を一つのそれぞれの地区でやるということは考えていないのです。この地区ごとに、恐らくニーズ、課題あるいは好みのようなものがあるかもしれませんし、変わってくると思いますので、その辺りをそれぞれの地域の方々と直接の意見交換を通じて、優先順位を特定していきたいなというふうに思っております。

一方で、例えば、それぞれの地域で導入されているものの進捗を見ながら、1か所では全部、ほかの地域でやられているものも含めてやるということも考えているところです。つくば駅周辺のまだこれから開発されるようなところですね、これから住居なども整備されていくようなところなどが候補としては今考えられておりますけれども、そこでは全部やるという2段構えで考えています。

2点目の御意見については、非常に重要な点だというふうに思います。ありがとうございます。

一つ申し上げますと、例えば、全てタブレットを配って、そこでサービスを受けられるので、それ使ってくださいねということは非常によくはないなと思ってまして、コミュニケーションが減ると思います。例えば行政サービスもデジタル化していきましようといったときに、なぜデジタル化するかというと、そういうような遠隔の方なんかは、遠方の方などを中心に利便性を上げるということもあるのですが、市役所側の業務負担というのも下がる可能性が同時にあるのです。これは私も市役所にいて、常々課題だなと思っているのが、市役所職員がふだんの淡々とした事務作業に追われて、市民の方々の直接お話をする時間がなかなかとれない、あとは、本当に大事なことで何なのだろうということを、例えば、三、四人でブレインストーミングというか、議論するような時間というのを1日に1時間ぐらいあったほうがいいのではないかな。自分で持った問題意識について、自分で調べものを

するとか、そういう時間が今全然ないので。ですので、この行政サービスのデジタル化みたいなものを進めることで職員の事務負担が減れば、市役所職員をもっといろんな周辺地区に足を運んで、直接お話しするような機会というのも同時に増えるのではないかということで、まさに、今頂いた御意見というのは参考にします。ありがとうございます。

ほかに、いかがでしょうか。委員、お願いします。

○委員 質問が2点あります。スーパーシティ基本計画というこの計画は、およそ何年で達成しようとか、そういう計画があるのか、例えば、これだけやるのに100年かかるとか、それだともう生きていないので、ちょっと嫌だなとか思ったりするので。

あともう一つは、予算です。やはり国の補助金が認定されると出るのではないかなと思うのですが、やはりそれだけでは全然足りないから、どれだけ市の予算をここに投入するか。例えば平等性を考えて、同じ税金なので、該当する地区の人と、地区以外の人との平等性を図るために、やはり皆さんのこの機能を使う方が利用料を払ってもらいますとか、そういう形になってしまうと、せっかく便利になっても、つらくなってしまう、高齢者は年金しかないのにどうしようとか。そういうところは、どのようにお考えかなとお聞きしたいです。

○事務局 御質問ありがとうございます。まず、期間については、2030年に、ここに書いてあるようなことがおおむね全て達成できるというようなタイムスパンで考えています。もちろん、順次できることからやっていって、最後に2030年にここに書いてあることができるようになるというのを目指しております。

予算については、今決まっているのが、採択された場合、これ採択は、大体5月か6月ぐらいに決まるというようになっているのですが、全国から5地域だけ採択されるというように言われていまして、参考にですが、こ

の間、内閣府が自治体向けに開催した説明会の参加自治体数は90ぐらいあります。ですから、かなり競争性があるような公募だなというように思っていますが、これで採択された5自治体、地域に関しては、今決まっているのは、内閣府から来年度1億円プラスアルファが配られる。このプラスアルファというのが、内閣府は、本年度の補正予算と来年度の当初予算というもので、合わせて10億円取っているのですけれども、このうち2億円をまず内閣府が自分で使って、残りの8億円を5地域で分ける。5地域に最低1億円配って、そうすると5億円なので、残り3億円なのですけれども、その3億円をその取り組みの内容に応じて重点配分をしていくということで、そうすると、理論的には1億円から4億円の間の範囲内で配られる。

ただ、ここに書いてあるようなことは、そういう規模の金額ではできるわけではなくて、数十億円とか数百億円とか場合によってはかかってくるのかもしれません。ですので、国のお金は、まず当てにはできないということです。

ちなみに、内閣府以外のこういう取り組みに積極的な国交省とか、総務省とか、経産省も独自の補助金を持っていて、それを採択された場合には、優先的に配られるようになるとはいっています。

それで、一体どうするかというと、いろいろなものを組み合わせていく必要があると思っています。それで、ほとんどについては、行政が本来やるべきことなのですね。行政が本来やるべきことを、たまたま先端技術を活用して住民に提供するというものなので、行政がやるべきことが多いのですけれども。じゃあプラスアルファの予算があるかというと、当然ないわけなので、それについては、既存の予算を活用していくことになると思います。例えば、インフラの管理みたいな話でいうと、今、道路を直したりだとか、道路をどこが壊れているかという目視でチェックしたりだとか、そういったところでも予算を既に使っているわけなのですけれども、そういった予算を使ってい

る。あるいは公共交通であれば、例えば、つくバスとか、つくタクとかありますけれども、そういった予算を法律化できるのであれば、先ほどの自動運転の車椅子だとか、そういったところに振り分けていくというようなことで、第一に既存の予算を活用していくというのがあります。

さらに、もしかすると民間ベースでビジネスができるようなことというのがあるかもしれません。例えば、買い物サービスなんかであれば、今も民間の企業がサービスの一環でやっていますけれども、本来、買い物に行って運ぶのが大変だった、5,000円以上買い物したら無料で配達しますよとやっているスーパーもありますけれども、そういった民間のサービスの延長線上で、特に行政が負担することなく提供されるサービスというのものもある。

さらに、その中で、民間が提供するサービスであったり、行政が提供するサービスであったり、どちらの場合でも、利用料を頂く場合というものもあると思います。これは、例えば、バスに乗るときも、つくバスや、つくタクでも一部負担をいただいていますけれども、そういうような形でいただくものもあると。

最後に、最近いろいろこういうやり方について注目が集まってきているのですが、ソーシャルインパクトボンドというやり方がありまして、これは公共的な目的で、例えば、こういうサービスがこのまちにできるといいねというような目的に賛同した人が、少しずつ出資をして、場合によっては、これがビジネスとして成功するということもあり得るのですけれども、そのときには、出資した金額に対して報酬といいますか、投資運用益が得られると。その出資をする人というのは、会社とかもあるかもしれませんが、住民の方も含めて小額から投資をすることができる。そういうものを集めて、そのお金でこういうサービスを提供して、最終的にもし増えたら入ってくるし、増えなかった場合でも、サービスが実装されたからいいねという場合がありますし、いろんな手口があり得るのですけれどもというような、ソーシ

ャルインパクトボンドというのも一つの資金の原資としてできないかというのを考えている。

ありがとうございます。それで幾らかかるかというのは、未定です。いかがでしょうか。

失礼しました。委員、お願いします。

○委員 すみません、あと3分ぐらいになってしまったので、私、高齢者なので、ここに挙げられているものを見ると、目標の2030年に、まだいろいろお世話になれるなとは思っているのですが。事前にこれを送付していただいて、また今日、詳しい説明をしていただけたので、もしできましたら、次回までというか、日にちを区切って、私がこれに関して感じたこととか思ったことを書いて送らせていただくことってできますでしょうか。

○事務局 もちろんです。期限は特に設けずに、自由に御意見頂いたほうがありがたいので、いつのタイミングでも御意見頂ければと思います。

○委員 分かりました。約50年近く前に、筑波研究学園都市ができたときに越してきた身としては、国からの補助金とか助成金でできたもの、それをうまく活用というかな、継続的にメンテナンスをしないで来てしまった今の状況があるので、こういうものを受けたとしても、それを今度、いかに継続して20年、30年、それこそ50年、住みやすいまちをどう維持していくか、そこまで考えられないといけないのではないかなと思っています。以上です。

○事務局 どうもありがとうございます。その辺り、単発の取り組みではなくて、単発の取り組みばかり実証実験レベルでやってきたというのも反省として、つくば市としては考えておりまして、例えば、ロボット関係の実証実験いろいろやっていますけれども、全部、単発なのです。ですから、このスーパーシティになるに当たっては、いかにお金の面も含めて持続可能な仕組みにできるかというのが大事だと思いますので、その点をしっかり御意見として承りました。ありがとうございます。

では、ほかの方いかがでしょうか、最後に、事務局からの説明はありますか。

○委員 こちらの先端サービスの実装というのをを行うに当たって、人を増やすという予定はあるのでしょうか。といいますのは、例えば、医療とか介護、こちらを実現しようとしたときに、既存のままでするのは、今も医療のところでは人手不足、コロナのせいで過重労働になっているところ、その人たちがしなくてはいけないことにすると、無理があるかなと思うので、このスーパーシティ構想というのをもし採択されたら、そのために専従の人を採られるという予定があるのですか。

○事務局 市役所の中の体制の話ですね、市役所の職員のことによろしいですか。新しく雇うかどうかは分からないといいますか、今のところ、そのための予算は取っていないのですけれども、体制としては、専従が数名、今、状況としては、スマートシティ戦略室というところが中心になって、一方でそこがただやっても、実際に関係してくるのは現場の職員なのです。ですので、スマートシティ戦略室というところが中心に現場の担当課も巻き込みながら今やっているところなのですけれども。例えば、インターネット投票であれば、選挙管理事務局だとか、道路の状況だったら道路管理課だとか、お年寄りの関係だと高齢福祉課だとか、そういったところの職員もここに入ってディスカッションはしているのですけれども、今、体制としては、スマートシティ戦略室の人数が13名で、そのうち専任が1人なのです。これを来年度に、まだ人事の関係があるので申し上げられないのですけれども、専任の数をもう少し増やした上で、関係してくる課の人たちも専任という形で入ってもらって、より組織的にこれを進めていくということをやって、それで13人と言ったのですけれども、1月末までに13人なのですが、2月1日付で1人専任、残り全部兼任ですけれども、今22人。

○委員 ありがとうございます。私としては、今でも皆さん十分お忙しいと思

うので、過重労働にならないようにしていただければと思います。

○事務局 ありがとうございます。足りない分は私が一生懸命やりたいと思います。皆さん、その辺りはしっかり管理者として考えていただくというのを最優先にさせていただきたいと思います。

時間が迫ってきてしまったのでございますが、3分超過しておりますので、最後一つだけ。

○委員 一つだけ、実際にプランを進めていくときに、協議会、産学公40機関加盟とあるのですが、いわゆる官と民のすみ分け、役割分担それはもちろん経費の点もそうですけれども、あるいは情報の取り扱いですとか、その辺りについての整理というのは、どの程度できているのでしょうか。

○事務局 今、ここに書いております民間事業者のコミットで、スマートシティ協議会40者ということですが、この紙を作った段階では、民間企業なんかも入ったことについて議論する場というのが協議会だけだったものですから、今これを書いているのです。ちょっと紛らわしいのですが、これとは別にスーパーシティに特化してつくば市と組みたいというふうにおっしゃってくださっている大学ですとか、個別研究開発行為だとか、民間事業者の方を12月中に募集したのです。先日、選考委員会をやりまして、51事業者が採択されております。つくば市とその51事業者、大学だとかも含めまされども、が集まって、このスーパーシティについて、今後、内閣府への申請を進めていくことになるのですけれども。例えば、住民の方々の情報などは、その51者に選ばれたからといって自由にもらえるわけでは当然なくて、これは市役所が管理していくということが大前提になりますし、例えば、民間企業の方からお預かりしているような企業の情報、これも自由に共有されるというわけではなくて、ここの事業者とここの事業者がコラボレーションすると、こういう面白い事業ができるのではないかと市が考えたときには、複数者を集めて協議した上で、お互いどういった技術を持ってい

る、どういうことを考えているのかということ共有するということはやったほうがいいと思いますけれども、市のほうでしっかり遵守してやっている状況です。

あとは、例えば、個人の方がサービスを受けるときに、複数の事業者がまたがるようなところで、先ほど、病院を予約して全部引き継ぐという話だと、複数の事業者間でその方のいろんなデータが共有されるということがありますが、これについても、データはこのデータ連携基盤という黄色で書いてあるところを通じて共有するのですが、これもその書いている事業者が誰でもアクセスできるわけではなくて、そのサービスを受けたいと思われた住民の方がしっかり同意をした場合に限って、限定された事業者間で共有されます。セキュリティーの担保もしっかりできるように考えているところで、お答えになって。

○委員 最終的には、サービスは、これは全部マイナンバーで紐づくような形で管理されるようなイメージなのでしょうか。

○事務局 マイナンバーの普及の度合いにもよるかなと思ってまして、マイナンバーが普及している前提であれば、マイナンバーカードを活用することで個人の認証だとか、いろんな共有がやりやすくなったりするかもしれませんが、必ずしもマイナンバーカードがマイナンバーで全部紐づけしていくというのが適切かどうかというのは分からないので、その辺りも引き続き考えていきたいと思っています。それが前提になっているわけではないです。

では、皆さん、全員から御意見を頂く時間が取れなくて大変申し訳ありませんけれども、先ほど委員に申し上げましたとおり、事後、御意見頂ければありがたいです。例えば、次26日なので、25日に頂くと反映はできないのですけれども、なかなか難しいのですけれども、特に締め切りは設けませんので、ぜひ御意見頂ければなというふうに思います。頂いた御意見は、パ

ブリックコメントだとか、その他の手段に頂いた御意見と併せて基本方針の改訂版のほうに盛り込んでいきたい。基本方針案の修正案のほうにと考えております。

御議論ありがとうございました。司会を座長にお返しさせていただきます。

○座長 以上で本日の議事を終了いたしました。

そのほか、事務局から連絡事項はございますか。

○事務局 連絡事項として、第5回の御案内になります。第5回つくば市行政経営懇談会の日時ですが、3週間後です。2月26日の時間は6時から8時を予定しております。会場は本庁舎の2階、防災会議室ということで、こちらの会議室の隣の部屋になります。よろしくお願いいたします。

先ほどは、スーパーシティということで意見、後ほどということでしたが、市民参加の御意見、スーパーシティの御意見を含めて、企画経営課の事務局のほうに、メール等、お電話でも、お手紙でも大丈夫ですけれども、御意見頂ければと思います。

それから、最後ですが、本日の帰りですけれども、正面玄関は6時で閉まっております、北側の通用口を御案内させていただきますので、そちらからお帰りいただくようになります。よろしくお願いいたします。

○座長 ただいま事務局から、日程について連絡がありましたけれども、何か御質問等ございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○座長 よろしいですね、それでは、本日予定しておりました案件を全て終了いたしました。以上で本日の行政経営懇談会を閉会といたします。御協力ありがとうございました。ウェブで御参加いただいた方、どうもありがとうございました。

《終了》

## 令和２年度（2020 年度）第４回つくば市行政経営懇談会会議録要旨

議事（１）令和２年度（2020 年度）つくば市行政経営懇談会提言（案）について

|   | 意見等                                                                                                                                                                                                     | 対応等                                                                                                                                    |
|---|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | <p>アンケート行う場合、人口に対して何パーセントという目標サンプリング数を最初に設定したほうが、より多くの市民の意見を集められるのではないか。</p> <p>また、当初設定していた場所で意見を集めることが難しい場合には実施場所を変更するなど、柔軟に対応すると良いのではないか。</p> <p>数値目標を設定し、それを達成すべく適切な収集方法と柔軟な対応をとることが求められるのではないか。</p> | <div> <p>■提言の追加を行わない</p> </div>                                                                                                        |
| 2 | <p>手法等によっては、数値目標の設定が足枷となる場合がある。対象を検討した上で設定していかなければ難しいのではないか。</p>                                                                                                                                        |                                                                                                                                        |
| 3 | <p>何にでも数値目標を設定すると、それを達成することが目的となり、本来の趣旨と離れてしまう可能性がある。</p>                                                                                                                                               |                                                                                                                                        |
| 4 | <p>市民委員については審議会等ごとに小論文や面接等により選考を行うか、無作為抽出による委員等候補者名簿から依頼を行っているが、市民委員をやってみようと手を挙げた人たちを登録、データベース化し、その中から各審議会等に参加いただくという人選の方法もあるのではないか。</p>                                                                | <div> <p>■提言に追加する</p> <p>５ページ、「５ 提言」</p> <p>③の２つ目</p> <p>参加を希望する市民の情報をもっと積極的に活用するため、リストを作成しても良いのではないか。なお、その際はある程度時限的な登録とする。</p> </div> |

|   |                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|---|----------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 5 | <p>市職員は生活者でもあり、市民としての考え方や立場と業務との板挟みになり、大変かと思う。もう少し職員の本音を施策にうまく反映できると、市民よりの発想が出てくるのではないか。</p> | <div data-bbox="874 226 1331 443" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>■提言に追加しない</p> <p>提言書には反映されないが、今後取組を進める上での検討課題とする。</p> </div>                                                                                                                                                            |
| 6 | <p>体裁について、なぜ①～③の三点に絞って検討しているのかというところの言及がない。3の「現状と課題」か4の「検討」で補足すると読みやすいのでは。</p>               | <p>【事務局提案】</p> <p>案1：「現状と課題」に若者の参加率が低いというバックデータを載せる。</p> <p>案2：検討の書き方として、大前提は解説しないが、「主に審議会等の市民委員の参加について協議を行った。この協議を踏まえ、①～③の特にこの三つについて、つくば市における～」とする。</p> <div data-bbox="874 1019 1331 1236" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>■提言書を修正する</p> <p>3 ページ、「4 検討」</p> <p>事務局案2のように修正。</p> </div> |
| 7 | <p>5の「提言」①の三つ目で希望分野に関する選択肢の追加を記載しているが、現状を知らずに提言書を読む人がいると思うので、現状と変更後の内容について記載したほうが良いのでは。</p>  | <p>【事務局補足】</p> <p>提言書は行政経営懇談会から市長に提出するものであり、市民向けのものではないが、例えば、提言書の中で文言の補足は行わないが、市のホームページに掲載する際に補足的な説明や提言の解説をつけるという方法はある。</p> <div data-bbox="874 1713 1331 1977" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>■提言書の修正は行わない</p> <p>提言書そのものに付記等は記載しないが、提言書がホームページ等に掲載される場合には解説等を追加する。</p> </div>          |

|    |                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 8  | <p>5の「提言」①の最後の文について、ジェンダーバランスや居住地等に偏りがないよう配慮するという一文を追加するという意味がわからない。必ずしも偏りがないということだけを追求する必要はなく、特定の層から選ぶ必要がある場合もあるのではないか。</p>                                             | <div data-bbox="874 226 1331 537" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>■提言を修正する<br/>4 ページ、「5 提言」<br/>①の4つ目</p> <p>必ずしも偏りがない状態にする必要はない。</p> </div>                                                                                                                                                           |
| 9  | <p>仕事を持っていると昼間の会議は休暇を取得しなければならない。裁判員制度と同様に市の市民委員として会議に参加する場合は特別休暇を使えるというような制度があると良い。つくば市から会社や研究所等に口添えしてもらえるとありがたい。</p>                                                   | <p>【事務局補足】</p> <p>対職場で審議会等に出席するために休暇を取ることを正当化できるようにということであれば、例えば、委員から希望があった際、審議会等の担当課等から市民委員の職場に配慮していただくための文書を出すことはできる。</p> <div data-bbox="874 1019 1331 1424" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>■提言に追加する<br/>4 ページ、「5 提言」<br/>②の2つ目<br/>③の7つ目（再掲）</p> <p>審議会等の市民委員として参加しやすい職場環境のために広報、喚起する。</p> </div> |
| 10 | <p>提言書を一般の人たちが読んだ場合にわかりにくい言葉があるため、付記などの記載があると良いのではないか。</p> <p>また、自分が市民委員に参加するようになった場合には周囲の誘いや口コミがきっかけになると思う。市の広報で審議会等のコラムのようなものがあると、市民の目に触れる機会も増え、参加のハードルも下がるのではないか。</p> | <p>【事務局補足】</p> <p>提言書は行政経営懇談会から市長に提出するものであり、市民向けのものではないが、例えば、提言書の中で文言の補足は行わないが、市のホームページに掲載する際に補足的な説明や提言の解説をつけるという方法はある。</p>                                                                                                                                                                                                |

|    |                                                                        |                                                                                           |
|----|------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|
|    |                                                                        | <div> <p>■提言書の修正は行わない</p> <p>提言書そのものに付記等は記載しないが、提言書がホームページ等に掲載される場合には解説等を追加する。</p> </div> |
| 11 | 対象者の絞り込みということについては、AIやビッグデータを利用し、協議事案等に対して適切な人を選定するというのも方法の一つとして考えられる。 | <div> <p>■提言に追加しない</p> <p>提言書には反映されないが、今後取組を進める上での検討課題とする。</p> </div>                     |

議事（２）スーパーシティ基本方針について

|   | 意見等                                                                                                                      | スマートシティ戦略室<br>回答等                                                            |
|---|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 対象地域が4つということだが、それ以外の地域が取り残されるのではないか。                                                                                     | 3月末の内閣府に対する申請の段階では、4地域に絞り、進めていきたいと考えているが、将来的には横展開をして、これらの地域だけが特別にはならないようにする。 |
| 2 | 年配の方がスマートフォンを使うことには相当困難が伴うのではないか。タブレットのような大きなもの、簡単に使える形にしなければ難しいのではないか。例えば、コミュニケーションロボットや見守りAIロボット当を活用したほうが、効果が高いのではないか。 | 御意見として承る。                                                                    |
| 3 | 高齢者に生きる喜びを与える、回復して成長させる（レジリエンス）というような形の宣言も必要ではないか。                                                                       | 御意見として承る。                                                                    |
| 4 | 決済について、地域デジタル通貨を入れ、様々なサービスの支払いができる構想も取り入れるといいのではないか。さらに、イニシャルコインオフ                                                       | 御意見として承る。                                                                    |

|   |                                                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                                                                                                             |
|---|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|   | <p>ァリング(IC)、仮想通貨なども入れて資金調達を行い、市民に使ってもらうという次元まで伸ばしてもいいのではないか。</p>                                                                                                               |                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 5 | <p>先進的サービス実装には含まれていないが、教育も重要である。先進的なことも大切だが、新型コロナウイルス感染症対策で実施されたオンライン授業等で困っている人もいる。そのような点についても盛り込んでもらいたい。</p>                                                                  | <p>御意見として承る。</p>                                                                                                                                                                                                                                            |
| 6 | <p>4つの地域に先進サービスを実装とあるが、5つの項目全てを実装していくのか、それとも順を追って進めていくのか。</p>                                                                                                                  | <p>各地区で全項目を行うということとは考えていない。地区ごとに優先順位をつけて実施する。一方で、各地域の進捗を見ながら、ある地域では全項目を実施するということもあるかと思う。</p>                                                                                                                                                                |
| 7 | <p>高齢者へのタブレット配布については、セコムやアルソック等が見守りに関する製品を既に出していると思うので、そういったところと一緒に取り組むのはどうか。一台で教育や防犯にも繋げることができるのではないか。</p> <p>また、タブレットの配布というよりも、市職員が夜間対応もするなど、高齢者が会話をする機会をつくるほうが良いのではないか。</p> | <p>タブレットを配布してサービスを受けられるので使ってください、ということは良くないと思っている。コミュニケーションが大事になる。行政サービスのデジタル化となったとき、遠隔の方を対象に利便性を挙げるということもあるが、市役所側の業務負担も下がる可能性が同時にある。市役所職員が普段の事務作業に追われ、市民と直接話す時間が取れない、議論や調べものをする時間がないという現状がある。デジタル化により職員の事務負担が減れば、職員が周辺地区に足を運び、地域の人と直接話をする機会も増えるのではないか。</p> |
| 8 | <p>この方針はおおよそ何年で達成するものなのか。</p>                                                                                                                                                  | <p>順次実施していくが、2030年に資料に書いてあるようなことが概ね全て達成できる。</p>                                                                                                                                                                                                             |
| 9 | <p>認定されれば国の補助金がでると思うが、予算はどうなっているのか。どれだけ市の予算をここに投入するのか。</p>                                                                                                                     | <p>金額は未定。</p> <p>採択された場合、内閣府から来年度に一億円+<math>\alpha</math>が配られることになっているが、資料に記載してあることは</p>                                                                                                                                                                    |

|    |                                                          |                                                                                                                                                                                                                                               |
|----|----------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|    |                                                          | <p>一億円では達成できないため、色々な方法を組み合わせる必要がある。</p> <p>例えば</p> <p>①既存の予算を振り分けて活用する。</p> <p>②民間サービスの延長線上で行政が負担することなく提供されるサービスもある。</p> <p>③利用料をいただく。</p> <p>④ソーシャルインパクトボンド（公共的な目的に賛同した人たちが少しずつ出資し、ビジネスとして成功した場合は出資した金額に対して投資分の利益が得られる。住民も含めて少額から出資できる。）</p> |
| 10 | 後日、資料に関する意見を市に送付することは可能か。                                | 可能。期限はとくに設けない。                                                                                                                                                                                                                                |
| 11 | 国の補助を受けた際は、いかにそれを継続して住みやすいまちを維持していくかということを考えなければいけないと思う。 | スーパーシティになるに当たっては、予算面も含めていかに持続可能な仕組みにできるかということも大事だと思う。                                                                                                                                                                                         |
| 12 | スーパーシティが採択された場合に専従の人を雇う予定はあるのか。                          | 新規で雇用するかは不明だが、来年度は専任をもう少し増やしたうえで、関係課等の職員にも兼任という形で入ってもらう予定でいる。                                                                                                                                                                                 |
| 13 | スマートシティ協議会について、官と民の役割分担、費用、経費、情報の取り扱いの整理はどの程度できているか。     | <p>住民の情報は参加する事業所が自由に使えるわけではなく、市役所が管理するということが大前提となり、企業から預かる情報も自由に共有されるわけではない。企業同士でコラボレーションとなった場合には、協議をした上でお互いにどのような技術を持っているのかなどを共有することは行ったほうが良いと思う。</p> <p>また、個人の人サービスを受けるときに複数の事業者間でその人のデータが共有されるということがある。</p>                                |

|    |                                     |                                                                                                                                 |
|----|-------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|    |                                     | <p>データはデータ連携基盤というところで共有するが、そこには参加している事業者が誰でもアクセスできるわけではなく、サービスを受けたいと思う住民が同意をした場合に限り、限定された事業者間で共有される。セキュリティの担保もできるように考えている。</p>  |
| 14 | <p>最終的にはマイナンバーで紐づくような形で管理されるのか。</p> | <p>マイナンバーの普及の度合いにもよる。マイナンバーが普及している前提であれば、マイナンバーを活用することで様々な共有を行いやすくなるが、マイナンバーで全て紐づけていくということが適切かどうかはわからないので、その辺りも引き続き考えていきたい。</p> |

## 令和 2 年度（2020 年度）第 4 回つくば市行政経営懇談会

日時：令和 3 年（2021 年）2 月 5 日（金）

18 時 00 分から 20 時 00 分まで

会場：つくば市役所 2 階 職員研修室

### 次 第

#### 1 開 会

#### 2 議 事

- （1）令和 2 年度（2020 年度）つくば市行政経営懇談会提言（案）について
- （2）スーパーシティ基本方針について

#### 3 その他

#### 4 閉会

#### 【配布資料】

- |         |                                       |
|---------|---------------------------------------|
| ・資 料 1  | 令和 2 年度（2020 年度）つくば市行政経営懇談会提言（案）      |
| ・資 料 2  | つくば市スーパーシティ基本方針（案）                    |
| ・資 料 3  | スーパーシティ基本方針案概要                        |
| ・参考資料 1 | 令和 2 年度（2020 年度）第 3 回つくば市行政経営懇談会会議録   |
| ・参考資料 2 | 令和 2 年度（2020 年度）第 3 回つくば市行政経営懇談会会議録要旨 |



つくば市市民参加推進に関する取組の課題と対策について（提言）（案）

令和 2 年度（2020 年度）つくば市行政経営懇談会において、つくば市行政経営懇談会設置要項第 2 条の規定に基づき、つくば市市民参加推進に関する取組の課題と対策について協議しましたので、懇談会から別添のとおり提言します。

令和 3 年（2021 年）3 月 日

つくば市長 五十嵐 立青 様

つくば市行政経営懇談会委員

座長 溝上 智恵子

委員 飯田 哲雄

委員 上田 孝典

委員 上平 未枝

委員 佐藤 毅章

委員 白倉 誠子

委員 永田 孝行

委員 星埜 祥子

委員 堀 賢介

委員 水谷 浩子

## 1 つくば市市民参加推進の経緯

つくば市では、平成 30 年 3 月に「つくば市市民参加推進に関する指針」を策定し、市政への市民参加を促進するため、市民参加を「共有、理解」、「企画・立案、計画」、「実行」、「評価・検証」の 4 段階で進めるとともに、つくば市の附属機関の委員及び懇談会等の構成員の一部に市民が参加することとした。

当指針では、市民参加推進の取組が効果的に実施されているか懇談会にて検証し公表するとしており、令和 2 年度（2020 年度）つくば市行政経営懇談会では「令和元年度（2019 年度）つくば市市民参加推進状況報告」等を踏まえ、つくば市が目指す市民参加に向けて協議を行った。

## 2 懇談会開催日程

第 1 回懇談会（委員 9 名出席）

令和 2 年（2020 年）10 月 9 日（金）15 時 00 分～17 時 00 分

つくば市役所コミュニティ棟 3 階 会議室 A

第 2 回懇談会（委員 10 名出席）

令和 2 年（2020 年）11 月 16 日（月）18 時 00 分～19 時 30 分

つくば市役所コミュニティ棟 1 階 会議室 2

第 3 回懇談会（委員 10 名出席）

令和 2 年（2020 年）12 月 18 日（金）14 時 00 分～15 時 30 分

つくば市役所 2 階 会議室 201

第 4 回懇談会（委員 名出席）

令和 3 年（2021 年）2 月 5 日（金）18 時 00 分～20 時 00 分

つくば市役所 2 階 職員研修室

第 5 回懇談会（委員 名出席）

令和 3 年（2021 年）2 月 26 日（金）18 時 00 分～20 時 00 分

つくば市役所 2 階 防災会議室 2、3

## 3 現状と課題

「令和元年度つくば市民意識調査」の「市政に市民が参加できる環境が整っていると思うか」という問いについては、前回の平成 29 年度調査と比較して

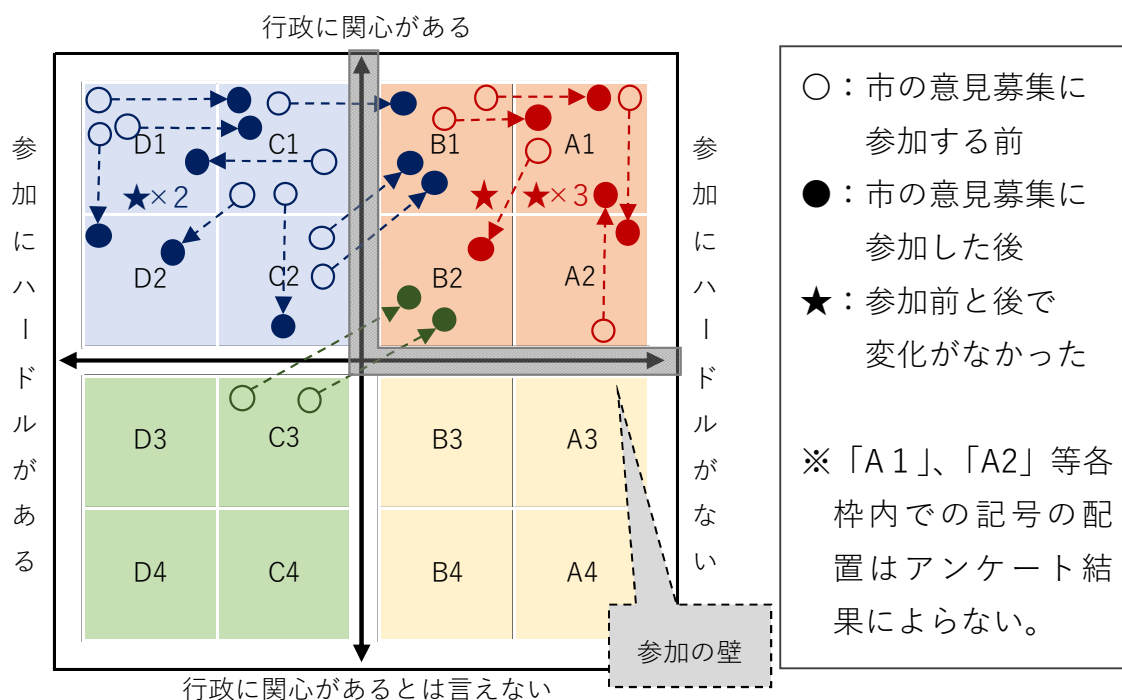
「そう思う」が1.7%、「どちらかといえばそう思う」が1.5%増加という結果となり、市民参加推進の取組の一定の効果が得られていると考えられる。

一方で、令和2年（2020年）11月に市民委員経験者や市民委員意見交換会参加者を対象として実施した「令和2年度（2020年度）市民参加に関するアンケート」では、市民委員等で参加する以前に市政への参加に対して「ハードルがあった」、「どちらかというハードルがあった」と回答した人の割合が59.1%であり、回答者の半数以上が参加にハードルを感じていたほか、少数ではあるが、9.1%が参加以前は市政に関心を持っていなかったと回答した。

より多くの市民の市政への参加に当たっては、参加に対するハードルを感じている人や行政に関心があるとは言えない人といった「参加の壁」を越えられない層に向けた取組が必要となる。

【図1】

「令和2年度（2020年度）市民参加に関するアンケート」結果



#### 4 検討

令和2年度（2020年度）つくば市行政経営懇談会では、つくば市が目指す市民参加に向けて「参加の壁」という課題を解決するために、主に審議会等の

市民委員の参加について、具体的には、「無作為抽出による委員等候補者名簿の活用の推進」、「若い世代の参加者の拡大」、「審議会等市民委員の応募者数の増加」という3つのテーマについて協議を行った。この協議を踏まえ、つくば市における市民参加をより一層推進するための対策について、次項のとおり提言する。

## 5 提言

### ①無作為抽出による委員等候補者名簿の活用の推進

- ・各審議会等は市民委員の選定に当たり、会議の内容、性質を踏まえた上で、積極的に無作為抽出による委員等候補者名簿を利用されたい。
- ・住民基本台帳から無作為抽出をした市民に対して送付する委員等候補者名簿登録依頼については、抽出された市民が市政への参加を前向きに考えられるような様式、文面を検討されたい。
- ・委員等候補者名簿登録同意書の希望分野を問う選択肢に「全ての分野に関心がある」、「どの分野でもいい」等の項目を追加するとともに、市民委員選定の際にはジェンダーバランス、年齢層、居住地等に偏りが無いよう配慮する一文を記載されたい。

### ②若い世代の参加者の拡大

- ・若い世代を対象とした情報発信の手段として、広報紙やチラシ等、既存の媒体に加えて積極的にSNS(ソーシャル・ネットワーク・サービス)を活用するなど、多様な方法による広報活動に取り組まれたい。
- ・会議の開催形態として、対面に重きを置かないオンライン会議やハイブリット形式等も取り入れられたい。
- ・若い世代の市政への関心を深め、参加を広げる取組として、審議会等の模擬体験を中学校等への学校教育に取り入れられたい。
- ・参加者への表彰など、市民参加に対して感謝を伝える方法についても検討されたい。

### ③審議会等市民委員の応募者数の増加

- ・各審議会等の所管課等は会議の目的や内容、性質等に応じて、小論文の提

出、面接に限らず、参加を希望する市民の負担にならないような選考方法を定められたい。

- ・市の審議会等について広く理解してもらう取組として、区会や民生委員など市民にとって身近な地域活動との連携を進められたい。
- ・審議会等では専門用語を用いることがあるが、参加している市民委員や傍聴者、会議録の閲覧者等に向けて市民目線での会議運営に取り組まれたい。
- ・参加者への表彰など、市民参加に対して感謝を伝える方法についても検討されたい。(再掲)

## 6 さらに市民参加を推進していくための意見

そのほか、市民参加をさらに推進していくために、以下の意見が挙げられた。

- ・パブリックコメント手続きの実施、ワークショップの開催等の際には、無作為抽出による委員等候補者名簿を有効に利用し、各分野に興味・関心を持っている市民への情報発信に取り組まれたい。そのためにも、委員等候補者名簿への登録を依頼する文章には、市民委員以外の参加手法により意見を伺う可能性がある旨を記載されたい。
- ・ワークショップ等のイベント開催の際には、申込者を日中働いている人、子育てをしている人等のグループに分け、各グループの参加しやすい日時をそれぞれ設定するなど、可能な範囲で参加を希望する市民が参加しやすいよう柔軟に対応されたい。
- ・パブリックコメント手続きは、市民が対話によって政策への理解を深めることのできる非常に貴重な機会である。市は、意見を提出した市民が「提出して良かった」と思い、次の参加への意欲につながるように、市民の意見に対して真摯に向き合い、市の現状について丁寧に回答をされたい。
- ・パブリックコメント手続きの意見提出者数などの状況により、市民の関心の高い分野に多くの市民が参加できるような機会を設けることを検討されたい。
- ・職員が地域の現状を十分に理解し、市民にとっては市政への参加に対するハードルを下げる取組として、市の若手職員の地域等のコミュニティ活動参加や市民と職員との交流機会の増加等の工夫をされたい。

- ・参加者を住民基本台帳からの無作為抽出により求める際には、事業の内容や性質に応じて、在住年数や居住地域を限定する等の工夫をされたい。

## つくば市スーパーシティ基本方針(案)

### (スーパーシティ型国家戦略特別区域の指定に係る提案骨子)

#### 1 スーパーシティ構想の名称

つくばスーパーサイエンスシティ構想

#### 2 対象区域

- ・高齢者が特に多い地域（筑波地区の一部）
- ・高齢者が特に多く、高齢者のみの世帯の割合も高い地域（茎崎地区の一部）
- ・学生や独身の単身世帯、外国人居住者の多い筑波大学周辺及び筑波大学キャンパス
- ・子育て世代も多く、再開発が予定されているつくば駅周辺

#### 3 地域の課題、課題解決のための目標等

つくば市は、つくばエクスプレス沿線の開発等によって子育て世代の転入が増加しており、人口も約 25 万人に対して毎年 3,500 人程度の伸びを見せている。

他方、周辺部は高齢化が著しく、市内の道路総延長が茨城県内 1 位（約 3,700 km）、自動車の交通分担率も全国の地方都市平均を上回る約 6 割のつくば市にとっては、高齢者にとって安全で快適な移動手段の確保が急務である。

また、研究学園都市独特の国際性があり、約 140 か国から約 1 万人の外国人が居住しているが、これらの市民は多様な言語で市や暮らしに関する情報が入手できる環境にあるとは言えない状況である。

さらに、筑波研究学園都市建設から 50 年が経過し、市内のインフラが一斉に老朽化を迎えるという問題も抱えている。

こうした地域課題の解決を目指し、つくば市は、SDGs の基本理念である「誰一人取り残さない」、包摂の精神を市の総合戦略であるつくば市未来構想の根幹と

し、持続可能なまちづくりを進めてきたところ、つくば市の最たる特徴である知の集積を活かし、先端技術を普段の生活の中に取り込んでいくことでこれらの課題解決を加速していく。

#### 4 スーパーシティ構想の概要

つくば市は、官民約 150 の研究機関、約 2 万人の研究従事者、約 8 千人の博士号取得者、4 人のノーベル賞受賞者を擁する日本最大の研究学園都市であり、世界最先端の研究から生まれたシーズが豊富にある。この中から、地域課題の解決や革新的な暮らしやすさに資する技術を実証実験を経て社会実装し、それにより市民の幸福度が向上、地域経済が活性化されるとともに、再び研究開発投資がなされる循環を形成していくことで、地域の持続可能な発展を目指す。

市域の中でも、特に高齢化が進む地区（筑波地区、荃崎地区）、学生や独身の単身世帯、外国人居住者の多い筑波大学周辺及び筑波大学キャンパス、子育て世代も多く、再開発が予定されているつくば駅周辺において、①インターネット投票や市民意見収集による根拠に基づく政策立案（EBPM）、多言語ポータルサイトアプリ、庁内データ共有・利活用等の「行政分野」、②交通ネットワークの最適化や自動運転車のオンデマンド配車、パーソナルモビリティ、送迎バスシェアリング等の「移動分野」、③自動配送ロボット、ドローン配送等の「物流分野」、④医療情報や生活習慣情報活用による健康寿命延伸・救急医療の高度化、遠隔医療等の「医療・介護分野」、⑤無人機器やAI等による建物・道路・橋梁の点検・診断、防災・災害情報プラットフォーム等の「防犯・防災・インフラ分野」の5分野の先端的サービスを実現する。

同時に、それを下支えするためのデジタルインフラとして、高齢者向けスマートフォン配布、スマートフォンアドバイザー（仮称）の配置を実施し、高齢者や外国人等、多様なニーズに応じていく。この際、市民や市職員がテクノロジーに圧倒されることなく、使いこなしていくことも重要であり、市役所職員必須のデータ利活

用研修を行うとともに、学校においても GIGA スクール化と STEAM (Science, Technology, Engineering, Arts, and Mathematics、科学、技術、工学、芸術、数学) 教育を推進、さらに、データやデジタル技術等先端技術に関する市民の生涯学習の機会も積極的に設け、人材育成も図っていく。

## 5 先端的サービス

### (1) 先端的サービス1 行政分野

#### ○多言語ポータルサイトアプリの整備と公的個人認証の仕組みの導入

##### 実施内容:

分散する行政情報を集約し、多言語で表示するポータルサイトアプリを構築。市民の希望（オプトイン型）により、市民の属性情報に基づき個別化された（レコメンド型）情報発信も行う。さらに、マイナンバーカードとデジタル ID を活用した本人確認（公的個人認証）を組み合わせることにより、行政へのあらゆる申請・手続きをアプリ上から行えるようにする。

##### 効果と先進性:

多言語で行政情報の適時適切な受信が可能となるほか、市民の希望により属性に基づいた情報や行動喚起を受けることができる。また、申請、手続き等の市役所とのやり取りがオンラインでも行えるようになり、市民の利便性が向上する。

#### ○インターネット投票の実施

##### 実施内容:

公職選挙においてスマートフォン等の端末からのインターネット投票を導入する。

##### 効果と先進性:

投票所への移動が困難な高齢者や障害者の投票が容易になるほか、若年層の投票率の向上も期待できる。公職選挙におけるスマートフォンからのインターネット投票は国内はもちろん他国でもほとんど例がなく、世界最先端の取組となる。

## ○市民意見収集による EBPM の推進

### 実施内容:

市民のニーズ調査をアプリを通じて適宜適切に行えるようにすることで、市民の市政参加及び根拠に基づく政策立案（EBPM）を促進する。

### 効果と先進性:

市民と行政とのコミュニケーションが活性化され、市民ニーズに基づく政策立案・運用が促進される。オンラインでの市民意見収集において、本人確認の担保という点で新規性がある。

## ○庁内データ共有・利活用の推進

### 実施内容:

庁内データの共有を進めることにより、さらに効果的・効率的な政策立案を実現する。

### 効果と先進性:

関連しながらも分散管理されていた庁内データの相互利活用が図られ、より科学的に政策決定を行えるようになる。異なる部署が管理していても最新のデータを参照可能になる点が革新的である。

## (2) 先端的サービス2 移動分野

### ○交通ネットワークの最適化

#### 実施内容：

郊外と都市部間を移動するサービス、都市部において近距離を低速移動するサービスを含め、路線バスやコミュニティバス等の利用データ、携帯位置情報等人流・交通流解析に基づいた運行スケジュール管理や変動価格制（ダイナミックプライシング）、自動運転車の注文（オンデマンド）配車等、交通ネットワーク全体の最適化を図る。

#### 効果と先進性：

待ち時間の少ない切れ目のない移動や、渋滞緩和に資する。交通流等に基づいた路線バスのダイヤ変更は古くから行われているが、リアルタイムデータに基づく柔軟な変動の導入は先進性が高い。

### ○パーソナルモビリティ導入と自動運転車のオンデマンド配車

#### 実施内容：

つくばセンター地区のペDESTリアンデッキ（自転車歩行者専用道路）や筑波大学キャンパス、郊外の集落等において、低速走行する個人用移動車両（パーソナルモビリティ：遠隔型自動運転システムによる複数人乗りのモビリティや電動キックボード、走行中に操縦者の脈拍数を計測し体調不良時に走行の安全性を確保できるパーソナルモビリティ等）を用いて乗客を輸送する新たな交通サービスを展開する。また、自動運転車のオンデマンド配車の仕組みを構築する。

#### 効果と先進性：

つくば駅周辺の回遊性が向上しにぎわいが創出されるとともに、高齢化地域でのバス停から自宅までの移動、いわゆるラストワンマイルの移動手段が確保さ

れ、交通弱者の利便性向上に資する。また、郊外と都市部、都市部内の近距離移動の利便性が向上し、交通弱者の外出回数が増えることが期待される。国内では先例がなく、新規性がある。

### ○送迎バスのシェアリング

#### 実施内容：

企業送迎バスや学校等教育機関送迎バス等の民間送迎バスを共有化（シェアリング）するための運用システムを開発する。

#### 効果と先進性：

事業者のコスト削減に資するとともに、子育て世代の負担軽減にも貢献する。事業者や目的をまたいだ送迎バスのシェアリングの仕組みは先例がなく、新規性がある。

### ○MaaS プラットフォーム構築

#### 実施内容：

以上の移動分野のサービスを一気通貫で提供するための「サービスとしての移動」（MaaS）のプラットフォームを構築する。

#### 効果と先進性：

希望する市民が様々な移動のサービスを切れ目なくに利用できることで、生活が豊かになることが期待される。

### (3) 先端的サービス3 物流分野

#### ○自動配送ロボットやドローンによる配送の実施

##### 実施内容：

ドローンを活用した中距離輸送、自動運転車両や無人配達ロボットを活用した自動配送等を実装し、買い物困難者の支援と物流事業者の労働力不足の課題解決の両立を実現する。ドローン配送においては、土地所有者との間で空の利用権を売買する仕組みを構築し、「空の道」を整備する。時間帯や交通状況に合わせて最適な配達手法・経路を判定し、ロボット等のほか、地域のボランティアやタクシー事業者とも連携して行う。

（この際、先端的サービス4「医療・介護」分野の取組とも連携し、遠隔医療での医薬品の配達や、生活習慣情報・医療情報に基づいておすすめされた食品・日用品の配達も行えるようにする。）

##### 効果と先進性：

郊外であっても都市部と変わらない利便性の高い暮らしに資する。また、担い手が不足している配送ドライバーの補完の役割も果たすことが可能。密集住宅地へのドローン配送は全国でもつくば市での1例の実証実験が行われているにすぎず、先進性がある。また、「空の道」の構築は全世界でみても新規性が高い。また、無人の自動配送ロボットは、保安員の監視下での実証実験が一部地域で行われているにすぎず、革新性がある。

#### (4) 先端的服务4 医療・介護分野

##### ○医療情報や生活習慣情報活用による健康寿命延伸・救急医療高度化

###### 実施内容:

市役所、大学・研究機関、医療機関、介護事業者、地域の商店等が保有する自らのデータ（食料品購買履歴、健診データ、病院受診履歴、調剤レセプトデータ、介護データ等）を、データ連携基盤を通じて市民が取得、スマートフォン等で一元管理できるようにする。市民個人の希望によりこれらの生活習慣情報や医療情報（パーソナルヘルスレコード、PHR）を事業者等に共有化できる仕組みを構築し、事業者等が共有されたデータを活用して、個別化された健康管理、生活支援、医療、介護等のサービスを市民に提供する。また、救急医療においても PHR を活用していく。

###### 効果と先進性:

複数の研究機関と行政、民間企業が一体となって、科学的根拠に基づく個別化医療・生活習慣改善のためのサービスを提供する枠組みは研究学園都市つくばならではの比類のないものとなる。また、救急医療の質の向上に貢献するもので先進性がある。

##### ○遠隔医療の推進

###### 実施内容:

スマートフォン等で医師に医療相談ができ、医師の助言に基づき市販医薬品の購入や医療機関の受診を簡便に行える仕組みを構築する。また、看護師等の医療従事者が患者に同伴して行う質の高い遠隔診療も推進する。

###### 効果と先進性:

病気やケガに対する市民の不安解消に役立つとともに、医療資源分配の適正化と医療費削減に資する画期的な取組である。

### ○学校での体調管理のデジタル化

#### 実施内容:

学校における体調管理を完全デジタル化し、保護者や教員の負担軽減を図るとともに、収集したデータを感染症対策にも活用する。

#### 効果と先進性:

保護者や教員の負担軽減が図られるとともに、感染症拡大の防止にも効果があると期待される。

## (5) 先端的服务5 防犯・防災・インフラ分野

### ○無人機器や AI 等による建物・道路・橋梁の点検・診断

#### 実施内容:

公共施設や道路等インフラの維持管理の効率化のため、ドローン等無人機器による建物・橋梁の点検や、画像データと AI による道路診断等を行う。

#### 効果と先進性:

目視・手作業で行っている点検業務を機械化・自動化することで効率化が図られるとともに、危険を伴う作業のリスクが低減されることが期待される。実証実験は全国でも複数行われているが、通常の業務プロセスに組み込む点が新しい。

### ○防災・災害情報プラットフォーム構築

#### 実施内容:

平時の災害に対する備えや災害時の適時適切な情報共有のため、様々な事業者に分散していたデータを一元管理する防災・災害情報プラットフォームを構築する。

#### 効果と先進性:

防災や災害対応の状況が一覧性を持って見られるようになることで、平時の備えが促進されるほか、市民個々人の災害時の適切な行動が支援される。また、災害対応に関係する組織間での効率的・効果的な情報共有が図られる。情報連携システムの構築は国レベルではみられるが、地域レベルでは行われておらず、新規性がある。

### ○デジタルツイン整備

#### 実施内容:

包括的なインフラ管理や、災害時の被災・避難シミュレーション等のため、まちを3Dモデルで再現するための仕組み（デジタルツイン）を整備する。

**効果と先進性：**

デジタルツインの活用により、インフラ管理を含めた都市計画全体の高度化が期待される。海外ではいくつかの国で試みられているものの、国内では実証実験がはじまったばかりであり、先進性がある。

**○地域防犯システム構築**

**実施内容：**

先端的サービス2の移動分野や先端的サービス3の物流分野とも連携し、各種モビリティに搭載するカメラを活用した地域防犯システムも併せて構築する。

**効果と先進性：**

犯罪抑止に資するものである。他の目的で使用するカメラやセンサーを防犯にも活用しようというもので、革新性がある。

## 6 データ連携基盤整備事業の概要

先端的サービスの提供に係るデータを収集・整理するため、つくばスマートシティ協議会と協力し、データ連携基盤を整備・運用する。

データ連携基盤は、異なる複数の事業者が連携してサービスを提供したり、業務を行ったりする場合に、事業者間で、必要なときに、必要なデータを共有するための仕組みのことである。例えば、災害時において、これまで行政、消防、警察、自衛隊、民間企業が取得・保有するデータが分散管理されていたところ、データ連携基盤で相互に接続することで、一つの地図上で被災状況や交通制限、避難所開設状況などを一元的に示すことが可能となる。

なお、データ連携基盤の構築にあたっては、原則として基盤そのものにデータを蓄積することはせず、すでに公開されているデータや先端的サービスの事業主体が個人の同意に基づき収集したデータを必要なときに、権限を与えられた他事業者が参照できるようにするデータ分散方式とし、セキュリティ対策については、政府が採用している基準やガイドラインに準拠する。

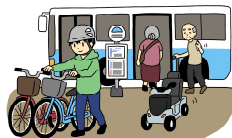
## 7 デジタルインフラ整備

先端的サービスは、主にスマートフォン上で利用することを想定している。スマートフォンの普及率は、20代から50代までについては9割以上となっているが、70代以降の高齢者では保有率が低くなっている。したがって、高齢者向けのサービスが提供されても利用できないという懸念があるため、先端的サービスの実装に併せてスマートフォンの配布を進めるとともに、スマートフォンの操作に不安がある高齢者のために、スマートフォンアドバイザー（仮称）などの支援員の整備も進める。

また、最先端技術に関する市民向け講座の充実を図りつつ、学校におけるSTEAM教育をさらに推進していく。



## つくばスーパーサイエンスシティ構想 “Empowered Citizens and Inclusive Communities”



「誰一人取り残さない」包摂の精神のもとで、世界トップレベルの科学技術を結集し、デジタル、ロボティクス等の最先端技術の社会実装と都市機能の最適化を進めていく。  
これにより、市民と市民、市民と行政のつながりを深化しつつ、出口の見えない社会課題の克服や革新的な暮らしやすさを実現する市民中心のスーパーシティを目指す。



### <デジタルインフラ整備>

マイナンバー・マイナンバーカード利用拡大  
高齢者向けスマホ配布、スマートフォンアドバイザー（仮称）配置

### <先端的サービスの実装>

- 行政** インターネット投票、多言語ポータルサイトアプリ、庁内データ共有・利活用、市民意見収集によるEBPM
- 移動** 交通ネットワークの最適化、自動運転車のオンデマンド配車、パーソナルモビリティ、送迎バスシェアリング
- 物流** 自動配送ロボットやドローン等による配送最適化
- 医療介護** 医療情報や生活習慣情報活用による健康寿命延伸・救急医療高度化、遠隔医療、学校の体調管理デジタル化
- 防犯防災インフラ** 無人機器やAI等による建物・道路・橋梁の点検・診断、防災・災害情報プラットフォーム、地域防犯システム

データ連携基盤

<民間事業者等のコミット>  
つくばスマートシティ協議会（産学公40機関加盟）と連携

<住民等の意向の把握> 住民投票、市長キャラバン、オープンハウス、市民アンケート、市有識者会議、パブコメ、市長マニフェスト

<住民等の個人情報の適切な取扱い> つくば市個人情報保護条例等、つくば市プライバシーポリシー等、市役所職員必須のデータ利活用研修、つくばスマートシティ倫理原則

先端的サービスに随時導出

### <大胆な規制・制度改革>

公職選挙法、道交法、オンライン診療の適切な実施に関する指針等



アーキテクト（全体統括者）  
筑波大学 鈴木健嗣 教授

### <研究成果の社会実装>

つくばの研究機関から生み出される研究シーズを、実証実験を経て社会実装。



会 議 録

|             |     |                                                                      |      |     |
|-------------|-----|----------------------------------------------------------------------|------|-----|
| 会議の名称       |     | 令和２年度（2020 年度）第 3 回つくば市行政経営懇談会                                       |      |     |
| 開催日時        |     | 令和 2 年（2020 年）12 月 18 日（金）14:00 開会 15:50 閉会                          |      |     |
| 開催場所        |     | つくば市役所 2 階 会議室 201                                                   |      |     |
| 事務局（担当課）    |     | 政策イノベーション部 企画経営課                                                     |      |     |
| 出席者         | 委員  | 飯田委員、上田委員、上平委員、佐藤委員、白倉委員、永田委員、星埜委員、堀委員、水谷委員、溝上委員                     |      |     |
|             | その他 |                                                                      |      |     |
|             | 事務局 | 森政策イノベーション部長、杉山政策イノベーション部次長、大越企画経営課長、会田企画経営課長補佐、中村企画経営課長補佐、大見係長、栗島主事 |      |     |
| 公開・非公開の別    |     | ■公開    □非公開    □一部公開                                                 | 傍聴者数 | 2 人 |
| 非公開の場合はその理由 |     |                                                                      |      |     |
| 議題          |     | （１）つくば市が目指すべき市民参加について                                                |      |     |
| 会議次第        | 1   | 開会                                                                   |      |     |
|             | 2   | 議事                                                                   |      |     |
|             |     | （１）つくば市が目指すべき市民参加について                                                |      |     |
|             | 3   | その他                                                                  |      |     |
|             |     | （１）令和 2 年度（2020 年度）行政経営懇談会で扱う案件について<br>（２）第 4 回以降の懇談会開催スケジュールについて    |      |     |
|             | 4   | 閉会                                                                   |      |     |

|        |                                                                                      |
|--------|--------------------------------------------------------------------------------------|
| ＜審議内容＞ |                                                                                      |
| ○事務局   | 令和２年度、第 3 回つくば市行政経営懇談会を始めます。それでは早速ですが議事に入らせていただきます。進行は座長にお願いしたいと思います。座長よろしく願いいたします。  |
| ○事務局   | 今回、お 1 人ずつ 1 本、マイクを御用意させていただいておりますので、御発言の際はマイクのスイッチを入れて使っていただければと思います。どうぞよろしくお願いします。 |

○座長 お1人1本のマイクだそうですので、発言のときはオンにして、終わりましたらオフにさせていただいた方が、ハウリングが起きなくていいかなと思いますので御協力のほどお願いします。

それでは本日御議論いただく内容でございますが、次第にありますとおり、つくば市が目指すべき市民参加について、でございます。本日の会議ですが、午後3時半を終了予定として進めていきたいと思いますので、皆様御協力のほどよろしくをお願いします。

また、会議の公開非公開につきましてはすでに原則公開ということが決定されておりますので、本日も公開ということで進めて参ります。

次に本日の配付資料について確認したいと思います。次第に本日使用する資料一覧がございます。御確認いただきまして過不足がある場合は事務局までお知らせください。よろしいでしょうか。では早速でございますが、議事に入らせていただきます。

第2回では委員の皆様に令和元年度（2019年度）つくば市市民参加の推進について検証をいただいたほか、つくば市市民参加推進に関する取り組みの課題についても御意見をいただいたところでございます。今回は第2回の御意見等から、つくば市が目指すべき市民参加について協議させていただきます。それではまず事務局から説明をお願いします。

○事務局 【資料及び参考資料に基づき説明】

○座長 ありがとうございます。ただいま事務局から資料の説明等をいただいたところでございますが、これを受けて、まず資料等につきまして、御質問、御意見はございますか。よろしいですか。

それでは早速議事に入らせていただきたいと思います。今、事務局から御案内がありましたとおり、本日、市民参加に関する取り組みの提言を考えていくということでございます。A3の資料をもとに、すでに第2回に皆さんからいただいた意見も事務局の方で取りまとめていただいたところではございますが、とはいえ、さあ議論しましょうと言っても何からどう議論したらいいかということもありますので、もちろん最終的には皆さん、さっき終わった話だけどいいですかという形で、議論が終わった点についてまた後で御発言いただくのは全然構いませんが、取りかかりとしましてはまず、資料1

の2ページ目以降にございますように、4点ほど課題が挙げられておりますので、その課題の順番に沿ってまずは議論を始めさせていただきたいと思えます。繰り返しになりますけど、一つ一つをこなしていくということでは必ずしもございませんので、前に戻ったりして構いませんが、まずは無作為抽出による委員等候補者名簿の活用についてというあたりから、御議論いただきたいというふうに思えます。この点について、課題が真ん中に書いてありますが、公募による選考が多く実施されており、無作為抽出による委員等候補者名簿はファーストチョイスとして利用されていないと、せっかく制度をつくば市は導入したにもかかわらず、必ずしもこれが有効活用されていないのではないかという課題がありまして、それに対してどのようにしたらいいかということで、そこに3点ほど、提言に盛り込むべき内容ということも挙げてはいただいておりますが、これに限らず、どうしたらいいかというような御意見をいただければありがたいのですが、いかがでしょうか。

○委員 前回の課題への対応として、図書館にチラシを設置するということがありますが、人が多いところにチラシを設置すればいいということではなく、やはり、フェイストゥフェイスの勧誘の仕方が必要になってくるのではないかと思います。例えば、市の職員が地域の区長や民生委員、学校やPTAの人に「こういう会議がある」ということで紹介するようなことも必要になってくると思います。

○委員 ありがとうございます。チラシを置けば集まるって話でもないですから、チラシを置くのはもう当然であって、それから先にどうリクルートしていくかっていうところまで、やはり検討していくべきだという御意見だと思いますが、他にいかがでしょうか。

○委員 この無作為抽出については、御登録をいただいて、その中からランダムに選ぶということですね。ただ、そのやり方もあると思うのですが。やはりある程度、委員がおっしゃったように、例えば何か階層を分けて、この分野に詳しい人たち、関心がある人たち、コアをAクラスBクラスCクラスみたいに分けてですね、この分野に詳しい人たちの集まり、ある程度発言できるような人たちっていうのを分けて、ある課題について、その人達の中から選ぶというようなのが有効なのかなという感じがします。

あと、先ほどの、やはり宣伝の仕方なども考えているのですが、なかなか市民でこういうことが行われているっていうのは、いろいろやってもわかってない方が多いと思います。それをどういうふうにわかってもらうかというのは、やはり、フェイストゥフェイスで働きかけるか、あるいはLINEとかそういう SNS を若い人たちに使って PR するとかという手法を、PR の仕方をもう少し工夫すると。こういう時代ですから、研究しても、一番効果的なものですか、してもいいのではないかなと思います。

例えば、少し調べたのですが、TXなどは一日5万7000人近い人たちが乗っています。つくば駅と研究学園駅と万博記念公園駅を乗車する人たち。2で割っても2万9000人の人たちが乗り降りしている。人口を約24万3000人とする、10%近い人たちが毎日乗り降りしています。こういう乗り降りしている人たちの通勤とか帰宅のときに、ちょっと声をかけられないかなと思ったりします。もちろんバスとかそういうものもありますけど。あとは、例えば病院の待合室とかですかね。あとバスとかタクシーに乗っているときとか、いろんなメディアで知らせる方法はあると思うのですが、フェイストゥフェイスに加えて、そういったものを有効に活用すると、ただ、広告の方法として、図書館にチラシを置いても、たくさんあって絶対に見ないと思います。あんなに10も20もあって、まず目につかないと。パンフレットを置いても、よほど関心がないと手に取る人はいないような気がします。そのため、本当に効果的なのは、やはりフェイストゥフェイスで声かけて話かけるのが一番ですが、若い、気軽にLINEとかそういう SNS を使って、そういうやり方をするというのがよろしいのではないかと。

あと、無作為で選ばれた人について、考えが一つあるのですが、裁判員制度などは、このあいだお話があって、ああいうものには選ばれ、特に職場で働いている人は特別休暇をもらえるので、有給を使わなくて結構です。ただ、市民のこういう代表に選ばれた場合には、おそらく職場では働いている人は駄目だと思います。自分で有給とっていくしかないかと。そのため、例えば職場でそういうのが選ばれた場合には、その上席者がぜひそれは出てくださいとかそういうような、何か仕組みや働きかけもあっていいのではないかなと思いました。

○座長 ありがとうございます。他にいかがでしょうか。基本的にもう一度確認ですが、無作為抽出の委員の名簿を作る時のやり方、簡単にもう一度説明していただいてよろしいですか。

○事務局 まず無作為抽出をする際ですが、住民基本台帳から無作為に抽出しております。依頼する際に書類の中に、第1希望から第3希望まで、参考資料ですと45ページになるのですが、登録同意書というものがあり、第1希望から第3希望までマルをつけていただいて、こちらから会議の委員になっていただく際には、第1希望を優先して、お声掛けさせていただくような形になっております。例えば今回の行政経営懇談会ですと、7番の総務行政と、会議の内容としては市政の運営であったり、男女共同参画であったりといった分野に御関心のある方、こちらを第1希望にされた方。もし、第1希望にされている方がいらっしゃらなかった場合は第2希望の方という形で、関心が近い分野を声掛けさせていただいているような形になります。名簿の登録自体もランダムに登録されておりますので、その名簿の上から順にお声がけをさせていただいているような状況です。

○座長 今、45ページを見て思ったのですが、確かに8その他ってありますが、全部、どれでもいいっていう選択肢があってもいいかもしれませんね。今までだと三つしか、どうしても選べませんが、すべてに関心あるという市民の方もいらっしゃる可能性もありますから。三つに限らなくてもいいのかなっていう気がしましたが。というような意見も含めていかがでしょうか。

○委員 無作為抽出というものが、やはり住民基本台帳からされているということ。それも一つの指標ではあるかもしれないのですけれども。以前、私が地区の、全然違うまちづくりの会議に出たときに言われた意見がすごく私は記憶に残っていて、選挙は1人1票だけど、株主総会は株を持っている人の方が、意見が強い。探し方で全然、1人当たりの意見とか力というのが全然違うという話がありました。確かにそうだなと。確かに研究学園都市地区は人が多いですけれども、筑波地区などの周辺地区にはたくさんの土地をお持ちの地権者がたくさんいらっしゃって、つくば市のまちを考えていくときに、みなさんそれぞれ1人として意見を聞くのでいいのかっていう、今まで考えたこともなかった発見だったので、住民基本台帳っていうのは一つの選び方

ではあるけれども、もっと違う選び方があるのではないかって、そういうのを考えていただけるといいのではないかと思います。

あと、もう一つですけど、参考資料6の意味が少しわかりづらくて。これってというのは、人口に対する応募者という表かと思うのですが、これを見ると、研究学園都市地区は人口も多いし、だから応募者も多いという意味かもしれませんが、計算してみると例えば研究学園都市地区33人を割ることの人口7万人で0.47%、荃崎が5人に対して人口2万人で計算してみると0.5%で荃崎の方が多いです。ですので、この表の意味がよくわからない。計算のやり方でデータが違ってくるのでこの参考資料6の見方をもう一度教えていただきたいのでお願いします。

○座長 事務局をお願いします。

○事務局 今、委員おっしゃるように、パーセンテージで言いますと、確かに荃崎であったり、筑波であったり、豊里であったりの方が多くなると思うのですが、実際の市民委員に応募している傾向ということで出しているということで、パーセンテージではなくて、実数での表になっていますので、当然、研究学園都市地区、人口が多いところから多くなっているのですが、割合で見ると必ずしもそうじゃないということで、人口が多いところからは、他に比べると多く出ているっていうような事を示している資料です。

○座長 貴重な御意見ありがとうございました。そういう意味では資料6に、人口比のパーセンテージも合わせて加えていただけると、より、偏りのないデータとして判断できるという気はしますので、また次、資料作る時にはそんな作業もしていただければと思います。とはいえ、一方で、人口比で出ていればそれで公平かという、必ずしもそうではないという悩ましい問題がありまして。地区代表ではないですけど、やはりつくば市の中で地域をある程度網羅しているということも重要な要素であることは間違いないというふうには思います。

委員からメールでいただいている情報ですと、国連のように、地域代表みたいな形、要するに地域を加味するってことですね、そういったやり方でもいいのではないかっていうふうに、御意見としていただいているのも、今の委員の御発言の前半部分と、同様の趣旨ではないかというふうに考えます。

他にいかがでしょうか。皆さんの御意見の端々に出ていたと私は思うのですが、やはり若い人はどうしても LINE とかですね。そういう SNS を非常に近しいメディアとして認識されていらっしゃるようですから、PR の方法で、まず、積極的に Facebook とか LINE とかの形を利用する。先ほどの和光市のような形も。今後、無作為抽出による委員等の候補者名簿を活用する一つに SNS や何かの利用ということも、それだけではないですけど、入れてもいいのかなっていう気はしますが、いかがでしょうか。

○委員 無作為抽出のところに限って言うと、おっしゃるとおり、やはりハードルをもう少し下げていく試みが必要なのかなと思っていて、この参考資料 4 を見ると、少し硬いという印象をすごく受けます。少し前から市の広報がすごく見やすくなったという印象を個人的には持っていて、PR の仕方がすごくうまくなったというふうに感じるものがあって、あれだとやはりすんなりと入ってくる面があります。で、今回も、仮にいろんな、市民委員というだけではなくていろんなことに参加してもらおうという形でアプローチをするのであれば、もう少しそういう形での PR の仕方に変えて、例えばこの 2 年間市政に積極的にあなた参加してもらいます、というような形で PR していくと。そういうことが翻って、多分市政に参加できている、あるいは参加する権利は少なくとも与えられている、というような感じを受けるのではないかと思います。仮に選任っていうとそこまで多くないですけど、これを 2 年に 1 回だから 10 年で 5000 人ですけど、人口 20 万以上ってということからいったらかなりのパーセンテージになると思いますし、多分今後依頼が来たら、御家族とかにこんなの来たよって言って話が広がると思います。で、そういうところから PR の仕方として、市としてはもうウェルカムですよ、といろんな意見をあなたたちから聞きたいですよっていうアピールの仕方が考えられるかなと思いますので、いろんな方から意見が出ているように、この無作為抽出だけだとやはり上からこちらで勝手に決めて機械的に出すという形ですけど、おっしゃるように区会など、そういうボトムアップっていうんですかね、の形でしっかり丁寧に意見を拾い上げていくという方法も当然併用されてしかるべきだろうなと思いますので、いろんな方向から、上から下から横から、左から右から全部をかけ合わせて多様な意見を拾い上げていくというのがいい

のではないかなと考えています。

○座長 ありがとうございます。そうですね、いろんな形で。

○委員 こちらの委員会ではないですけども、たまたま職場のイントラを見ていたら、政策イノベーション部の情報政策課というところがやられている。

「Hack My Tsukuba」っていう、こちらの方なんかイベントがあるっていうのが、職場の掲示板に載っていて。もう何回目かなんですよね。それで、つくば市のホームページの方を調べてみたら、中の方に潜ってとても探しづらくなっていて、だからそのホームページのトップページのところからもう少しそういうのをやっていたら見やすくするとか、私が、気が付いたみたいに、職場の掲示板に載っていたから気が付いたので、もう少し周りの企業とか大学とかそういうところに少し協力をしてもらって、つくば市でこういうのを求めていますよっていうのを職場のイントラとかに載せてもらえれば、仕事持っている人がなかなか参加しにくいとか、気がつかないとかっていうのがあったのですが、若い世代とまた若干かぶるのもあると思いますが、そういう周りの企業とかの広報に載せてもらおうっていう方法もあるのではないかなと思いました。

○座長 ありがとうございます。ホームページって良いようで悪いですよね、本当に。探せば出てきますが。なかなか目にとまるところに情報が出てこないっていう悩ましい問題もあるので、何とか目につく形っていうのも市民参加っていう観点でも。まあすべての部局が皆同じこと言うのでしょうね。だからもう、トップページは常に大変でしょうけども。ありがとうございます。

○委員 様々委員の方々の御意見と、あまり違いはないのですが、この無作為抽出の委員というふうに限定して考えたら、本来ボトムアップをしていくなら、委員がおっしゃったように区会連合会、区会の方々とか、民生委員とか、様々な団体の意見集約に加えて、ここの、こういう審議会の場合ってすごく少数ですね。ですので、本来であればいろんな地域に分科会的に課題を検討するようなものを設けながら、それを集約していくような仕組みっていうのが一番多分理想的なのかなというふうには思っています。ただ、実際やるとなるとかなり煩雑ですし、どういうテーマについてやるのかっていうことについてもあると思いますが、そういう意味ではこの抽出無作為抽出で同意され

た方っていうのは、それなりにこう、拒否反応があるわけではないと思いますので、この市民委員になっていただく可能性と同時に、モニターとして希望する分野について、年間幾つでもいいのですが、5から10ぐらいの間だと思いますが、実際にこういう審議会で論点になりそうなことについて意見を、こういうことについて今度審議会で議論したいのだけれども、どういう御意見お持ちですかというようなことをお尋ねするっていうこともあっていいのかというふうに思います。

それからこういう委員の方たちを核にしながら、実際に委員に入っていたかなくても、登録されている方を中心に少し分科会じゃないですけども、なにか意見集約をしていく拠点としての役割を担っていただけるような、そういう役割をお願いするというような形態もいいのかと思いました。

○座長 ありがとうございます。今、無作為抽出による委員の名簿の活用ということで御議論いただいているわけですけど、必ずしも委員として選出されるだけではなくて、市政モニターの形で、もちろん興味関心あるところに、委員会で今議論している、もしくはする前に御意見伺うといったような形で名簿を活用するということも重要かもしれないですね。

今、Zoom参加の委員から御意見がありました。PRは常陽新聞、つくば市のケーブルテレビに出してもらうなど、筑西の方だと、群馬のケーブルテレビになりますが、そこで募集することもできるのではないかとということで、メディアを、いろんなメディアを可能な限り利用したらっていうことではないかというふうに思います。

よろしいでしょうか。次は申込者の年齢について御意見をいただきたいと思います。すでに年齢層を広げる、特に若い人に対して参加してもらうということは、今、いろんな形で御意見いただいたところとかなり重複する部分もあるとは思いますが、とりあえず3ページを御覧ください。このほかに、SNSとか、オンライン会議など、出席する手法に重きを置かず、オンライン会議のような手法をとり、特に若い世代、それだけではなく、今は新型コロナの流行ということで、特に高齢者の方が出てくるのが嫌なので、遠隔手法といますか、オンライン手法で参加できる人であれば、そのような形だったら行くのにと、意見述べられることができるのにとということもお持ちだと

と思いますが、この辺はいかがでしょうか。やはり参加するハードルをいかに低下させていくか、さすがにハードルをなくすってところはなかなか難しいと思うのですが、ハードルを下げていく努力というのは必要ではないかなと思いますが、例えば、事務局の意見として、夜間休日開催をアピールするとかですね、導入の参加がわかれば意識面のハードルは下げられるのではないかと、楽しそうとか自分にも参加できそうと思えるような内容であれば意識面のハードルは下げられると考えられます。市の委員会で楽しそうっていう議論があるのか、と私は個人的に思わないではないですが、きっとそれは委員長の配慮によるのかかもしれませんが。ここら辺は何か、これを足した方がいいとか、いう御意見がありましたらいかがでしょうか。大体重複して、SNS を使うとかですね。一方、若い人にもフェイストゥフェイスという方法は、私は有効ではないかというふうに考えます。参加してよかったとかですね、あと学校等々を利用して、ぜひ行くと面白いよっていうような情報が伝えられる。必ずしも若い人がLINE だけですべてやりとりしているわけではないと思いますので、そういったこともここら辺に入れ込んでいければということで、中学校や高校等で審議会の体験を行うというのは有効な一つの方法ではないかというふうに考えています。では、もしまた後でお気づきの点がありましたら戻っていただくこととしまして、4 ページ目の、審議会等の応募者数についてというあたりに進めさせていただきたいと思います。積極的な情報の発信、参加しやすい環境づくり、市民権の積極的な反映等々と挙げられておりますが、審議会の応募者数をいかに上げていくか、この点についてはどうでしょうか。

○委員 前回、発言した「専門的な内容の会議でも市民目線で取り組む」ということについて取り上げてもらいましたが、ただ、真ん中対応の課題等というところで、(3)の①で、「市担当者側にも負担になる」ということについては、負担になるからやらないということではなく、どのように実施するかという方向にもっていつてもらいたいと思います。何度も言いますが、やはり区長会長として、これからもやはり行政とその市民の間をどのようにつなぐかという、そういうパイプ役としての区長会があると思いますので、市側からも、多分区長会からも、そういう意識を持ったリーダーの方が少な

かったのかなと。やはり向き合っていますよね。ですから、そういう事例をまず、そういう積み重ねはやはりやっていかないと、じゃあどうしようという前向きの、やはりそういう思考を持っていただきたいなというふうに思います。そのためにはお互い、どのように歩み寄るかというような形をつくっていかねばなと思います。そういったところで事例を作って展開していくことが必要だと思います。

○座長 ありがとうございます。おっしゃるとおりで、他にいかがでしょうか。応募者数をどう増やしていくかというところで、まず、先ほど来への参加のハードルを下げるというところに尽きてしまう部分はあるわけですが、その中で、もちろん無作為抽出の名簿を積極的に活用するというのはすごく一つのアイディアとしていいわけですが、それだけではなくて、積極的に、市民の方からですね、ぜひそういう審議会があるのだったら自分も委員として参加して、まちづくりに参加したいという市民をどうやって育てていくかっていうことではないかと私は思うわけですが。どうでしょう。

○委員 少しずれるかもしれませんが、今回、市民参加ということで取り上げている内容は、いかに、市民にどうアクションをとるというふうなことになっていますけれど、目を向ける市の、市民の意見をどう引き出すかという市側の努力も必要だと思います。私がつくば市に、まだ桜村の頃ですけど、住み始めた頃は、役場に用事があったときに、暇といたら失礼ですけど、職員の人と立ち話をして、そのちょっとした話の中から要望とかを吸い上げてもらって、それから、上や他の部署につないでということがありましたよね。今の市役所はカウンターがあって、立ち話という感じではないですけど、支所とかで高齢者の声とか、そういう取り組みをしてもらえるといいと思います。どう考えてもこのチラシを配るとか、SNSで発信するとか、やはりある意味上から見ている感じがして。市のほうからも、市民が意見を言っている、伝えていいと思えるような努力をしてもらいたいと思います。

○座長 ありがとうございます。他の方、いかがでしょうか。

○委員 今の御意見、すごく私も思っていて。よく、まちづくりのイベントをするのに市の職員の人とか来ませんかとお誘いしても、いいですねえって言うのですが、いらっしゃらないですね。特に若い人は日々の仕事がお忙し

いと思うのですが、御自身を地区のことわかっているかなとか、御自身の地区でどんな活動をしているかということ把握してらっしゃるかなと常々思っていて。やはり垣根があるっていう、どうしても市民と行政の垣根をとっばらうには、今の御意見もそのままですけど、行政の皆さんも地区に入っていていただくっていう、ほぼ強制的にでも入っていただくと、すごくハードルが低くなって、いろんな意見がありましたっていうことは職員さんの方もわかるし、すごく、いろんな形で、職員の方も市民の1人だという自分の意識も芽生えて、いい形になっていくのではないかと思います。ですので、もちろんいろんな、先ほど皆さんがおっしゃるように SNS とかホームページとか、そういうものもとっても大事ですけども、やはり、市の職員さんたち自分も伝えていかなければいけないということを、こういうものがあるって、ぜひ参加していただけるといいです。例えば PTA に行きました、そこで皆さんと話しをするときに、こういう子育て会議みたいなあるので、募集してみてもどうでしょうかとか、そういった御意見を言うていただだけでも、全然考えなかった人が面白そうだという、そういう機会が少しずつ増えていくと思うので、ぜひ職員の方々、特に若い職員の方々をお願いしたいなと思っております。

○座長 はい、ありがとうございます。

○委員 今の御意見聞いていてなるほどと思って、非常にいいと思うので。ただ、多分市の職員の方ってそれがボランティアというか、仕事じゃなく行ってしまうということになると、すごい負担が膨大になると思います。ですので、例えば、市の中でそういうことも仕事の一環として換算してもらえような、例えば若いうちはそういうのにどんどん、その勤務時間というか、仕事として行かせるとかですね。それで地域の現状を十分に把握してもらおうとか、なんかそういうような仕組みづくりみたいな形をとると、今おっしゃったようなところが進む。正直、例えば朝から夜8時9時まで仕事をしていて、さらに休日もそういうところに自発的に参加してくださいっていうとなかなか難しいだろうなと思います。なので、その辺りは多分制度的な取り組みでカバーできる部分もあるのではないかなと伺って思いました。

○座長 先に。

○委員 今の意見に少し加えるのですが、実は私も新人の職員の方をずっと見ていますけど、大変だと思います、市の職員の方。というのは、つくば市って結構イベントが多いですよ。夏祭りとかラーメンフェスだとかごみ拾い、マラソン大会。毎月1回何かイベントをやっているようなそういう御時世ですよ。そこに職員の方皆さん駆り出されていますよね。選挙もありますよね。かなり負担があつて。まして市長がタウンミーティングやる、あっちこっち行く、職員はついていくしかない。そういうのもありますよね。シンポジウムもあり。ですので、なかなか末端のところまで手が回らないのではないかと私心配しています。多分そういうのがあつて、地元の会にも出られない、加えて御自分の教育の問題とかが土日にかぶってくるじゃないですか。なかなかそういうので大変なので、やはり仕組みづくりを考えるべきではないかと思います。

○座長 お願いします。

○委員 委員たちがおっしゃったことについて。地域の中で、住民が話し合いする場所がわからないという意見がありました。場所がわかんないっていうのは、表示がされてない。看板がないのでわからないということを利用者から聞きましたので、議員さんをとおして市の方にお願ひしましたら、早速つけていただくようになりました。それは結局今までの、はっきり言いまして、個人的な偏見を含めて言わしていただくと、やった人間が、俺がやってやったというようなそういう気持ちがやはり一人一人強かったのではないのかと、そういう、困りごととかについて、やはりきちんとお返しする。結果がこうなりましたよと。やはり、そうすることで市もすごく早く動いてくれた、と。そういう信頼関係がひとつひとつできるのではないかと。それでやはり自分1人で情報をクローズするのではなくて、やはりみんなで共有できる。いい話も困った話もやはり皆さんで。そういう地域、コミュニティが市民の方一人一人がそういう気持ちにどうしたらできるのかなと。さっき委員がおっしゃったように、どうしたら、やはり市側だけに、解決策を出してくださいじゃなくて、市民と、こういう会議体だと思うのですけれど、本音で、やはり分科会のような会議体も、職員のキャパの問題があるというようなことであれば、地区に分けるとか、分科会というような形で行うということも方法

の一つとしてあるのではないかなと思います。

○座長 ありがとうございます。審議会の応募者数についての話がかなり大きな話に持っていったと思いますが、でも大変重要な点だと思います。今のお話を伺っていて、個人的コメントになって恐縮ですが、市の職員の人の心持ちという観点で話を持ってしまうと、解決できなくなってしまうので、委員がおっしゃったようにシステムとして、どんなシステムを取り入れたら、きちっと今皆さんがおっしゃったようなことが解決できるかっていうふうに話を持っていくべきだというふうには思いました。そのときに、カナダの事例ですけど、公共図書館って、やはりチラシ配って、皆さん言いたいことがあったら言って欲しいとか、こんなサービスが欲しいと言えば言って欲しいということだと全然図書館が市民の間に入っていないということで、いくつかの州はコミュニティ担当者という職責を設けてしましまして。その人たちが必ず何かやる時はコミュニティ、コミュニティって地区とは限らないのですが、高齢者のコミュニティとか障害者のコミュニティとか、そういうコミュニティに入っていくって、必ず御意見聞いてから企画立案するという役職を作った州がいくつかあります。そのような形で市の方にも、職員数に限りがありますから専任というわけにはいかないと思いますが、要はそのシステムとして動かしていくというような形です。これはその他に該当するでしょうね。4のその他に入れるべき内容かもしれませんが、そんなことをすると少なくともハードルが下がるということになるのではないかなという気がします。

すでにその他、審議会以外の手法でどのように推進していくかというような話に今入っていているわけでありましたが、今日のお話を伺っていて、一つは市民と行政のハードルを下げるときに、市の方が積極的に市民の側に入っていく、しかもそのときにはシステム化ということを念頭に置いて欲しいということ。一方、せっかく作った無作為抽出の名簿といったものを単に委員抽出の道具とするだけではなくて、モニターといったような活用の方法も含めて、市民の意見を直接吸い上げるといったような形を考えてもいいのではないかと、というあたりの話がすでに出てきていたかと思いますが、または先ほど委員から行政と市民の間をどのようにつなぐといった観点から、うまくいっている成功事例みたいなものを積極的に紹介していくということもい

いのではないかといった御意見も出てきていたと思います。皆さんの方から、同じ内容だけどもということも含めて、いかがでしょうか。前の方に戻っていただいて、無作為抽出の委員候補者名簿の話でも、また申込者の年齢層を広げるといった観点のお話でも構いません。御意見、いただければありがたいのですが、いかがでしょうか。

○委員 少し前に戻ってしまって申し訳ないのですが、民間にいた手前、結果っていうのを気にするところで、あるべき姿ですけども、最初のこの図1が右上の方にいけばいいというのが一番、つくば市の望む姿だと思うのですが、わからないのは、先ほども数字が出たのですが、数字というものはわかりやすく、戦略プランの見直しの時も数字でもう少し明確にしたらいいのではないかなって話があったのですが、何件くらい、例えば審議会でどのくらいの意見が出てくれば、それがよろしいのかとか、そういうものがあるのか。例えば何%ぐらいが、20万人のうちの先ほど言ったように、2万人近くの意見が出てくるのがあるべき姿なのか。ただ、その辺は数値的な目標があるのかどうか、よくはつきりしない、そういうのがわかれば、こういった分野にはこういう働きかけとかいうのが出てくるのかと。先ほどの地域的に地域の割合の中で何%近い人たちが参加するという指標みたいなのが、何件くらい。例えば、パブリックコメントだったら年何件ぐらいを目指すのか、その数字が果たしていいか悪いか、どうなのかよくわからないのですけども、そこをお聞きしたいなと思いました。

○座長 事務局、いかがでしょうか。私が記憶している限りで、もし間違っていたら訂正いただきたいのですが、パブリックコメントの件数等の目標は一切なかったと思います。ただ、こうした審議会で市民委員の方の割合は、いつか議論したことがあって、理想的にはこれぐらいですよねって話をした記憶があるのですが、今すぐ数値が出てこなくて申し訳ないのですが、いかがでしょうか。

○事務局 市民参加の数値的な目標ということで、座長がおっしゃったように地域ごとであったり年代ごとであったりというような目標はなく、今数字目標で唯一あるのは、市民、公募委員が参加可能な審議会等の会議については、100%市民委員を採用する。まず、委員のうちの3割程度の市民委員を100%

入れましょうというのが唯一の数字です。委員がおっしゃったようにその他の階層であったり、地域であったり、パブリックコメントを、必ず何件以上を目標にしましょうというのは特に設けておりません。

○委員　そういうものを目標にすること自体がおかしいのでしょうか。よくわからないのですが、やはりこのぐらいにいくと市民の人たちが市政に参加しているという目に見える数字なみたいなのが、やはりどこかであっていいのかなと思ったので。先ほど10%なのか1%なのか。こんなに参加しているという指標みたいなのがどっかに、バロメーターみたいのがあるのかというのがよくわからない。ただ、そういうのがあるって言って、誰か参加していい意見が出てくれればいいんだよってという考え方なのか。その辺が曖昧で、おぼろげで、私もわからなかったものですから。

○座長　繰り返しますが、パブリックコメントは多分目標値ないと思いました。一方で、委員は、市民委員を必ずすべての審議会とか、何とか検討会とか、そういったところに必ず入れる、ということで、そのうち、委員の3割が市民っていう形が目標だということ以外はないと思いますが、一方で、市民であれば特定の人がすべての委員会に出て、市民の意見を言うということが、果たして望ましい市民委員としての意見の吸い上げかという部分は、私は個人的には課題だと思っておりまして、そういう意味では無作為抽出という選び方は決して悪くないのではないかというふうに個人的には思っていたりします。もし、そういう数値目標を立てることが市民参加を推進するというような意見が皆さんからございましたら、4のその他というところに、そういった提言を入れ込んでいくってことはありかと思いますが。

○委員　数字というのはマジックがあって、ことに意見というものは数値目標の中には入らないものもあり、個人的には入れてほしくないという部分があります。数値で行くと、賛成か反対か、どちらかに評価が行ってしまうかと思いますので、それは避けてほしい。ただし、市の中にも市民委員として候補に挙げられる場合、2つ以上は市民委員として出られないという条件があったかと思いますので、その所で一人の人がいくつも市民の代表ですという形でいくことはないだろうと思っています。

○座長　ありがとうございます。

○委員 抽出された委員の候補者名簿の中に登録されている人の中から委員を選ぶのは何か基準ってというのはありますか。どういう形で委員に依頼をする方を選んでいるのでしょうか。

○座長 事務局、お願いしてもよろしいですか。

○事務局 無作為抽出から選ぶ際は第一希望から第三希望までの希望だけを見て上から順番にお声がけをしている状況になります。例えば年齢ですとか御住所をうかがっているのですが、そこから選ぶと無作為ではなく作為的になってしまいますので、名簿の上から順に、名簿自体もランダムに登録されているものなので、そうした形で選んでいます。ただし、会議によっては女性の委員が必要であるとか、男性の委員が必要であるとか、もしくは何歳から何歳までの委員さんに入っていただきたいなどもありますので、その場合は性別や属性を限定して名簿提供するということはありません。

○委員 はい、ありがとうございます。明記する必要はないと思うのですが、やはりこういう審議会は時代ですので、ジェンダーバランスとか年齢層とかあるいは居住地とか、そういったものについてあまり偏りが出ないような形に配慮するっていうような一文は、どこかにあってもいいのかなと思いました。

○座長 ありがとうございます。よろしいでしょうか。この件に関して。はい、どうぞ。

○委員 私、環境サポーターというのに入っているのですが、1回登録するとメルマガが来て、いろんなもの、こういうことやっています、ああいうことやっています、もしよかったら参加してください、もし興味があったら参加してくださいみたいなメルマガですけれども、そのように抽出してこういうことになったら協力できるという人とか、それこそ前にパブリックコメント出した人とか、何かの委員になった人とか、もしくは何かのそういう「Hack My Tsukuba」みたいな、そういうところに参加した人とか、そういう方々にもし御希望があればメルマガみたいな形、もしこの内容に興味があったら意見くださいみたいな感じで、メルマガだってそんなに1個のやつ、住所打ち込む最初のあれは大変ですけど。そうしていただくと、手法では見てないけれども、こういうのや、今、パブリックコメントこういうことやっている

とか、そういつてじゃあ少し意見言ってみようとか、きっかけになるのではないかなと思います。実際私も環境サポーターで連絡が来るのですが、本当に興味があるときしか行かないのですが、こうきているだけで、なんか繋がっているなっていう感じがして心地よいところで、どうしても迷惑って言ったらもう削除して、配信停止っていうのもあるので、メルマガなんて結構いいかなと思います。

○座長 ありがとうございます。広くいろいろICT使ってということですかね。

○委員 パブリックコメントの点に関して一言申し上げたいと思ったのですが、前回、委員から何か冷たいというか、あまりなんか出してもやりがいを感じられないというのを聞いて、そういうことかと思ってハッとしたのですが、私弁護士で以前は法令とかのパブリックコメント手続きっていうのに関しては強い関心を持って見ていて、基本的にどういうふうに使っていたかっていうと、その業界団体の要望ですね、こういう要請をしたいという話ですとか、あとは法令解釈について疑義や不備がたまにある場合があるので、ここをこういうふうに改善して欲しいというのを出して、具体的な改善を求めるとか、その解釈の明確化を図るとか、そういう観点でしか見てなかったもので、こういうあっさりとして打ち切られてしまうケースもそんなものだと思って、考えていたところがありますが。本来であればパブリックコメントって、せっかく意見が出たので、その対話で政策への理解を深めてもらうっていう非常に貴重な機会だと思います。ですので、いろんな例を見せてもらうと、これ多分国や、そういったところの回答の仕方を参考に書かれていると思うのですが、少し改善の余地があるのかなと。例えばこの参考資料3の、ここが一番初めに出てきたので、これが極めて悪いというわけではないのですが、つくば市の自殺対策計画で、連絡先についてこういうふうに改善したらいいのではないかなというような案に対しての答えが、貴重な御意見ありがとうございますと、よりよい支援の検討を進めて参りますということで、全く回答してないのですよね。多分、改善、今はできないだろうと、こういう意見を出している人も思っているかもしれないけど、なぜそれが今できてないのか、どこに課題があるのか、予算なのか、技術的な問題なのか、あるいは

どこかの合意が得られない限りできないのか、あるいはこういうことやってしまうと逆にデメリットがあるのかとか、こういう、意見が出たタイミングでそういう市の現状を差し障りのない限度において説明してあげるという、せっかく貴重な機会を逃しているのではないかなという気がして。なので、もちろん程度問題はあると思いますし、かなりデリケートな問題に関しては答えられない場面も多いのかとは推測はするのですが、可能な範囲でもう少しそういう問いに対して、真正面から答えてあげるといような回答の仕方の転換があってもいいのかなとは思いました。

○座長 ありがとうございます。そうですね。少なくとも現状がこうなっていると、この観点から難しいって、なかなか行政当局は答えられないのかもしれないんですけど、ちょっと、他意はないですけど、この39ページの最初のコメントは、きっとそんなこと言ったってできませんっていうことを安易に言っているとしか、読めない部分があるので今後御検討いただければということでしょうか。

○委員 今までの話と少しずれてしまうかもしれませんが、私、無作為抽出で選ばれて、つくば市からの手紙が届いて市民委員になったものなので、その立場から言わせていただくと、いきなりつくば市からあなたは市民委員になりますかみたいな書類が届いてびっくりしてしまって、たまたまそのときにコロナ関係で仕事の方がテレワークになって、本来の仕事の方に余裕があったので、市役所に電話して、これどうなっていますかと問合わせして、それで、それだったらやってみたいと思って応募したのですけれども。やはり、この選ばれた方の身になると唐突感がとてもあって、そこがもう少しわかりやすいといいかなと思います。自分から応募する方とかパブリックコメントを出す方っていうのは、もう積極的に市政にかかわろうって思っている方で、その方たちの意見を拾うのはとても大切なことだと思うのですが、逆に、全然関心ないという人がこの無作為抽出、たまたまこう手紙を受け取ったっていうケースで生まれてくると思うので、そういう人たちが、せっかくだから参加してみようかっていうふうに思えるような仕組みがあったらいいのではないかと。私は今回たまたま選ばれたのでそういうふうに思います。

○座長 ありがとうございます。今、関連して、市民参加にモチベーションを

持ってもらう方法ですが、委員を経験して得たものを過去の市民委員にエッセイにしてもらって読んでもらったかどうかという御意見が出ていて、確かにそれも一つ、PRになるのかと思いました。

まだ御意見あるとは思いますが、お約束の時間にだんだん迫ってきて、ここでとりあえず、市民参加の御意見につきましては、以上で終了したいのですが、市民参加推進に関する提言書につきましては、前回と今回いただいた内容をもとに作成させていただきたいと思います。作成作業につきまして私と事務局に一任ということでよろしいでしょうか。ありがとうございます。最後にその他ということで事務局から連絡事項が、ありましたらよろしくお願いします。

○事務局 事務局から、その他ということで、令和2年度（2020年度）行政経営懇談会で扱う案件について追加のお願いがございます。詳細につきまして、政策イノベーション部長から御説明いたします。

○部長 市民参加の提言については、座長と事務局のほうで提言つくってそれでもうセットというわけではございませんので、一応案を作成させていただいて、もちろん委員の皆さんからその案に対して御意見をいただく機会もつくりますので、念のため、先ほどの、それでもうセットという誤解がないようにと思って今補足させていただきました。

その他のお話ということでお願いがございます。もともとこの行政経営懇談会、今年度について市民参加の推進について議論していただいて提言を取りまとめるということを目的としておりましたけれども、もう一点、扱っていただきたいと案件がございまして、そちらが今お手元のほうにお配りしております、カラー刷りのものになりますけれども、スーパーシティというものの議論についてです。こちらについて、2回ほど追加で行政経営懇談会を開催させていただいて、ぜひつくば市として、このスーパーシティについてはこの後簡潔に御説明したいと思いますけど、どのようなスーパーシティを目指すべきか、ということについて今後案をつくりますけれども、そちらについて皆さんから御意見をいただければと思っております。

**【スーパーシティに関する資料に基づき説明】**

○座長 今部長から御説明いただいて、スーパーシティ構想に手を挙げるにあ

たってですね、原案はこれからですが、皆さんの御意見を伺いたいその場として、この行政経営懇談会をお借りしたいということですが、御意見、御質問はございますか。よろしいですか。何も皆様から御意見がないということはここで御議論いただくことに同意いただいたというふうに理解してよろしいでしょうか。はい、どうぞ。

○委員 質問ですけど、そうなっていくと、次の回からというのは、今までずっと市民参加について話してきましたけど、市民参加というものは一応終わりですか。それと付随してスーパーシティもやっていこうかなという感じですか。そうすると、今の段階だと、1時間半で市民参加について時間やっていますけど、題目が増えた以上時間も少し時間も伸びたりするのかなと思ったのですけど。

○座長 ありがとうございます。この点につきまして事務局の方でお答えください。

○事務局 今も市民参加について1時間半目安で2時間くらい時間いただいていますけど、基本的には2時間を超えない範囲でやりたいと思っています。今おっしゃっていただいたうちの2番目ですね、市民参加については最終的に提言案を出させていただいて、取りまとめて、最終的には委員の皆さん、座長から市長にそれを報告していただくというプロセスがありますけれども、それと並行して、一つの回の中で提言について議論して、スーパーシティについても話をさせていただくと。半分半分なのか時間の配分はまた後で考えたいというふうに思っておりますけれども、同時並行で動くということになると思います。

一方で、スーパーシティ構想で市が考えていることの中には、こうした最先端技術を使って、どうやったら市民参加を促せるかということも入れようというふうに思っています。ですので、必ずしも分かれたような話ではなくて、先ほど事務局のほうからも言いましたけれども、例えば SNS を使って市民参加を積極的に流すような自治体もございますので、そうしたような取り組みもつくばではできるのかどうかということについて、これから市側で考えたうえでまた御提示させていただければというふうに思っております。

あとはその回数が年度内に5回くらいというふうに御就任いただくときに

御説明していたかと思いますが、スーパーシティの案件が入ることによって、1回増えて6回になるかなと思っておりますので、その点について時間は伸びないですけれども、1回増えます。

○座長 当初4回という形で第1回の時に日程をお知らせしたかと思いますが、1、2回増えますが、よろしいでしょうかということです。で、今、シリコンバレーの成り立ちは、地域企業の巻き込みから始まっています。つくばは大学と、NTTの研究所はありますが、スマートシティで有名な、日立、NEC、富士通、NTTデータなどありません。地域の人に伝えるにも、まずは巻き込める地元のIT企業がないのではないのでしょうかという意見が出ていますことを御紹介させていただきます。ということで、では、まずはこの行政経営懇談会でスマートシティについて御議論いただくと、それに伴いまして、少し回数が増えますが、よろしく御協力のほどお願いしますということで、よろしいでしょうか。それではこの他に事務局から連絡事項等ございますか。

○事務局 事務局のほうから御案内させていただきます。メールでもお送りいたしました。第4回の行政経営懇談会の日程についてです。第4回は来年2月5日の金曜日、時間ですが、夜の6時から開催の予定であります。会場はつくば市役所コミュニティ棟1階の会議室ということで、前回会議をした場所になるのですが、こちらについては新型コロナウイルス感染症の件もありますし、今回のように会場が変更になる可能性もありますので、その際はあらためて御連絡させていただきたいと思います。また、先ほど会議の回数が1回増えるということでこちらから御説明させていただきましたけれども、第5回と第6回の日程調整についてもあらためてさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。以上です。

○委員 ただいま事務局から日程についても連絡ありましたが、何か御質問、御意見等ございますか。よろしいですか。それでは20分ほど超過してしまいましたが、本日予定しておりました案件はすべてこれで終了いたしました。以上で本日の行政計画懇談会を閉会とさせていただきます。皆さん御協力ありがとうございました。良いお年をお迎えください。

《終了》

## 令和 2 年度（2020 年度）第 3 回つくば市行政経営懇談会会議録要旨

## Ⅲ つくば市市民参加推進に関する取組の課題への対応

## 1. 無作為抽出による委員等候補者名簿の活用について

|   | 意見等                                                                                                                                                                                                   | 回答、対応等                                                                                                                      |
|---|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 詳しい分野や関心のある分野など、ある程度階層を分けて、審議会等で扱う内容に応じて、その階層から選ぶというような方法が有効なのでは。                                                                                                                                     | <p>◆事務局（会議後）</p> <p>委員等候補者には、名簿登録依頼の際に伺っている「希望する分野」に沿って、市民委員への就任等依頼を行っている。</p> <p>できるだけ関心のある分野に参加いただけるように、引き続き希望を伺っていく。</p> |
| 2 | 裁判員に選ばれると、働いている人は特別休暇を使える。市民委員に選ばれた場合には、おそらく、自分で有給休暇を取得するしかないと思う。職場で市民委員に選ばれた人がいる場合には、上席者がぜひそれは出てくださいというような働きかけがあってもいいのではないか。                                                                         |                                                                                                                             |
| 3 | <p>【参考資料 4 P45】</p> <p>選択肢に「全ての分野」や「どの分野でもいい」というものがあったとしてもいいかもしれない。今までだと三つしか選べないが、全てに関心があるという市民がいる可能性もあるので、三つに限らなくてもいいのでは。</p>                                                                        |                                                                                                                             |
| 4 | <p>【参考資料 4】</p> <p>参考資料 4 を見ると、硬い印象を受ける。仮に市民委員以外の手法にも参加してもらうという形でアプローチをするのであれば、PR の仕方を変えて、例えば「この 2 年間市政に積極的に参加してもらいます」というような形で PR していくと、翻っては市政に参加できている、あるいは参加する権利は少なくとも与えられているという感じを受けるのではないか。市とし</p> |                                                                                                                             |

|   |                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                             |
|---|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|   | ては、色々な意見を聞きたいというアピールの仕方が考えられるかと思う。                                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                             |
| 5 | 無作為抽出で同意された方は、参加に拒否反応があるわけではないと思うので、市民委員になってもらう可能性と同時に、モニターとして、希望する分野について意見を伺うということもあっていいのかと思う。そういう人たちを核にしながら、分科会等の意見集約をしていく拠点としての役割を担っていただけるようなお願いをするという形態もいいのでは。 |                                                                                                                                                                                             |
| 6 | 特定の市民が審議会等の委員を連続して務めたり、複数の審議会等の委員を併任したりすることは、市民参加として望ましい形とは言えないのではないか。その点では無作為抽出という選び方は決して悪くないのではないかと思う。                                                           |                                                                                                                                                                                             |
| 7 | <p>【6の意見に関連】</p> <p>市民委員は2つ以上の審議会等に参加できないという条件があったかと思うので、一人の人が複数の審議会で市民の代表になることはないと思う。</p>                                                                         |                                                                                                                                                                                             |
| 8 | 委員等候補者名簿に登録されている人から委員を選ぶ際に何か基準はあるのか。どういう形で依頼をする人を選んでいいのか。                                                                                                          | <p>◇事務局（会議中回答）</p> <p>第一希望から第三希望までの希望を見て名簿の上から順にお声がけをしている。年齢や住所等も登録しているが、そこから選ぶと作為的になってしまうため、ランダムに登録されている名簿の上から順に選んでいる。ただし、審議会等によっては、年齢や性別等の要望もあるため、その際は属性を限定して市審議会等の所管部署に候補者情報を提供している。</p> |
| 9 | <p>【8の回答に対して】</p> <p>明記する必要はないと思うが、ジェンダーバランスや年齢層、居住地にあ</p>                                                                                                         |                                                                                                                                                                                             |

|    |                                                                                                                                                                                                                                                               |  |
|----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
|    | <p>まり偏りが出ないように配慮するという一文は、どこかにあってもいいと思った。</p>                                                                                                                                                                                                                  |  |
| 10 | <p>無作為抽出で選ばれた立場から言わせてもらおうと、いきなりつくば市から市民委員になってもらえないかという連絡がきて驚いたものの引き受けたが、選ばれた身になると唐突感があり、そこが改善されるといい。自分から応募したり、パブリックコメントを出したり、積極的に市政に関わろうと思っている人たちの意見を拾うことはとても大切なことだと思うが、全然関心ないという人が無作為抽出で選ばれるケースがあると思うので、そういう人たちが、せっかくだから参加してみようかと思えるような仕組みがあったらいいのではないか。</p> |  |
| 11 | <p>【10 の意見に関連して】</p> <p>市民参加にモチベーションを持ってもらう方法として、委員を経験して得たものを過去の市民委員にエッセイにしてもらって、読んでもらうのはどうか。</p>                                                                                                                                                             |  |

## 2. 申込者の年齢層について

|   | 意見等                                                                                                                     | 回答、対応等 |
|---|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|
| 1 | <p>人が多いところにチラシを設置すればいいということではなく、フェイスブックフェイスの勧誘の仕方が必要になってくるのではないか。例えば、市の職員が区長や民生委員、PTA 等に審議会等を紹介するようなことも必要になってくると思う。</p> |        |
| 2 | <p>宣伝の仕方については、フェイスブックフェイスで働きかけるか、こういう時代だから、LINE 等の SNS を使って若い人たちに PR するなど、もう少し</p>                                      |        |

|   |                                                                                                                                                                                                                                        |  |
|---|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
|   | <p>研究してもいいのではないか。</p> <p>例えば、TX は人口の 10%にあたる人たちが毎日利用している。こういう人たちの通勤や帰宅の際、声をかけられるのではないか。また、病院の待合室やバス、タクシーなど、知ってもらう方法はあると思う。フェイストUFFェイスに加え、そういった方法を有効に活用する。</p> <p>図書館にチラシを置いても、たくさんあって目につかない、パンフレットを置いても、よほど関心がないと手に取る人はいないような気がする。</p> |  |
| 3 | <p>職場のイントラ掲示板に、つくば市政策イノベーション部情報政策課が開催する「Hack My Tsukuba」というイベントが掲載されていた。それを市のホームページで調べたところ、階層が深く、とても探しづらくなっていた。ホームページのトップページのところから見やすくするとか、周りの企業、大学等に少し協力をしてもらい、周りの企業等のイントラや広報に載せてもらう方法もあるのではないかと思う。</p>                               |  |

### 3. 審議会等の応募者数について

|   | 発言者  | 意見等                                                                                                                                                            | 回答、対応等 |
|---|------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------|
| 1 | 飯田委員 | <p>「専門的な内容の会議でも市民目線で取り組む」の課題として、「市担当者側にも負担になる」とあるが、負担になるからやらないということではなく、どのように実施するかという方向にもっていてもらいたいと思う。お互いにどのように歩み寄るかというような形をつくっていければと思う。事例を作って展開していくことが必要。</p> |        |

4. その他（審議会等以外の手法をどのように推進していくか）

|   | 意見等                                                                                                                                                                                                                                         | 回答、対応等                                                                                                                                                                                            |
|---|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | <p>別のまちづくりの会議に出たときに「選挙は1人1票だが、株主総会は株を持っている人の方が、意見が強い。探し方で1人当たりの意見や力が全然違う」という話があった。確かに研究学園都市地区は人口が多いが、筑波地区等には多くの地権者がいる。つくば市を考えていくときに、それぞれ1人として意見を聞くということでもいいのかと、今まで考えたこともなかった発見だった。住民基本台帳からの無作為抽出は一つの選び方ではあるが、もっと別の選び方も考えてもらえるといいのではないか。</p> |                                                                                                                                                                                                   |
| 2 | <p>国連のように、地域代表のような形、地域を加味する方法でもいいのではないか。</p>                                                                                                                                                                                                | <p>◆事務局（会議後）</p> <p>参加いただく際に地域等を考慮する方法についても検討していきたい。</p> <p>なお、市では地域代表として市内6地区（大穂、豊里、谷田部、桜、筑波、荃崎）の各区会連合会会長に委員として参加いただいている審議会等もある。その際、各会長はつくば市在住の市民ではあるが、市民委員（公募又は無作為抽出による参加）ではなく、有識者という扱いになる。</p> |
| 3 | <p>この無作為抽出だけでは、市が勝手に決めて機械的に依頼するという形だが、区会など、ボトムアップの形で丁寧に意見を拾い上げていく方法も併用されてしかるべきだろうと思う。様々な方向から掛け合わせて、多様な意見を拾い上げていくという方法がいいのではないか。</p>                                                                                                         |                                                                                                                                                                                                   |
| 4 | <p>PR は常陽新聞やつくば市のケーブルテレビで募集することもできるの</p>                                                                                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                   |

|   |                                                                                                                                                                                                                           |  |
|---|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
|   | ではないか。                                                                                                                                                                                                                    |  |
| 5 | 市民の意見をどう引き出すかという市の側の努力も必要だと思う。支所とかで高齢者などの声を聞くような取り組みをしてもらえるといいと思う。チラシを配るとか SNS での発信などは、ある意味上から見ている感じがする。市からも、市民が意見を言っている、伝えていいと思えるような努力をしてもらいたいと思う。                                                                       |  |
| 6 | まちづくりのイベントに市の職員を誘っても来ない。特に若い人は自分の地区や地区でどんな活動をしているか把握しているのかと思っている。行政の人にもほぼ強制的にでも地区に入ってもらおうと、色々な意見があるということが職員もわかるし、職員も市民の1人だという意識も芽生えて、いい形になっていくように思う。                                                                      |  |
| 7 | <p>【6の意見に関連】</p> <p>市の職員が仕事ではなく地区に行ってしまうということになると、負担が膨大になると思う。正直、朝から夜8時9時まで仕事をしていて、さらに休日も自発的に地域の集まりに参加してくださいというと、なかなか難しいだろうと思うので、その辺りは仕事の一環として、例えば、若いうちは仕事として行かせて、地域の現状を十分に把握してもらおうなど、制度的な取り組みでカバーできる部分もあるのではないかなと思う。</p> |  |
| 8 | <p>【6、7の意見に関連】</p> <p>つくば市はイベント等が多く、職員も駆り出されており、負担になる。そういうことがあって、地元の会にも出られない。加えて、職員自身の教育等の問題が休日に重なるとなると、やはり、仕組みづくりを考えるべきではな</p>                                                                                           |  |

|    |                                                                                                                                                                                                             |  |
|----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
|    | いかと思う。                                                                                                                                                                                                      |  |
| 9  | 市民からの意見や相談に対して、結果をきちんと返すことで、市が動いてくれたという信頼関係ができていくのではないかと思います。                                                                                                                                               |  |
| 10 | 市側だけに解決策を出していただきというのではなく、分科会のような会議体でも情報を共有できるのではないかと。                                                                                                                                                       |  |
| 11 | カナダの公共図書館の事例だが、コミュニティ担当者という職責を設けて、何か実施する時はその人たちが必ずコミュニティに入り、意見を聞いてから企画立案するという州がいくつかある。市も職員数に限りがあるため、専任というわけにはいかないと思うが、要はシステムとして動かしていく。そうすると少なくともハードルが下がるということになるのではないかと。                                    |  |
| 12 | 委員等候補者名簿への登録を同意した人、以前パブリックコメントを提出した人、市民委員の経験者等に、希望があればメルマガのような形で、パブリックコメント等の情報を送付することも、参加のきっかけになるのではないかと。                                                                                                   |  |
| 13 | <p>【参考資料3】</p> <p>本来であれば、パブリックコメントは対話で政策への理解を深めてもらうという非常に貴重な機会だと思う。参考資料3を見ると、例えば、自殺対策計画に関する意見への対応が全く回答になっていない。なぜ今できていないのか、どこに課題があるのか、意見が出たタイミングで市の現状を差し障りのない限度において説明してあげるといった貴重な機会を逃しているのではないかと気がする。デリケ</p> |  |

|  |                                                                                  |  |
|--|----------------------------------------------------------------------------------|--|
|  | <p>ートな問題に関しては答えられない場面も多いと推測するが、可能な範囲で問いに真正面から答えてあげるといような回答の仕方の転換があってもいいと思った。</p> |  |
|--|----------------------------------------------------------------------------------|--|

## 5. 資料について

|   | 意見等                                                                                                                                                                                                                  | 回答、対応等                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|---|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | <p>【参考資料 6】</p> <p>人口に対する応募者についての表かと思うが、表を見ると、研究学園都市地区は人口も多く、それに対する応募者も多いという感じがする。しかし、研究学園都市地区 33 人ぐらいを割ることの 7 万人で計算した場合と、荃崎地区等の 5 人ぐらいに対して 2 万人を計算してみると、荃崎地区の方が 0.5% で多い。計算の仕方で全くデータが異なるので、この参考資料 6 の見方を教えてほしい。</p> | <p>◇事務局（会議中回答）</p> <p>おっしゃるように、パーセンテージで言うと、荃崎地区、筑波地区、豊里地区の応募者が多くなると思う。表は市民委員に応募している傾向ということで出しており、パーセンテージではなく、実数での表になっている。人口が多い地区は応募者数も多いという事を示している資料のみ。表では人口が多い研究学園都市地区は応募者も多くなっているが、割合で見ると必ずしもそうではない。</p> <p>◇座長</p> <p>参考資料 6 に人口比のパーセンテージも加えてもらえると、より偏りのないデータとして判断できるという気はする。</p> <p>一方で、人口比で出ていればそれで公平かという、必ずしもそうではないという悩ましい問題がある。地区代表ではないが、つくば市の中で地域をある程度網羅しているということも重要な要素であることは間違いないと思う。</p> |
| 2 | <p>【資料 1 P1】</p> <p>つくば市の目指すべき市民参加について、数字はわかりやすいが、例えば、審議会ですどのぐらいの意見が出てくればいいのかとか、20 万人のうちの 2 万人近くの意見が出てくるのがあるべき姿なのかという数値的な目標があるの</p>                                                                                  | <p>◇事務局（会議中回答）</p> <p>唯一、市民が参加可能な審議会等では 100% 市民委員に参加してもらう。そのとき、委員全体のおおむね 3 割を市民とするという指標はある。</p> <p>その他、地域やパブリックコメント件数について、特に目標は設けていな</p>                                                                                                                                                                                                                                                           |

|   |                                                                                                       |    |
|---|-------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|
|   | か。パブリックコメントだったら年何件ぐらいを目指すのかなど。                                                                        | い。 |
| 3 | <b>【2の意見に追加】</b><br>このぐらいになると市民が市政に参加しているという目に見える数字があってもいいのかと思った。それとも、参加する人がいて、いい意見が出てくればいいという考え方なのか。 |    |
| 4 | <b>【2、3の意見に関連】</b><br>数値だと、賛成か反対のどちらかに評価が分かれてしまうかと思う。意見は数値目標の中には入らないため、個人的には避けてほしい。                   |    |

## 6. スーパーシティについて

|   | 意見等                                                                                                                                         | 回答、対応等                                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|---|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | <b>【今後の協議について】</b><br>今まで市民参加について話してきたが、市民参加は一応終わりになるのか。それとも、市民参加に付随してスーパーシティも協議していくことになるのか。今は1時間半で市民参加について協議しているが、案件が増えると時間も伸びるのかとは思ったのだが。 | ◇事務局（会議中回答）<br>基本的には2時間を超えない範囲でやりたいと思っている。<br>市民参加については並行して一つの回の中で提言について議論して、スーパーシティについても話をさせていただく。同時並行で動くということになると思う。<br>一方で、スーパーシティ構想で市が考えていることの中には、こうした最先端技術を使って、どうしたら市民参加を促せるかということも入れようと考えている。必ずしも分かれたような話ではない。<br>また、当初、会議は年度内に5回くらいと御説明していたかと思うが、スーパーシティの案件が入ることによって、1回増えて6回になる。 |
| 2 | シリコンバレーの成り立ちは、地域企業の巻き込みから始まっている。つくば市は、大学とNTTの研究所は立地しているが、スマートシティで有名な、日立、NEC、富士通、NTTデータなど                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                                         |

|  |                                            |  |
|--|--------------------------------------------|--|
|  | がない。地域の人に伝えるにも、まずは巻き込める地元の IT 企業がないのではないか。 |  |
|--|--------------------------------------------|--|

## 会 議 録

|             |                                                                                                |                                                                      |      |    |
|-------------|------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------|------|----|
| 会議の名称       |                                                                                                | 令和２年度（2020 年度）第５回つくば市行政経営懇談会                                         |      |    |
| 開催日時        |                                                                                                | 令和３年（2021 年）２月 26 日（金）18:00 開会 20:00 閉会                              |      |    |
| 開催場所        |                                                                                                | つくば市役所２階 防災会議室                                                       |      |    |
| 事務局（担当課）    |                                                                                                | 政策イノベーション部 企画経営課                                                     |      |    |
| 出席者         | 委員                                                                                             | 飯田委員、上田委員、上平委員、佐藤委員、白倉委員、永田委員、星埜委員、堀委員、水谷委員、溝上委員                     |      |    |
|             | その他                                                                                            |                                                                      |      |    |
|             | 事務局                                                                                            | 森政策イノベーション部長、杉山政策イノベーション部次長、大越企画経営課長、会田企画経営課長補佐、中村企画経営課長補佐、大見係長、栗島主事 |      |    |
| 公開・非公開の別    |                                                                                                | ■公開   □非公開   □一部公開                                                   | 傍聴者数 | ３人 |
| 非公開の場合はその理由 |                                                                                                |                                                                      |      |    |
| 議題          |                                                                                                | (１) 令和２年度（2020 年度）つくば市行政経営懇談会提言（案）について<br>(２) スーパーシティ基本方針について        |      |    |
| 会議次第        | 1 開会<br>2 議事<br>(１) 令和２年度（2020 年度）つくば市行政経営懇談会提言（案）について<br>(２) スーパーシティ基本方針について<br>3 その他<br>4 閉会 |                                                                      |      |    |

### ＜審議内容＞

○事務局 定刻となりましたので、ただいまから令和２年度第５回つくば市行政経営懇談会を開会いたします。

前回と同様に、対面式とウェブ参加とのハイブリッドでの開催となります。  
よろしく願いいたします。

それでは、早速ですが、議事に入りたいと思います。進行は座長にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

○座長　こんばんは。では、始めさせていただきます。まず、本日の予定を申し上げます。

本日、御議論いただく内容でございますが、次第にございますように、令和2年度（2020年度）つくば市行政経営懇談会提言（案）について及びスーパーシティ基本方針についてです。

本日の会議ですが、午後8時を終了予定として進めていきたいと思いますので、御協力をお願いします。また、会議の公開、非公開につきましては、原則公開ということが既に決定されておりますので、本日も公開ということで進めてまいります。

次に、本日の配付資料について確認をしたいと思います。

次第にございますように、本日使用する資料一覧がございます。御確認いただきまして、過不足がある場合は事務局までお知らせください。皆さん、よろしいでしょうか。

では、早速ですが、議事に入らせていただきます。

まず、議事の（１）令和2年度（2020年度）つくば市行政経営懇談会提言（案）についてです。提言書案につきましては、第4回で頂きました御意見等を踏まえまして、事務局で修正を行い、2月19日までに1度内容を御確認いただいております。今回が最終確認となります。

それでは、事務局から説明をお願いします。

○事務局　【資料1に基づき説明】

○座長　ありがとうございます。事務局から、第4回で皆様から頂いた御意見等の確認と、提言書案について説明がございました。提言書案につきましては、前回も申し上げましたとおり、本日、第5回懇談会で最終確認とさせていただきます。

つきましては、事務局から示された内容で決定してもよろしいでしょうか。  
何か御意見がございましたら。よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○座長 では、今、事務局から御説明があった案ということで、令和２年度（2020年度）つくば市行政経営懇談会提言につきましては、この内容で決定とさせていただきます。皆さん、ありがとうございました。

どうぞ。

○委員 この「おわりに」の部分なのですが、これは、最後に座長のほうでまとめるということでよろしいでしょうか。

○座長 はい、そうです。

○委員 今回、審議会等の市民委員の参加ということで、僕自身、なかなかこれという意見を出せなかったなと、少し難しかったなと思っているのですが、市民の方々は、自分の生活に身近な、当事者として関わることによって、いろんな行政サービスについての意見というのを持っていると思うのです。

例えば、出産なり子育てなりに伴って、子育ての問題であるとか、あるいは待機児童の問題であるとか、学校に通えば学区の問題であるとか、学校規模の問題であるとか、高齢者の公共交通の問題であるとか、地域包括ケアの問題であるとか、様々あると思うのですけれども、そういった意見を表明できる場がきちんとあるか。それから、そういうことを表明するような機会がきちんとあって、関心を持っている人たちが話し合えるような場や機会が用意されているのかということが多分前提にあって、そういうボトムがきちんと形成されていくことによって、意見が上にボトムアップとして上がってくる。そういう、つくば市全体が、自分たちが行政に対して考えていることを気軽に言ったり、あるいはそういうことをテーマについて話し合ったりできるようなことが地域の中で、区会などが多分いろいろと行っていると思うのですけれども、そういったことが気軽にできるような街になっていくという

ことが前提になって初めて、いわゆる自治的な、市民が育っていく地域の力ができてくると思うのです。

そういう前提があって初めて、その蓄積の上に市民委員みたいな手を挙げる人たちが出てくると思うので、前提として、つくば市という街全体が、地域ごとに、あるいはテーマごとに様々な意見を言える場や機会がたくさん用意されていることが前提で必要な条件としてあって、その上で初めて、市民委員のような方たちによって、こういう公共の場で様々な議論が行われるということが本来的な在り方というか、大事なことなのかなと思っています。

ですから、座長の意見として、最後に「おわりに」の部分で、そういった意見を盛り込んでいただけたらなというふうに考えています。以上です。

○座長 ありがとうございます。本来でしたら、今日ここで、私の「おわりに」をお示しして、皆様から御意見を伺わなければいけないところ、御覧のように空欄になったままで大変申し訳ございません。案を考えましたら、メールになると思いますが、皆様に御意見、加筆修正の御意見を頂きたいという形で。それぐらい時間ございますよね。

○事務局 はい。

○座長 そのときに、今、委員がおっしゃったようなことも書く予定ではございますが、もし抜け落ちているようなことがございましたら、加筆修正していただきたいと思います。よろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○座長 ありがとうございます。

○委員 一言だけよろしいですか。

○座長 はい。

○委員 前回、Zoomで参加した際に言えなかったことを一言だけ。

この提言書を実現する一つの手段なのですが、公募の在り方なのですけれども、この第2期つくば市戦略プランというすばらしいものができていて、

私、これ、全部コピーを取って見たのですが、この後半に未来構想キャラバンというのがたくさんあるのです。これはとてもいい内容に私は思ったのです。様々な場所で様々な意見が出て、写真やコメントが掲載されていて、よくできているなと思ったのです。学生や地域の意見とか。なぜこれが市民まで行き渡るようになっていないのかと思ったのですが、こういった形式を、例えば様々な審議会で行い、こういった形式で、つくば市の広報の後ろにでも毎掲載せたら、市民の理解はもっと進むのではないかなと思ひまして、意見というわけではないのですが、よろしくお願いします。

○座長 審議会や何かで出た意見を広く市民の皆様にも伝えていくことが市民参加のきっかけになるというようなことは、前回までの議論でも出ていたと私は思っておりますので、今の委員の御意見は十分反映できているのではないかと考えております。

よろしいでしょうか。もしまた何かございましたら。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○座長 それでは、この内容で決定。正しくは、私が「おわりに」を書きましたら、皆さんに見ていただくという前提で、それ以外の部分はいいいということ  
で決定とさせていただきます。

では、次、続きまして、議事の2番目、スーパーシティ基本方針についてです。

ここで一度事務局に進行をお返ししたいと思いますので、よろしくお願いします。

○事務局 ありがとうございます。では、議事の2、スーパーシティ基本方針につきましては、政策イノベーション部スマートシティ戦略室の担当から、説明及び進行を進めさせていただきたいと思ひます。よろしくお願いいたします。

○事務局 皆さん、こんばんは。提言の取りまとめ、本当にありがとうございます

ました。

早速、政策イノベーション部でも市民委員を募集するタイミングがあるので、提言とどっちが先になるか。あとは、その提言いただいたものをどういう形で市の市民委員を募集するところの指針に反映していくかというところ、まだスケジュールは決まっていないのですけれども、できる限りハードルを下げるような工夫を早速、同じイノベーション部の中なので、進めていきたいというふうに思いました。本当にありがとうございました。

では、私から、スーパーシティに関して、現在の状況、前回頂いた御意見をどのように反映させようとしているかということをお説明させていただきます。

**【資料2、3、4に基づき説明】**

それでは、残り時間としましては、30分ほどです。皆さんから追加の御意見頂ければと思いますけれども、挙手でお願いできればと思います。

○委員 意見じゃなくて質問なのですが、つくば市のホームページを見ていたら、全員協議会の資料というのが載ってまして、そのスーパーシティ基本方針というワードの資料の10ページ目に、学校での体調管理のデジタル化というのが書いてあって、今、提案していただいたのは、とてもいい提案だと思うのですが、今、コロナ禍でとても必要とされているということだと思うので、こちらはどうなってしまったのかなと、お聞きしたいです。

○事務局 それは引き続きやる予定です。今の状況としては、既に市内の小中学校、これは義務教育学校も含めて全部ですけれども、朝、紙で保護者の方が体調、体温を書いて先生に出すということをやっていたのですが、それを全部スマホアプリで、原則にさせていただいています。大体2万人ぐらい小中学生合わせていらっしゃるのですが、世帯で言うと1万5,000ぐらいなのですが、9割以上の世帯で、既に使っていただいています。

ですので、それを引き続きやっていくということと、それから、それがデータになって、学校の担任の先生が見られたりだとか、校長先生が見られたりというふうになるのですけれども、そうすると、そのクラスごとの体調の変化というよりは、例えば体温の挙動なども見るできるようになりますので、それによって、例えば事前に何か策を講じるだとか、公衆衛生学的な観点でも使えるのではないかということで、まだその部分がなかなかできていないので、今回、スーパーシティに採択されたときには、そういう仕組みもつくっていきたいというふうに思っています。

○委員 すみません、私ばかり話して。それで、このスーパーシティの提案をするときに、もう既にやっていることがあって、これをこういうふうに進展できるよということを付け加えたら、プラスポイントになるのではないかと考えたものですから。

○事務局 ありがとうございます。今申し上げたクラスごとの分析の部分、これは今も既にデータとしては、保護者の方にそういったような分析にも、もちろん匿名にした上で活用させていただくというような利用規約になっているのですけれども、例えば市民の方、お子さんの体調のデータに基づいて、次の措置を取るというときに、できること、できないことがありますて、というのは、その情報の共有の範囲が、例えばほかのサービスの事業者にはそのまま移せないということも当然あります。そういったところで、いかにそのデータの共有について、不快に感じない範囲でそのデータを共有することで別の策ですね。例えば、そのまま医薬品を配達してもらうだとかにつなげていけるかというのを考えておりまして、今もその医療相談アプリを使うことで、体調についても報告できて、さらに医療相談もそのまま同じアプリでできるのですけれども、さらにその次の展開を今考えているところです。

まさに、それは民間企業のLEBERという筑波大の医学部出身の方が立ち上げたベンチャー企業が提供しているアプリなのですけれども、そこも連

携事業者に入りましたので、さらにそこは病院も経営しているのですけれども、訪問診療をやっているような病院も経営していきまして、そことうまく連携できないかということを今、考えております。まだ途中の段階ですので、具体的に何をということはまだ申し上げられないのですけれども。

ありがとうございます。さらに発展させていかないと、今もやっているよね、ということになると思うので。その辺りは考えていきたいと思います。

お願いいたします。

○委員 前回、大体何年計画でどれぐらいの予算かというような質問をさせていただいたのですけれども。見ていると、割と多言語ポータルサイトアプリとか、先ほどの健康管理とか、スーパーシティでないと絶対できないというものばかりではなくて、これから世の中、そちらに現にできつつあるものもあるよというのがあれば、例えばこのパーソナルモビリティのように、本当に10年でできるのかなと思うようなものもあって。

この計画で、大体10年とか20年とかのスパンがあったとしたら、これくらいでこういう形になっていくという何か未来図というか、何年後はこういう計画があると分かりやすいのではないかなと思うのです。ぱっと、10年後に全部できるのではなくて、地道にできるものから進んでいくと思うのですけれども、やはりお金もすごくかかるものは時間もかかると思うし、まずここから初めて、こう積み上げていくというような計画図があると分かりやすいのではないかなと。実現性が実感として感じられるような気がします。

○事務局 どうもありがとうございます。本当に重要な御意見だと思います。

スケジュールについては、実は内閣府に対する申請書の中ではきちっと、線表というふうに呼んでいるのですけれども、例えば2021年から2023年までには何をやって、どのサービスについて何をどこまでやっていきますというのを書く。

さらに、これは内閣府の申請の様式にはないのですけれども、スーパーシ

ティ自体が2030年まで見据えたものですので、つくば市としては1枚追加して、2030年までに、いつ何をやるのかということも追加で出したいと思っています。今日の段階でまだお示しできていなくて恐縮なのですが、それはしっかり必要だということは認識しておりますので、また出来上がり次第、もし出来上がった後に住民説明会、各地区で開催されるようであれば、そこでお示ししていきたいなというふうに思います。

例えば、行政サービスの分野でいいますと、インターネット投票のタイムラインについては、このように考えていますということを申し上げますと、まず、技術的には既に3年間実証実験を行いまして、スマホからマイナンバーカードを読み込み、本人確認をした上で投票するということはできるようになりました。それと同じ仕組みを使って、来年度中に、例えば区会の役員を決めるものとか、あるいは大学の中での役職者を選ぶような選挙。それから、学校と協力して、学校の生徒会長を決める、あるいは生徒からの意見聴取。これは例えばコロナ禍であれば、修学旅行をどうしますかみたいなことを生徒に聞くときに、誰が何を、誰がどういう投票をしたかということとは分かりませんので、素直な御意見を出してもらえると確率が上がると思ひまして、そういうような意思表示みたいなものも来年度中にやりたいというふうに思っております。

さらに、それを公職選挙でやるためには、公職選挙法がございますので、法令違反になってしまうわけなのですが、スーパーシティに選定された場合には、こちらからこういう規制緩和をしてほしいということを国に言ひまして、国のほうが関係省庁を含めて議論して、規制緩和する、しないということを決めるのですが、それに大体1年とか2年ぐらい、ものによってかかるというふうに言われています。公職選挙については、例えばですけれども、3年後、次の市長市議選だとか、そういったタイミングで規制緩和されていれば、できるようになるのかなということです。

さらに、その間にも、技術的に変えていけるような部分というのをまだ磨ける部分というのがありますので、既に3年間実証実験をやって、うまくいっているのですけれども、作り方として、例えば今だと投票のやり直しをできるようにしているのです。これは、インターネット投票に対する懸念の一つなのですから、投票所ではないので、脅迫されながら投票する人が増えるのではないかなというような心配もされていて、今も例外として郵便投票が認められている方もいらっしゃいますので、同じなのですが、インターネット投票になると、そうなるのではないかな。その懸念に対応するために、やり直し投票ができるような仕組みにしていまして、つまり、脅されて投票したとしても、締切りの直前に、もう一回、本当に自分が投票したい方に投票できるようにしているのですけれども、そうすると、最後の最後まで、投票者と投票した先がくっついていることになっているのです。両方とも暗号化されているので、誰が投票したかというのは分からないようになっているのですけれども、ものとしてはくっついていて、やり直し投票のときには、両方とも復号ということをして、投票した先を変えた上で、また暗号化するという。普段の投票であれば、紙を投票箱の中に入れるので、投票者とその投票した投票箱に入っている紙との関係は完全に切れる。切ったほうがいいのか、でも、切ってしまうとやり直し投票ができなくなる、その辺りについてはいろいろ考えもあるので、公職選挙までの間の時間をかけて議論をして、つくば市ではどうしたいのかということを考えていきたい。そのようなことも内閣府に申請をするときの申請書の中には、線表を書くことになっていますので、具体的に書いていきたいと思ひますし、それができてきた段階で、住民の方にもお示ししたいというふうに思ひております。

ほかにいかがでしょうか。

はい、お願いします。

○座長 先ほど母子手帳の話をして、また一般の市民の方の御意見にもあつ

たのですけれども、今日の資料とかを見ると、もっぱら高齢者サービスが強調されすぎていて。今の御説明で、考えていますよということだったのですが、けれども、ぱっと見ると、交通サービスと高齢者サービス頑張りますというふうに見えてしまう計画になっているので、日本一子育てがしやすい街みたいなイメージを思ったときに、何をつくば市でやってほしいかなという発想も少ししていただけたらと思いました。

例えば、低レベルな発言をすると、何で子供がたくさん出てこないで、やたらと年寄りの絵ばかり、このスライドに出てくるのだろう、もう少し若い人の図柄もあってもいいのではないかなというのは思いました。

そして、やはり待ったなし。学童保育や、保護者、保育所は待ったなしの需要で、過ぎたらもう要らなくなってしまうですね。その問題をどう解決していくかというのは、結構私は重要だと思うので、スーパーシティなので、すけれども、必ず待機児童ゼロ、ロボット使ってもやりますとか、子供は学童保育で、家にいたら、必ず家に帰ってきたら、何かボタン押すと、子供が帰ってきたなと親が認識できるアプリとか、例えばですけれどもね。そんなことももっと積極的に書き込んでいただけたらありがたいなと思いました。

○事務局 御意見ありがとうございます。住民説明会でも、子供、子育て向けないという御意見を頂きましたし、また、オープンハウスの御意見でも、今、健常な方という表現をしていましたけれども、健常な人にとってもメリットを感じるようなところがありました。その点については、しっかりこれから資料に盛り込んでいきたいというふうに思います。子供の見守りについても、やはり需要があるのだと思いますので、そのことについても、どうやって実現できるかということ。連携事業者の方からは、実は提案いただいていることもありますので、その辺り資料にも盛り込めたらと思います。

高齢者の方が中心になっているような資料になっているのは、これは結果

的に失敗だったのですけれども、反省するところなのですが、逆に、その高齢者の方が取り残されてしまうのではないかというふうに思われたら、それは本末転倒といたしますか、我々のほうで、スーパーシティはあくまでも地域の課題の解決のためにということでやるわけですので、そのときに、もう最初の入り口のところから、これは我々には関係ないというふうに思われてしまうとよくないなというふうに思いまして、かなり高齢者にフォーカスした焦点を当てた資料にしてしまい、逆にそれ以外の方のことがあまり考慮されていないということになっていたもので、その点はしっかり反省して、次の資料では盛り込みたいと思っております。ありがとうございます。

○座長 あと1点。ICT、タブレットを使うとか、スマートフォンを使うといったときに、アナログ的に何かトラブルがあったら、すぐ解決してくれるICTお助け隊というか、サポーターみたいな配置を、例えば公民館や何かで必ず常駐していただいて、そこに行けば必ずスマートフォンがフリーズしちゃったとか、タブレットがフリーズしたときに助けてくれるというような。スマートシティでアプリの話ばかりですけれども、その前提となるICTインフラみたいな部分もぜひ、図に出てこなくてもいいのですけれども、考えていただいているのですよねという確認です。

○事務局 図の中ですと、資料3の青いところの上にデジタルインフラ整備というところがありまして、それにスマホアドバイザー配置というのがあります。これは、その地域に何でも使い方について相談できる人を配置したいということで、このような表記させていただいているのですけれども。どこに常駐とか、その辺りについては、まだ何も決まってはいませんので。常駐ということも御意見として承って、あとは当然、それは無償というわけにはいかないですし、それは常駐じゃなくても、有償ボランティアが望ましいと思っていますのですけれども。いろいろ考えていきたいと思います。ありがとうございます。

ほかにはいかがでしょうか。お願いします。

○委員 いろいろ説明を頂いたので、ようやく理解ができてきたところなのですけれども、私、今、LEBERの体温を毎日入力するというのを実際利用しているのですけれども、非常に便利なのですね。紙よりも圧倒的に速いし、便利だし、間違いもないし、子供が渡し忘れる、持っていく忘れることもないというので、これは元に戻れないというような感じでいるのです。

いろいろな多方面にわたってサービスを展開しようと思われていると思うのですが、やはりこうした何かちょっとした困っていることを便利になるというか、絶対こっちのほうがやりやすいよねというところの積み重ねが大事なのかなと思っていて。いろいろ多方面に展開したいということももちろん大事だとは思っているのですけれども、やはり一つ一つのサービスを吟味して、間違いなくこれは使いやすいと。こっちに移行したほうが、市民として便利だということを吟味、一つ一つしていただきたいというのを思っています。まさにそれがサービスを社会に実装するということにもつながってくるのかなと思っています。

例えば、子供の話でいうと、私、子供をどこか市のいろんな催し物ですね。市報とかに記載されているものを連れていこうかなと思うのですけれども、そういうときに、いろいろ催し物によって申込みの仕方が違っていたりとか、あと、一番苦しいのが、つくばちびっこ博士なのですけれども、これは研究機関ごとにいろいろ期間も違えば、申込み方法も、インターネットだったり往復はがきだったり、何かそれぞれ違うのですよね。これ、なかなか気力がないとできなくて、1年ぐらいは頑張ったのですけれども、2年目は断念してしまったというようなところもあるので。そういうちょっとした不便なところをこういうITの力で変えていけるといえるところは、探せばいろいろあると思うので、そういうのを中心に、もちろん、法規制を乗り越えて新しいサービスを導入するのだという大上段の考え方も非常に大事だとは思っている

すけれども、そういうボトムアップ的な発想で細かい不便を拾い上げていくと。そちらの両面から進めていっていただきたいというふうに思います。

あと、つくば、せっかく研究機関やすばらしい大学もあるので、今の話と逆になり、また分野を広げろという話になってはしまうのですが、教育に関しても何らかの言及ができると本当はいいのかなとは思っています。今、多分、小学校2年生以上はタブレットを配布しようとしていると思うのですけれども、今回、スーパーシティになれば、さらにそこから進んでいろんなことができますよというようなものを書いていただけると、子育て世帯や子供たちにとっても実感できるようなスーパーシティになってくるのかなと思います。以上です。

○事務局 どうもありがとうございます。本当におっしゃるとおりでして、規制緩和事項がかなり、スーパーシティ、特区なので、それが大胆なものがあるというのが、その一つ内閣府のほうで強調している部分がありまして、そういうこともあって、今までのルールを変えてこういうことをやっていくということが目立つようになっているのですけれども、まさにおっしゃるとおりで、今の規制がかかっているからできないわけではなくて、ただ、そういう仕組みになっていないので、申込み方法が違うだとかいうのはたくさんあるので、その辺についても、一部は盛り込んでいるのですけれども、もっとそういう点も分かりやすいように表現していきたいというふうに思います。

教育については、これもおっしゃるとおりで、先ほども遠隔教育で少し申し上げましたけれども、今、全然盛り込めていなくて、どういうふうに今回、スーパーシティの提案の際にできるかというのは分からないのですけれども、先ほどの例えば投票の仕組みを学校でも使っていくだとか、そういったところから何か学校との連携というのを始められないかと思っています。これも教育の部分はつくば市、本当は盛り込みたいなという話を何回もしているのですけれども、あまりいいアイデアがなく、今のところは盛り込めてい

ない状況です。ありがとうございます。

では、委員、お願いします。お待たせいたしました。

○委員 今、おっしゃったことに重なるかもしれないのですが、まず、非常に基本的なところで、私、このスーパーサイエンスシティ構想の最初の誰一人取り残さないという言葉に反応すると、ここにやはり子供たちというものをちゃんと入れてほしいと思うのです。それで、この基本方針のいろいろな案を読んでいると、私を含めた高齢者向けにいろいろサービスをしようということになっていますが、この目標が2030年ということであると、それよりは、これからつくば市をつくり上げていく人たち向けに、もう少しこの構想を役立てて、こういう未来がありますよということを盛り込んでほしいと思います。

例えば、今、待機児童の話もありましたけれども、幼稚園に子供たちを入れるための申込みのときに、親が、今は、このコロナのときは少し違ったかもしれないですが、それよりも少し前は、前の晩から並んでいるということもあるのです。ですから、保育園だけではなくて、幼稚園も親御さんたちが自分の子供を通わせたいところに申し込める。そういう手段としても、こういうものを使えるといいなと思っています。

それから、不登校とか、学校に行きにくいお子さん、それから、障害を持ったお子さんたちも、こういう先端的なサービス、教育サービスを使うことによって、より自分の未来というものを考えていくことができるのではないかと思いますので、高齢者向けだけではなくて、そういう貧困家庭の子供たちに関しても、こういうスマホを貸与するとか、配布するのではなくて、やはり貸与ということがいいのではないかと思いますので、その辺も考えていただけると、科学の街、それと、教育日本一という何かキャッチフレーズも以前はあったので、そこでつくばらしさというものを出せるのではないかと思います。以上です。

○事務局 どうもありがとうございます。子育て世代向けというふうに捉えて、そこに子供も含まれるというふうに思い込んでいたのですけれども、子供そのものに発信するという観点が抜け落ちていたので、それを今お聞きして、非常に重要なポイントだなと思いました。これは読まないかもしれませんが、子供も、つくばがこうなっていくということに夢を描けるように発信していくことも大事だなと思いましたし、障害者向けというのは、これも高齢者向けと重なる部分はあるのですけれども、言葉として出てこない、気づくことは確かにできないので、その辺も考えていきたいというふうに思います。

貸与のアイデアについても、ありがとうございます。

お願いします。

○委員 つくばといいますと、先端技術ということと、それから、高齢化と両極端のテーマが取り上げられているのですけれども、中途半端な地区という表現をなさって意見された方もいらっしゃると思いますが、やはり筑波地区、それから宝陽台にしましても、30数%、40%とかという高齢化率だと思うのですが、私の住んでいるところだと、高齢化率25%なのです。一時、つくバスが走っていたのですけれども、利用者が少ないということで廃止になり、また復活したのですが、今、全路線の中で、一番乗車率が低いのです。何でだ、ということで、公共交通を担当されている方もやはりうちまで来ていただいて、どういう取組方をしましょうかとかという御相談があったのですけれども、それが全然具体化していないのですよね。

やることがいっぱいあり、なかなかそういう現場からの声が上層部まで届かないのかなと、活動しにくいのではないのかなと。そういうことも勘ぐってしまうのですけれども、そういうことで本当に、中間地帯がやはりあるということがありますので、そういったところ、なかなか隠れてしまうのです。モビリティの話とか、それから、ドローンによる配送とかというのと、すぐ

先端技術とかそういったことを活用して、超高齢化のところに活用しましょうということなのですが、そういう地域だけじゃないというところに対して、そちらは今、これからこの取組方、どのように水平展開できるのかとか、そういったこともやはりやっていただかないと、つくば市の中でいびつな形でできていってしまうのではないのかなと。それをすごくやはり心配しています。

他の委員会にも参加しているのですけれども、目が行くのが中心部なのです。つくばを自転車の街にということもやっていますけれども、道路の整備がされているところで自転車をどう活用しましょうとか、それから、レーサーを呼んで、筑波山から、名前を忘れましたけれども、そういったところを使って脚光を浴びるようなことなどが話題にはなるのですが、我々の住んでいる周辺部というのは本当に道路事情って悪いのですよね。県道であっても歩道がない。そういったところを自転車通勤するような方、通学するような方、学生さんもいるわけです。その辺りをなかなか一括でやっていくのは難しいと思うのですが、そういったところに、どのようにその効果を波及させるかというようなことも、大きな課題として一つ残しておいていただければと思います。これは要望です。

○事務局 ありがとうございます。横展開の方法は、確かに、今、効果があるものは他地域にも広げるということだけは書いてありますけれども、具体的にどういうふうに横展開していくのかということの計画をしていかないと、いつまでたっても横展開されなくなってしまうので、そこをどうするかは考えたいと思います。

今少し思っているのは、いろんなサービスがありますけれども、そのサービスを評価していく、サービスの実施の効果を評価していくような仕組みを最初の段階から織り込めないかなというふうに思っています。例えば、医薬品の開発だと、動物実験から始まって、フェーズ1、2、3みたいなところが

あって、厚労省の認可が下りて、販売というのがありますけれども、それと同じように、それぞれのサービスごとに、ここまで行ったら1段階目クリア、ここまで行ったら1段階目クリアというレベル、そのステージの3番目まで行ったら、ほかの地域にも行きましょうと。そのほかの地域の展開する先についても、あらかじめ、適当に決めるのではなくて基準を決めておいて、例えばもう道路が整備されていることが前提になるようなサービスであれば、そういうような明確な基準で、条件が整っていないところについてはインフラの整備も併せてやっていく必要があると思うので、それは次のインフラの整備のタイミングと合わせてやっていきたいと思いますというように形で、最初の計画の段階から盛り込んでいくことが大事だと思っているので、中間地点とおっしゃいましたが、広く捉えて、違ういろんな地域につなげていくための仕組みを考えたいと思います。ありがとうございます。

お願いします。

○委員 先ほど、小学校2年生以上まではタブレットを支給というお話やっていたのですが、それはすごくいいことだと思うのですが、ネット環境が整っている家庭とそうじゃない家庭というのがあると思うのです。

例えば、私の知り合いの方は、Wi-Fiがなくて、全部スマホでやっているから、高い大きな容量でやり取りできるというふうな方もいるのですが、家庭とか親とかは子供は選べないので、そういうところで助けを必要としているお子さんに、先ほど、子供さん向けに発信ということをおっしゃったのですが、子供が安心して、子供自身が安心して大人になれる街つくば、みたいな感じでやっていただければと。

あともう一つ、泥くさい話なのですが、子供食堂がつくば市に6か所ぐらいあるというのを見ました。ボランティアベースなので、どれも月1ぐらいとかしか開けていないみたいなのですが、お金と時間に余裕がある親御さん、保護者の方がいる子供たちは、どんどん上に行けると思うの

ですけれども、そうじゃなくて、網から落ちてしまいそうな子供たちをすくい上げるということも、誰かが助けてあげないと、どんどんどんどん落ちていってしまうという、そういうお子さんたちにもっと目を向けていただければと思いました。話がずれてしまいますのですけれども。

○事務局 ありがとうございます。そうですね。インターネット環境は非常に大事なことで、やはりインターネットにつながっていない端末は配った意味がないので、市も端末を配るタイミングでどうするかというのは考えて。私も教育局から少し前に聞いた話なので、変わっているかもしれませんが、たしか就学援助世帯に対しては、ルーターを配るということになったはずで。その線引きが難しくて、就学援助世帯、給食費が無料になる世帯だったと思いますけれども、その線が、果たしてほかのもっと、給食費は払えるけれども、払える水準だけれども、インターネットのその容量は1ギガぐらいしか使わないようにしているだとか、そういったところが残されてしまうということはあるので、これは高齢者向けのスマホの配布や貸与と同じなのですけれども、どうすれば本当に困っている人たちにも行き渡って、逆にこういうサービスが展開されていくことで格差が広がるようなことにならないのか。むしろ縮められるのかというのを考えていきたいと思います。

子供向け、そうですね。例えば、タブレットなどが子供に普及していつ、しかもそれがインターネットにつながれば、例えば、経済的に余裕がある人しか学習塾に通えなかったところが、非常に安い価格で遠隔の教育サービスを受けられるということで、おっしゃられたように、時間的にも金銭的にも余裕があるところの子供は、どんどん力をつけていくというところは、むしろこういった先端技術を使うことで狭められる可能性はあるので、そういう意味でも、教育って非常に重要だなと思うのですけれども、今はまだつくばの構想には盛り込めていないので、御意見どう反映できるのか考えたいと思います。ありがとうございます。

時間になってしまったのですけれども、よろしいでしょうか。では、最後に1点だけお願いします。

○委員 結構、四つほどあるのですけれども。タブレットは実際に何歳の方に配布するという予定なのか、それから、災害の観点から見て、今、私はつくばの北、北条の近くに住んでいるのですけれども。旧小学校の跡地、私、田水山小学校、中学校は筑波西中というところに通っていたのですけれども、どちらとも今、廃校となってしまっ。て。中学校のほうは、N校という学校が来たのですけれども、田水山小学校のほうは、何も使わず。災害があったときは、田水山小学校の体育館が避難場所に一応指定されているのですけれども、体育館そのものが古く、正直、雨漏りもすごくて、少し前にすごい地震がありました。が、避難するとなったとすると、不安でしょうがない。まず、コロナもあるし、人がそこまで入れる大きい体育館でもないのです。そういうところがまずスーパーシティになって、どうなるのかなというのがあります。

それから、私は電気関係で働いているもので、このサービスそのものの全てが電気で賄っているものだと思うのですけれども、もし災害になったときには、ほぼ使えなくなりますよね。地震があったとき、何日も電話が通じなかったと思うので。そのとき、例えば、おじいちゃん、おばあちゃんがどこかで倒れていますよといっても、正直、一人暮らしの人は何も助けを呼ぶこともできないですし、ほとんどのたれ死ぬ感じになってしまうと思うのです。そのときにどうすればいいのかというの、スーパーシティならではの何かがあるといいのかなと思います。

それから、パーソナルモビリティという、個人用、高齢者に貸与するというものだと思うのですけれども、一緒に住んでいる介護する人には、何かを与えたりしないのかと思ったのです。うちも親とおじいちゃんがいて、私がいれば、おじいちゃんを持ち上げることは可能ですけれども、親はそれなりの年齢ですから、全然持ち上げられないのです。そのときに、介護のほうで

も、パワースーツというのがあるので、そういうものも普及させてあげる。タブレットを欲しい家もあれば、介護を補助するものが欲しいという家庭もあると思うのです。この4点を聞きたいと。

○事務局 ありがとうございます。タブレットの配布、貸与の年齢はまだ決まっていないのですけれども、今、最初にやる予定の小田と宝陽台ですね。そこで、大体どれぐらいの方が今所有しているのかということがまだ把握できていないので、それを見ながら、実際、何歳以上に配ったら何%なのか。これは当然お金がかかってくる話になってきますので、予算感も見ながら決めていきたいというふうに思っています。

それから、災害、廃校の関係ですよね。廃校の関係は、実は廃校の利活用を進めて貸した上で、避難場所としても、引き続き提供してくださいというふうに今やっています。ですから、どんどん借りてくれると、それこそ旧菅間小とかもそうですけれども、今、イノベーションチャレンジといって、障害者の方が生活するのに不便にならないようなロボットの世界規模のコンテストをそこでやる予定なのですけれども。実施する実行委員会の方が、建物などをメンテナンスしてくれ、入ってくれるということで。少しスーパーシティとは話されますけれども、そういう意味で廃校の利活用を進めながら、防災拠点としての旧学校も残していくということを、市としては取り組んでいます。一方で、おっしゃられたように、まだ入っていないところは、そういうようなところもあると思います。

スーパーシティでは、例えば、何かが起こったときに、避難所の状況が見られるようになればいいなというふうに思っています。まず、避難所が開設されるタイミングというのも、なるべく市役所は迅速に開けようというふうにしますけれども、それこそ本当に市役所職員が物資と一緒に行って鍵を開けるといところから始まるので、行っても開いていないところというのは、場合によってはあるかもしれないのです。ですから、開いているのかどうか、

今どういう物資が届いているのか。コロナなどで、特に混雑状況も当然心配になるので、今、どれぐらいの容量が、キャパシティがあって、何人ぐらいがいらっしゃるのかというようなことを、つくばアプリから、災害のときには優先してそれを見られるようになるのかということを今考えているところです。

一方で、三つ目の御質問の中で、災害時には電気が使えないという問題があると。これは、スーパーシティで何とかということではないのですが、同時にやらなければいけないインフラ整備としては、やはり蓄電の仕組みを様々なところで備えておかねばならないと思っております。蓄電と、エネルギーに変換できるものとしての、輸送できるエネルギーになり得るものですね。今だと、水素が、一番効率がいいのではないかと考えておりますけれども、その辺りについても、スーパーシティのインフラ整備の中で考えていきたいと思っております。

あとは、介護者に対して何かやるのかということについては、おっしゃられるとおり、ロボットスーツですね。つくば初のCYBERDYNEも一番有名ですが、実は既存の事業で、ロボットスーツをお試しで市と国の予算を使って、使っていただけたというのはこれまでかなりやってきて、残念ながら利用率がかなり低かったのです。個人向けに、もし展開していったら安く買えますみたいなところまでやればいいのかもしいないですけども、試してもらって機会をつくっていくことで、こんな便利なものがあるのだったらやってみようかなということで思ってもらえるかもしれないので。

私、この間驚いたのが、コミュニティ棟という本庁舎の隣の建物の1階に図書館の本を返却できるボックスがあるのですが、それを回収に来ていた市の職員なのでしょいかね。ロボットスーツを使っていて、日常的に使っていたみたいです。重い物を持ち上げるから便利だそうなのですが、それも恐らく使ってみたら便利ということだと思あるので、その辺りの普及も何か

できないか考えてみたいと思います。ありがとうございます。

そうしましたら、予定の時間過ぎてしまいましたので、スーパーシティに関する意見交換についてはここまでとさせていただきますと思います。

また、一方で、行政経営懇談会の続きとしてでもいいですし、また、市民の方の御意見としてでも市役所にいつでもお寄せいただければ非常にありがたいなと思って、お願いできればと思います。ありがとうございました。

そうしましたら、進行を座長にお返しさせていただきます。ありがとうございました。

○座長 以上で、本日の議事を終了いたしました。このほか、事務局から連絡事項はございますか。

○事務局 事務局のから御連絡いたします。

先ほど、市民参加の提言書の「おわりに」の御質問もあったかと思うのですが、提言書につきましては、座長に「おわりに」を書いていただきまして、皆様に御確認いただいた後、提言書の提出ということになります。提言書の提出なのですけれども、例年、行政経営懇談会の委員様が集まって、市長と意見交換をして提言書の提出ということになっておりまして、今年も御希望がありましたら、オンラインの参加で、もしくは直接の参加でということで、提言書の提出と意見交換とさせていただきたいと思っております。

日程、かなり近くはなってきたしまっているのですが、3月の中旬頃で予定しておりまして、改めて皆様には、幾つかの日にちを提示させていただきまして、御回答いただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

○座長 ただいま事務局から、日程について連絡がありましたけれども、何か御質問等はございますか。よろしいですか。また、日程照会があるということでございます。

それでは、本日予定しておりました案件は、これで全て終了いたしました。以上で本日の行政経営懇談会を閉会といたします。皆様、御協力いただきま

して、ありがとうございました。

○委員 ありがとうございました。お疲れさまでした。

○委員 ありがとうございました。お疲れさまです。

○事務局 申し訳ございません。1点、追加でよろしいですか。

先ほど、日程調整のお話をさせていただいたのですが、行政経営懇談会、これまで夜間の開催ということも含めて調整させていただいたのですけれども、提言書の提出に関しましては、日中ということでスケジュール調整させていただくことになるかと思います。よろしくお願いいたします。

○座長 ありがとうございました。

《終了》

## 令和２年度（2020 年度）第 5 回つくば市行政経営懇談会会議録要旨

### 議事（１）令和２年度（2020 年度）つくば市行政経営懇談会提言（案）について

|   | 意見等                                                                                                                      | 対応等                                                                                      |
|---|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 市民が意見を言える場や機会が用意されていることが前提条件としてあり、その上で、懇談会のような公共の場で様々な議論が行われるということが本来的な在り方、大事なところだと思う。そのようなことを座長の意見として「おわりに」に盛り込んでもらいたい。 | ◆座長回答<br>「おわりに」の案については執筆が終わり次第、メールで委員に加筆修正の意見をいただきたい。                                    |
| 2 | 提言の内容を実現する手段の一つとして「第２期つくば市戦略プラン」に記載されている「未来構想キャラバン」のページがとても良い方法だと思った。このような形式で広報紙等に審議会等に関する情報を掲載すれば、市民の理解も進むのではないかな。      | ◆座長回答<br>審議会等で出た意見を広く市民にも伝えることが市民参加のきっかけになるということは、前回までの協議でも出ていたと思う。提言には十分に反映できていると考えている。 |

### 議事（２）スーパーシティ基本方針について

|   | 意見等                                                                                                       | スマートシティ戦略室<br>回答等                                                                                                                                                            |
|---|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | つくば市のホームページに全員協議会の資料としてスーパーシティの資料が掲載されており、「学校での体調管理のデジタル化」という内容があった。コロナ禍で必要とされていることだと思うが、これはどのように進んでいるのか。 | 市内の小中学校、義務教育学校で、朝測った体温を用紙に書いて担任に提出していたが、これを全てスマートフォンアプリで行うことを原則とした。今は１万５千程の世帯のうち９割以上に使ってもらっている。クラスごとの体温の挙動も見ることができるため、公衆衛生学的な観点でも使えるのではないかと考えており、採択された場合はその辺りも進めていきたいと思っている。 |
| 2 | 【１の質問に関連した意見】<br>「学校での体調管理のデジタル化」のように、スーパーシティの提案をする際、既に進めている取組を発展できるということを付け加えるとプラス                       | 子どもの体調のクラスごとの分析について、データは匿名の上で活用させてもらうという利用規約になっているが、情報の共有の範囲として、他のサービスの事業者には渡すことが                                                                                            |

|   |                                                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                                  |
|---|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|   | になるのではないか。                                                                                                                                                                                                                                       | できないということもある。いかに不快に感じない範囲でデータを共有し、別の策につなげていけるかということを考えている。                                                                                                                                                                                                       |
| 3 | <p>多言語ポータルサイトアプリや健康管理など、スーパーシティにならないと絶対にできないというわけではないものもあれば、パーソナルモビリティのように本当に10年でできるのかと思うようなものもある。地道にできることから進めていくと思うが、未来像や計画図があると実現性が実感として感じられると思う。</p>                                                                                          | <p>内閣府に対する申請書の中では2021年から2023年までの計画を具体的に書く。さらに、スーパーシティは2030年まで見据えたものであるため、申請書の様式に一枚追加し、2030年までの取組の計画も提出したいと思っている。</p> <p>スケジュールはでき上がった後に住民説明会が各地区で開催されるようであれば、そこでも示していきたいと思う。</p>                                                                                 |
| 4 | <p>配布された資料を見ると、高齢者サービスが協調されており、交通サービスと高齢者サービスを推進するような計画に見えてしまう。イメージ図にもう少し若い人の絵柄が出てくるといいのではないか。</p> <p>また、学童保育や保育所は待ったなしの需要であり、過ぎたら不要になってしまうため。そこをどう解決していくかということが重要。例えば、ロボットを使ってでも待機児童ゼロに取り組むや子供が帰宅したことを親が認識できるアプリなど、積極的に書き込んでもらえたらありがたいと思った。</p> | <p>子ども、子育てや健常者向けの取組をという意見は住民説明会でもオープンハウスでもあり、その点についてはこれから資料に盛り込んでいきたいと思う。子どもの見守りについても需要があると思う。連携事業者の人から提案いただいていることもあり、資料に盛り込めたらと思う。</p> <p>高齢者が中心になっているように見える資料は反省点だが、逆に高齢者が取り残されると思われることは本末転倒。スーパーシティはあくまでも地域の課題の解決のために行うことである。高齢者以外の人について、次の資料では盛り込みたいと思う。</p> |
| 5 | ICT（Information and Communication Technology「情報通信技術」）、タブレットを使うとなった際、トラブルがあったらすぐに解決してくれるサポーターを公民館等に常時配置し、そこに行けば助けてもらえるというような、ICTインフラの部分も考えているのか。                                                                                                  | 資料3の「デジタルインフラ整備」に「スマホアドバイザー配置」とある。タブレット等の使い方を相談できる人を地域に配置したいということでこのような表記をした。まだ詳細は決まっておらず、常駐でなくても有償のボランティアが必要だと思っているが、常駐配置ということも御意見とし                                                                                                                            |

|   |                                                                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                      |
|---|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|   |                                                                                                                                                                                                                                  | て承り、検討していきたいと思う。                                                                                                                                                     |
| 6 | <p>多方面に展開したいということも大切だと思うが、間違いなくこれは使いやすい、移行したほうが市民として便利だというサービスを一つ一つ吟味していってもらいたい。それがサービスを社会に実装していくということに繋がると思う。法規制を乗り越えて新しいサービスを導入するという考え方も大事だが、細かい不便を拾い上げていくことも進めてもらいたい。</p>                                                     | <p>規制緩和事項がスーパーシティのトップにあり、今までのルールを変えて取り組むということが目立つようになっているが、規制がかかっているからできないわけではなく、そのような仕組みになっていないからできないということが多くあるので、その辺りについてもわかりやすく表現していきたい。</p>                      |
| 7 | <p>教育に関しても何らかの言及ができるといい。小学校2年生以上にタブレットを配布しようとしていると思うが、スーパーシティになるとさらに進むというようなことも書いてもらえると、子育て世代や子どもたちにとって実感できるスーパーシティになってくるかと思う。</p>                                                                                               | <p>スーパーシティの提案の際にできるかわからないが、選挙の投票の仕組みを学校でも使っていくというようなところから、何か学校との連携を始められないかと思っている。</p>                                                                                |
| 8 | <p>目標が2030年ということで、これからつくば市を作り上げていく子どもたち向けの取組を盛り込んでほしい。待機児童の話もあったが、幼稚園の入園申し込みの手段としても使えるといいと思う。不登校や学校に行きにくい子や障害を持つ子も先端的な教育サービスを使うことで、より自分の未来を考えていくことができると思う。また、高齢者だけでなく、貧困家庭の子どもにもスマホを貸与するということも考えてもらえると、つくば市らしさを出せるのではないかと思う。</p> | <p>子育て世代向けに子どもも含まれると思い込んでいたが、子どもに発信するという観点が抜け落ちていた。重要なポイントだと思う。障害者向けについても高齢者向けと重なる部分はあるが、資料に言葉として出てこなければ気付くことは難しいため、その辺りも考えていきたいと思う。貸与のアイデアについても御意見として受け取りたいと思う。</p> |
| 9 | <p>先端技術と高齢化という両極端のテーマが取り上げられているが、高齢化率20%というような中間の地区もある。そのような表に出ないところに対し、これからの取組をどう水平展開できるのかということも考えてもら</p>                                                                                                                       | <p>効果のあるものは他地域にも広げると書いてあるが、具体的にどう横展開していくのかという計画を立てなければいつまでも横展開されないため、考えたいと思う。様々なサービスがあるが、実地の効果を評価していく</p>                                                            |

|    |                                                                                                                                                                        |                                                                                                                                                                                      |
|----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|    | <p>えないと、市の中でいびつな形ができていってしまうのではないかと心配している。</p> <p>また、中心部が注目され、テーマとして扱われることが多いが、道路事情が悪いところで通勤、通学しているような人たちにどのように効果を波及していくかということも課題として残してもらいたい。</p>                       | <p>ような仕組みを最初の段階から織り込めないかと思っている。</p> <p>他の地域に展開する先についてもあらかじめ基準を決めておき、明確な基準で進めたいと思う。</p> <p>条件が整っていないところについてはインフラ整備等併せて行っていく必要があり、計画の段階から盛り込んでいくことが必要だと思う。</p>                         |
| 10 | <p>ネット環境が整っている家庭とそうでない家庭がある。「子ども自身が安心して大人になれるまち」というように進めてもらえればと思う。</p> <p>子ども食堂が市内にあるが、ボランティアベースであるため、どれも月1回程しか開けていないようだ。網から落ちてしまいそうな子たちを救い上げるということにも目を向けてもらえるといい。</p> | <p>ネット環境は重要であり、就学援助世帯にはルーターを配るということになったと思うが、基準が難しい。どうすれば本当に困っている人たちに行き渡り、このようなサービスが展開されていくことで格差が広がるということにならないか、縮められるかということは考えていきたい。</p> <p>今はまだ構想に盛り込めていないので、どのように反映できるか考えたいと思う。</p> |
| 11 | <p>タブレットは何歳の人に配布する予定か。</p>                                                                                                                                             | <p>まだ決まっていない。小田と宝陽台の所有者数や予算等も見ながら決めていきたいと思う。</p>                                                                                                                                     |
| 12 | <p>災害時の避難所となっている廃校の体育館は古く、人が多く入れるようなところでもなく、また、コロナ禍ということもあり不安がある。スーパーシティになったときにはどのようなことになるのかと思う。</p>                                                                   | <p>スーパーシティとしては、災害が起こった際に避難所の状況を見ることができればと思っている。避難所が開設されたか、どのような物資が届いているか、キャパシティや人数、混雑状況等を優先的に見るができるようにということを考えている。</p>                                                               |
| 13 | <p>サービスの全てが電気で賄っているものだと思うが、災害の際にはほぼ使用できなくなる。そのような場合にはどうするかということもスーパーシティとして考えてもらえるといい。</p>                                                                              | <p>災害時には電気を使えない問題があり、スーパーシティのインフラ整備の中で考えていきたいと思う。蓄電と輸送できるエネルギーになり得るものを備えておくことが同時に進めなければいけないインフラ整備だと考えている。</p>                                                                        |
| 14 | <p>高齢者と同居している人、介護している人に対して、例えばパワースーツ</p>                                                                                                                               | <p>ロボットスーツを試しに使ってもらうという既存の事業は行った。残念</p>                                                                                                                                              |

|  |                                                                           |                                                                                   |
|--|---------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|
|  | <p>を普及するというようなことは行わないのか。タブレットが欲しいという家庭もあれば、介護を補助するものが欲しいという家庭もあると思うが。</p> | <p>ながら利用率は低かったが、試してもらう機会を作ること、使ってみようと思ってもらえると思う。その辺りの普及についても何かできないか考えてみたいと思う。</p> |
|--|---------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|

## 令和 2 年度（2020 年度）第 5 回つくば市行政経営懇談会

日時：令和 3 年（2021 年）2 月 26 日（金）

18 時 00 分から 20 時 00 分まで

会場：つくば市役所 2 階 防災会議室

### 次 第

#### 1 開 会

#### 2 議 事

- （1）令和 2 年度（2020 年度）つくば市行政経営懇談会提言（案）について
- （2）スーパーシティ基本方針について

#### 3 その他

#### 4 閉会

#### 【配布資料】

- |         |                                       |
|---------|---------------------------------------|
| ・資 料 1  | 令和 2 年度（2020 年度）つくば市行政経営懇談会提言（案）      |
| ・資 料 2  | スーパーシティ基本方針への市民意見について                 |
| ・資 料 3  | スーパーシティ構想概要資料                         |
| ・資 料 4  | スーパーシティ基本方針スライド版                      |
| ・参考資料 1 | 令和 2 年度（2020 年度）第 4 回つくば市行政経営懇談会会議録要旨 |



つくば市市民参加推進に関する取組の課題と対策について（提言）（案）

令和 2 年度（2020 年度）つくば市行政経営懇談会において、つくば市行政経営懇談会設置要項第 2 条の規定に基づき、つくば市市民参加推進に関する取組の課題と対策について協議しましたので、懇談会から別添のとおり提言します。

令和 3 年（2021 年）3 月 日

つくば市長 五十嵐 立青 様

つくば市行政経営懇談会委員

座長 溝上 智恵子

委員 飯田 哲雄

委員 上田 孝典

委員 上平 未枝

委員 佐藤 毅章

委員 白倉 誠子

委員 永田 孝行

委員 星埜 祥子

委員 堀 賢介

委員 水谷 浩子

## 1 つくば市市民参加推進の経緯

つくば市では、平成 30 年 3 月に「つくば市市民参加推進に関する指針」を策定し、市政への市民参加を促進するため、市民参加を「共有、理解」、「企画・立案、計画」、「実行」、「評価・検証」の 4 段階で進めるとともに、つくば市の附属機関の委員及び懇談会等の構成員の一部に市民が参加することとした。

当指針では、市民参加推進の取組が効果的に実施されているか懇談会にて検証し公表するとしており、令和 2 年度（2020 年度）つくば市行政経営懇談会では「令和元年度（2019 年度）つくば市市民参加推進状況報告」等を踏まえ、つくば市が目指す市民参加に向けて協議を行った。

## 2 懇談会開催日程

第 1 回懇談会（委員 9 名出席）

令和 2 年（2020 年）10 月 9 日（金）15 時 00 分～17 時 00 分

つくば市役所コミュニティ棟 3 階 会議室 A

第 2 回懇談会（委員 10 名出席）

令和 2 年（2020 年）11 月 16 日（月）18 時 00 分～19 時 30 分

つくば市役所コミュニティ棟 1 階 会議室 2

第 3 回懇談会（委員 10 名出席）

令和 2 年（2020 年）12 月 18 日（金）14 時 00 分～15 時 30 分

つくば市役所 2 階 会議室 201

第 4 回懇談会（委員 10 名出席）

令和 3 年（2021 年）2 月 5 日（金）18 時 00 分～20 時 00 分

つくば市役所 2 階 職員研修室

第 5 回懇談会（委員〇名出席）

令和 3 年（2021 年）2 月 26 日（金）18 時 00 分～20 時 00 分

つくば市役所 2 階 防災会議室

## 3 現状と課題

「令和元年度つくば市民意識調査」の「市政に市民が参加できる環境が整っていると思うか」という問いについては、前回の平成 29 年度調査と比較して

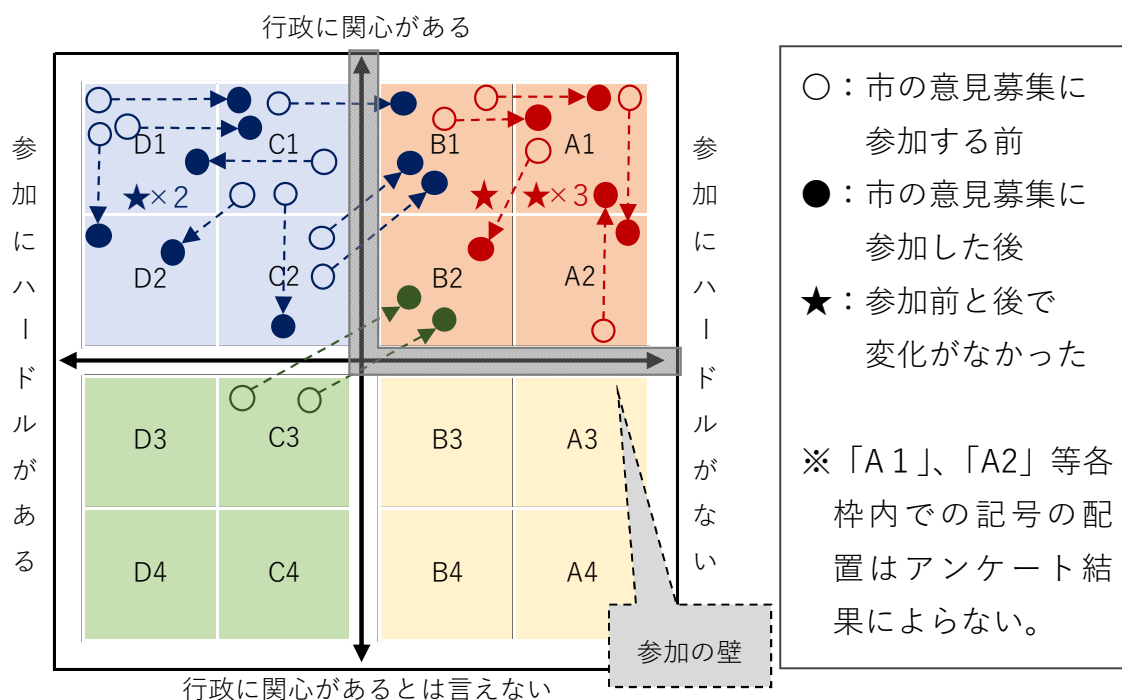
「そう思う」が1.7%、「どちらかといえばそう思う」が1.5%増加という結果となり、市民参加推進の取組の一定の効果が得られていると考えられる。

一方で、令和2年（2020年）11月に市民委員経験者や市民委員意見交換会参加者を対象として実施した「令和2年度（2020年度）市民参加に関するアンケート」では、市民委員等で参加する以前に市政への参加に対して「ハードルがあった」、「どちらかというハードルがあった」と回答した人の割合が59.1%であり、回答者の半数以上が参加にハードルを感じていたほか、少数ではあるが、9.1%が参加以前は市政に関心を持っていなかったと回答した。

より多くの市民の市政への参加に当たっては、参加に対するハードルを感じている人や行政に関心があるとは言えない人といった「参加の壁」を越えられない層に向けた取組が必要となる。

【図1】

「令和2年度（2020年度）市民参加に関するアンケート」結果



#### 4 検討

令和2年度（2020年度）つくば市行政経営懇談会では、つくば市が目指す市民参加に向けて「参加の壁」という課題を解決するために、主に審議会等の

市民委員の参加について、協議を行った。この協議を踏まえ、特に「①無作為抽出による委員等候補者名簿の活用の推進」、「②若い世代の参加者の拡大」、「③審議会等市民委員の応募者数の増加」の3点について、つくば市における市民参加をより一層推進するための対策を次項のとおり提言する。

## 5 提言

### ①無作為抽出による委員等候補者名簿の活用の推進

- ・各審議会等は市民委員の選定に当たり、会議の内容、性質を踏まえた上で、積極的に無作為抽出による委員等候補者名簿を利用されたい。
- ・住民基本台帳から無作為抽出をした市民に対して送付する委員等候補者名簿登録依頼については、抽出された市民が市政への参加を前向きに考えられるような様式、文面を検討されたい。
- ・委員等候補者名簿登録同意書の希望分野を問う選択肢に「全ての分野に関心がある」、「どの分野でもいい」等の項目を追加されたい。
- ・各審議会等の目的や性質等に応じ、ジェンダー、年齢層、居住地等を考慮して市民委員を選定されたい。

### ②若い世代の参加者の拡大

- ・若い世代を対象とした情報発信の手段として、広報紙やチラシ等、既存の媒体に加えて積極的に SNS(ソーシャル・ネットワーク・サービス)を活用するなど、多様な方法による広報活動に取り組まれたい。
- ・事業所等で働く人が参加しやすくなるような広報等に取り組まれたい。
- ・会議の開催形態として、対面に重きを置かないオンライン会議やハイブリット形式等も取り入れられたい。
- ・若い世代の市政への関心を深め、参加を広げる取組として、審議会等の模擬体験を中学校等への学校教育に取り入れられたい。
- ・参加者への表彰など、市民参加に対して感謝を伝える方法についても検討されたい。
- ・市民委員経験者の体験談等を活用した周知方法を検討されたい。

### ③審議会等市民委員の応募者数の増加

- ・各審議会等の所管課等は会議の目的や内容、性質等に応じて、小論文の提出、面接に限らず、参加を希望する市民の負担にならないような選考方法を定められたい。
- ・広く市の審議会等への参加を希望する市民を募り名簿を作成するなど、参加を希望する市民の情報を積極的に活用されたい。
- ・市の審議会等について広く理解してもらう取組として、区会や民生委員など市民にとって身近な地域活動との連携を進められたい。
- ・審議会等では専門用語を用いることがあるが、参加している市民委員や傍聴者、会議録の閲覧者等に向けて市民目線での会議運営に取り組まれたい。
- ・参加者への表彰など、市民参加に対して感謝を伝える方法についても検討されたい。（再掲）
- ・市民委員経験者の体験談等を活用した周知方法を検討されたい。（再掲）
- ・事業所等で働く人が参加しやすくなるような広報等に取り組まれたい。（再掲）

## 6 さらに市民参加を推進していくための意見

そのほか、市民参加をさらに推進していくために、以下の意見が挙げられた。

- ・パブリックコメント手続きの実施、ワークショップの開催等の際には、無作為抽出による委員等候補者名簿を有効に利用し、各分野に興味・関心を持っている市民への情報発信に取り組まれたい。そのためにも、委員等候補者名簿への登録を依頼する文章には、市民委員以外の参加手法により意見を伺う可能性がある旨を記載されたい。
- ・ワークショップ等のイベント開催の際には、申込者を日中働いている人、子育てをしている人等のグループに分け、各グループの参加しやすい日時をそれぞれ設定するなど、可能な範囲で参加を希望する市民が参加しやすいよう柔軟に対応されたい。
- ・パブリックコメント手続きは、市民が対話によって政策への理解を深めることのできる非常に貴重な機会である。市は、意見を提出した市民が「提出して良かった」と思い、次の参加への意欲につながるように、市民の意見に対して真摯に向き合い、市の現状について丁寧に回答をされたい。

- ・パブリックコメント手続きの意見提出者数などの状況により、市民の関心の高い分野に多くの市民が参加できるような機会を設けることを検討されたい。
- ・職員が地域の現状を十分に理解し、市民にとっては市政への参加に対するハードルを下げる取組として、市の若手職員の地域等のコミュニティ活動参加や市民と職員との交流機会の増加等の工夫をされたい。
- ・参加者を住民基本台帳からの無作為抽出により求める際には、事業の内容や性質に応じて、在住年数や居住地域を限定する等の工夫をされたい。

## おわりに

令和 3 年 2 月 26 日

政策イノベーション部スマートシティ戦略室

## スーパースィティ基本方針に対する市民意見について（途中経過）

## 1 概要

- 第 4 回行政経営懇談会（2 月 5 日）
- 住民説明会（2 月 15 日）75 名参加
- オープンハウス（於イーアスホール）（2 月 11 日、12 日、15 日、16 日、18 日）108 名来場
- 宝陽台区長等（1 月 22 日）
- 小田区長等（1 月 28 日）

## 2 詳細

| 種別             | 意見等                                                                                                                                                              | 参考（当日の回答等）                                                                                                                                                                                                                                                           |
|----------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 行政経営懇談会（第 4 回） | <p>高齢者へのタブレット配布については、セコムやアルソック等が見守りに関する製品を既に出していると思うので、そういったところと一緒に取り組むのはどうか。一台で教育や防犯にも繋げることができるのではないかな。</p> <p>また、市職員が夜間対応もするなど、高齢者が会話をする機会をつくることも重要ではないかな。</p> | <p>タブレットを配布してサービスを受けられるので使ってください、ということは良くないと思っている。コミュニケーションが大事になる。</p> <p>行政サービスのデジタル化となったとき、遠隔の方を対象に利便性を挙げるということもあるが、市役所側の業務負担も下がる可能性が同時にある。市役所職員が普段の事務作業に追われ、市民と直接話す時間が取れない、議論や調べものをする時間がないという現状がある。デジタル化により職員の事務負担が減れば、職員が周辺地区に足を運び、地域の人と直接話をする機会も増えるのではないかな。</p> |
|                | まとまっていると思う。言葉については特に気にならなかった。                                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|                | <p>国の補助を受けた際は、いかにそれを継続して住みやすいまちを維持していくかということを考えなければいけないと思う。</p>                                                                                                  | スーパースィティになるに当たっては、予算面も含めていかに持続可能な仕組みにできるかということも大事だと思う。                                                                                                                                                                                                               |
| 行政経営懇談会（事後意見）  | <p>本当にこのようなインフラが充実され、地域の人的な基盤もしっかりできているのであれば、高齢者として、一人暮らしになったとしても住み続けられるかな、と思う。</p> <p>ただ、最終的に動くのは普通の「人」だと思う。「地域の人つながりづくり」に行政の力を注いでくださるとありがたい。その場</p>            |                                                                                                                                                                                                                                                                      |

|  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |  |
|--|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
|  | <p>合、行政の職員の方たちが、いかに私たち住民を躍らせてくれるか…。そこがカギかもしれない。自分たちがいかに快適に暮らし、それを守るか。そのためには、自分たちが担い手であると気づかなければならない。自治会や区会の代表だけでなく、交流センター利用の団体代表などの声も大事だと思う。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |  |
|  | <p>TX が通る前までは、つくば市民の一部（研究機関などで働く人たち）の中には、退職後は故郷や東京に戻り老後を過ごすつもり、と考えている人たちが多くいた。つくばが人生の最終地ではなかったわけである。でも、TX が開通し、それぞれの駅周辺の開発が進み、公務員住宅跡地に大型マンションが建ったことで、つくばを最終地と考える人たちも増えてきた。</p> <p>もともと、筑波研究学園都市が出来た時から、四本の柱（東大通・牛久学園線・土浦学園線）の内側と旧町村部ではいろいろな差があった。旧村部では一軒の家のスタンダードな敷地面積は 300 坪であるとか、跡継ぎの若夫婦に子供が生まれれば母屋は若夫婦が住み、先代は隠居所（と言っても立派ですが）を建てて移る、など。当時、移住組にとって大きな驚きであった「七五三のお祝い」にもそれなりの意味があったと聞いている。それは、実は地域づくり、地域教育の一環であったのだと、今になって気づく。</p> <p>地道に粛々と続けられていたことを、ただ「合理的でない」とか「時代錯誤だ」「都会ではそのようなことは…」などと言って、その奥に実は大事なことが隠されていたことに気づかず、うっかり勘違いをしたまま、捨て去ってきたように思う。</p> |  |

|  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                  |  |
|--|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
|  | <p>あの頃にあった地域とのつながりを、少しずつ修正をしながら街づくりを行っていたら、ここに書かれている「地域の課題」「課題解決の模索」もあえて書く必要はなかったかもしれない。</p> <p>新しい解決策を探す前に、まだ、もしかしたらしっかりと続いている地域活動を掘り起こし、そこを応援していくことが楽な道かな、と思う。そのような視点で行くと、たぶん「スーパーサイエンスシティ構想」で対象区域に挙げられた「筑波地区の一部」「荃崎地区の一部」は実際的な場所だと思う。</p> <p>ただ、私が住んでいるところ（大角豆南部）も含めだが、自治会や区会組織があるところには、一応「お誘い」「自主取り組み」の声かけをしてくれると良いのではないかなと思う。中途半端な地区、というのも見捨てないでいただきたい。</p> |  |
|  | <p>科学技術に気負いなく触れることが出来る、知ることが出来る、というのがつくばの良いところであると思う。そして、一般の人が一番身近に感じ、恩恵を受けるものの一つが「医療」だと思う。</p> <p>つい先日、医療での恩恵を受けることになった。以前なら、たぶん毎月病院（この場合は大病院）に行き、診察を受けていたと思うが、今はある程度の期間を過ぎれば、遠隔モニターで様子を見てもらえる。何かあれば、病院や機材メーカーからの連絡がある。たった数分の診察のために長い時間を使う、というのはある意味本末転倒である。</p> <p>「かかりつけ医」をもう少ししっかりとしたものにして、できれば在宅往診制度なども、視野に入れた先端的サービスを考えてもらえるとうれしい。今は「在宅医療」</p>             |  |

|  |                                                                                                                                                                                                           |   |
|--|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
|  | <p>という介護や終末期医療と思われがちだが、70年以上も前は、東京でもお医者様は往診してくれるのが当たり前だった。車を運転して、お医者様と看護師さんが気軽に来てくれた。</p>                                                                                                                 |   |
|  | <p>子育て世代や若者、外国人居住者に対する支援は、つくばならではの活動が多くある。ただ、一番私が気になっているのは、宗教上の理由で外出せず、地域との交流を避けている（きっとご本人たちは不自由ではないのかもしれませんが）方たちへの働きかけ。</p> <p>政教分離とは言うが、行政もどこかの部分で、同じ宗教を持つ人たち、特に子育て世代の女性たちの交流の場などの支援をしてくれるとありがたい。</p>   | — |
|  | <p>ドローンを使った配送も、自動運転も、何十年も前に子供たちが描いていた「未来の街」の絵が実現したと思えるだろう。ただ、それを実現するには、電柱をなくし、広い空き地を残し、道路の管理もしっかり行わないと恐ろしいことになる、と思う。</p> <p>絵に描いた餅にならぬよう、そして市民の中の隠れた知恵を上手に引き出して「市民みんなで街づくり」が合言葉になると良いと思う。</p>             | — |
|  | <p>つくば市になる前、いや、なってすぐくらいまでは、地域の運動会などがあった。学校の運動会も防犯上や高温化などの理由で縮小されている。地域づくりの大切さを言う片方で、地域づくりの場をなくしているのも事実ではないだろうか。東京からたくさんの人を呼び込むような、盛大なお祭りも良いが、地域毎、区会や自治会で行うお祭りや行事をもっと応援することも「街づくり」には大事だと思う。最終的には、どのような</p> |   |

|  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |   |
|--|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
|  | ことも市民の力が必要。笛を吹いて躍らせて欲しい、市民を。                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |   |
|  | つくば市に他の地方公共団体に先立って先端的サービスを導入し他の都市との競争に勝ち残っていくという意味合いからも、実施については基本的には賛成。今回の実施に当たっては当初地域を絞って実施されるということだが、市の全体的なイメージアップ、その後他の地域の市民も恩恵を受けられる可能性がある点等も考慮すれば、許容できると考える。                                                                                                                                                                       |   |
|  | <p>他の委員の方もおっしゃっていたが、現段階で市民への負担額の概算・見込みすら示されていないのは疑問に思う。</p> <p>一旦採択され、具体的な費用等が算出されたのちに後日辞退が可能ということであれば構わないが、採択されてしまえばもう後には引けなくなるということであれば、現時点で市民に対して負担額の概算・見込みを示して、現実問題としてほとんど恩恵を受けない可能性もある地域の市民も含めてかかる負担を負うことに問題がないのか意見を聞くということ、これに対して住民合意を広く得ることが、まさに求められているのではないだろうか。</p> <p>なお、その他に実施にあたってのデメリットがあるのであれば、これについても明確に説明を行うべきだと思う。</p> | — |
|  | 今回の基本方針にそって先端的サービスが網羅的に実施されることになれば、該当地域の市民にとってはかなりメリットが大きいと思う。もっとも、内閣府のウェブサイト上にある例として挙げられているスーパーシティの例としては「観光」「防災」「健康／医療」「高齢者の交通」など、一見してコンセプト、サービスを受ける住民の恩恵、各サービスの連携内容がクリアだと思う。翻                                                                                                                                                         |   |

|  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |  |
|--|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
|  | <p>って今回はじめにつくば市の基本方針を拝見したときに、一見して市民の受ける恩恵が分からなかった。また、個々のサービスの関連性、各サービスが有機的に一体になっているということもあまり感じられなかった（私の理解では5つ以上の分野にまたがって相互に連携したサービスを提供することが求められていたかと思う）。国も住民目線でサービスの恩恵が実感できるということを重視している以上、分かりやすさ、サービスの一体性という観点は非常に重要ではないかと思う。</p> <p>ご説明を聞く限りにおいては、高齢者等の社会的に弱い立場にある方への対応に重きを置いた方針なのだと思うので、その点から各サービスを整理して一貫性を説明できると良いのではないかと思った。その点からすると「つくばスーパーサイエンスシティ」という名称も、その名称から一見して目指す中身が良く分からないという点でインパクトに欠けるように思う。</p> <p>今回5都市しか採択されないということなのであれば他の自治体との競争に打ち勝つという点からも他の自治体と異なる際立った特徴、コンセプトが必要なのではないかと思った。</p> |  |
|  | <p>4</p> <p>筑波地区の一部と荃崎地区の一部について、ともに高齢者に対応する地域であるにもかかわらず微妙に異なる書き分けがされている。</p> <p>この点の違いによりサービスの内容が明確に異なるのであれば、それを分かりやすく明示すべきであるように思うし、そうでないのであれば、この二地域は一括して表記したほうが分かりやすいように思う。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |  |
|  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |  |

|              |                                                                                                                                                                       |                                                                                                                        |
|--------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|              | <p>災害情報に関して、ゆうびんや新聞配布といったコミュニケーション網について ICT でどのようにできるかがあったほうが良い。L アラートやエリアメールについて記載があった方が良い</p>                                                                       |                                                                                                                        |
|              | <p>先端医療の普及等について、以前、フジテレビでラストホープという先端医療のドラマがあったようだ。</p> <p>医龍など歴史医療ドラマなども過去あったが、こういった広報活動の医療協力も、高齢の方に医療を受信してもらえるモチベーションにつながると思うので、大学と市や国と共同で先端医療の広報の窓口を持っても良いかと思う。</p> |                                                                                                                        |
| 住 民 説<br>明 会 | <p>現在大学3年です。是非、僕の力も使って欲しい。一緒に働かせて欲しい。</p>                                                                                                                             | <p>スーパーシティに関わらないが、行政だけではなく、色々な人と色々な形でともに作っていききたい。積極的にご提案いただきたい。</p>                                                    |
|              | <p>高齢者こそというなら、名称なども極力わかりやすい単語を使用して一見して伝わるようなものを使っていく必要がある。</p>                                                                                                        | <p>日本語にできるものはそうしたい。だが、ニュアンスが全く同じにならないものもある。括弧書きなどできる範囲でやっていきたい。</p>                                                    |
|              | <p>インターネット投票については、技術的な秘匿性よりも、投票行為に対する秘匿性の保証が難しいと思うが、その辺はどのように担保するか。</p>                                                                                               | <p>誰かに投票を強要されるパターンなどが想定される。再投票できるようにする等の対策を考えている。開票についてはマイナとブロックチェーンを組み合わせ、外部からのアクセスを追跡可能なシステムを構築する予定。</p>             |
|              | <p>投票率が低いのは移動手段や時間場所の問題では？インターネット投票で、投票率は上がるのか？</p>                                                                                                                   | <p>そのような根源的な問題もあるが、総務省の調査では不投票理由の20%が無関心、忙しい19%、体調不良12%、用事10%など。ネット投票の実装で改善できる部分はある。投票に行く意思がある人の環境の問題に対して選択肢を提供する。</p> |
|              | <p>ポータルの問題ではなく、そもそも掲載されている情報の質、掲載の仕方に問題あるのでは。既往技術でも見やすいサイトはある。根源的な問題を解消せず、力技で解決するのは果たして真っ当な課題解消といえる。</p>                                                              | <p>必要な情報を必要なタイミングで受動的に受け取れる仕組みをつくる。個人にカスタマイズされた情報を、多言語対応のもので提供する。HP 自体の改善の必要性も感じてはいる。</p>                              |

|                                                                                    |                                                                                                                                                                                               |
|------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| るのか。                                                                               |                                                                                                                                                                                               |
| 移動手段がないために投票率が低いということであれば、タクシー券を発行すればいいのでは。                                        | そういう方法もあるが、費用の面でタクシーは現実的ではない。アクセシビリティの多様化。選択肢を増やすことが必要。<br>ベッドから出れない人もおり、そのような場合にインターネット投票は有効。                                                                                                |
| インターネット投票をする場合、投票所での投票は廃止か？どちらも並行するのであれば、財政負担は減らないのでは。                             | 併用する。財政負担だけでなく、単に一票の担保する、その選択肢を増やすのが行政の仕事。そこへのコストは必要。過渡期にはコストがかかるが、長期的に見て普及してくれば、既存の事務コストの減少も見込める。                                                                                            |
| 病院の検査データについては全く同感で、共有が可能であれば良いと何度も何度も思った。一方個人データの扱いは非常に難しそうに感じる。                   | 個人データ扱いが難しいのは間違いない。自分のデータがどこで使われているかを把握し、考えることが必要。現場の方ともさらに議論していきたい。                                                                                                                          |
| 私が知らないだけなのか、いつの間にか進んでいるようで不信感がある。<br>中国の監視社会みたいで受け入れ難いです。情報漏洩など懸念されるデメリットをご教示願います。 | 伝えきれてないのは申し訳ない。これも課題である。今後もできるだけ丁寧にしっかり説明していきたい。市報以外にも瓦版とかを作って、丁寧な情報発信を心がける。<br>個人の情報について、本人の同意なしでは使わない。「自分が使いたいサービスを利用する上で、この情報の提供が必要」というものを自身で判断してもらう。<br>今はまだ、むしろ「本人を本人と特定する」技術がかなり難しい状況。。 |
| アーキテクト（全体統括者）ではなく、全体統括者（アーキテクト）だと思う。                                               | そのような表記にしたい。                                                                                                                                                                                  |
| 日本語であれば分かりやすいというわけではないのでは。「包摂」という言葉はわかりやすいものか。                                     | 包摂は確かに難しいかもしれない。もし言い換えるならば、誰もが包まれている社会、誰一人取り残さない社会など。ただ、分からないから、と考えないのは違う。それを考えるきっかけにしてほしい。                                                                                                   |
| 一人暮らしの高齢者、スマホが使えない高齢者に対しての説明が必要。                                                   | 1. この説明会に参加できない人への説明という意味であれば、リアル開催の説明会をやる予定だったが延期となった。今後また機会を設けたい。<br>2. サービスを受ける際の配慮、という意                                                                                                   |

|                                                                                                                             |  |                                                                                                                                                                              |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                                                                                                                             |  | 味であれば、スマホアドバイザーを設定する予定。                                                                                                                                                      |
| 率先して取り組まなくとも、他の自治体で検証され、実装された成果を活用すればよいのでは。                                                                                 |  | 全部を新たに始めなくてもよい。ただ、つくばに限らず持続可能な街づくりが必要であり、その為の実証ができる環境がつくばには揃っているので、いち早く住民にサービスを提供したい。それに対して意見を頂くのも重要なこと。                                                                     |
| 情報を通知することと、わかりやすいサイトの構築は違うものである。恣意的な情報の通知、情報の秘匿を懸念する。                                                                       |  | ご意見として受け止める。                                                                                                                                                                 |
| 実現に向けて大いに意見を出し合うことが必要と考える。パーソナルモビリティあるいは自動運転車のオンデマンド配車、交通ネットワークの最適化などは道路整備と関わってくると思う。その場合、予算などは国から交付というイメージを描いている。その考えでよいか。 |  | 国から予算をもらうことも必要。だが将来的に横展開を考えるとビジネスモデルとして確立するようにしたい。予算も大事だが、やはり個人の幸福の向上のためにどんなお金がかかるのかを議論する必要がある。<br><br>予算はいろんな財源の組み合わせになる。国・県の補助を最大限利用する。市の本来業務の部分は市の予算を使う。ビジネスになるサービスは民間主体。 |
| インターネット投票を導入すると財政負担と人的負担が減ると資料にあるが、本当にそうなるのか。                                                                               |  | 短期的にはコストがかかるが、将来的にインターネット投票が普及してくれば負担は減ると考えられる。過渡期については難しい。                                                                                                                  |
| 子育て世帯にとって魅力的な提案があまりない。                                                                                                      |  | 色々想定しているが、今回の説明の中で触れられず申し訳ない。                                                                                                                                                |
| セキュリティの不安を払拭するためには、市役所職員の方への全幅の信頼も大切。スーパーシティにネガティブな意見で聞くのは「利便性を謳う代償とする監視社会」を懸念するもの。                                         |  | 情報漏洩、監視社会にならないように最優先で取り組む。連携事業者とも意識の共有をし、しっかりと規定を守ってもらう。<br><br>市役所職員も信頼を得られるように頑張ってもらおう。                                                                                    |
| 市内の各地区の交流センターにもスーパーシティ構想の資料を掲示して欲しい。つくバス内に掲示してはどうか。                                                                         |  | 掲示場所増やせるように前向きに検討する。                                                                                                                                                         |
| 個人情報扱うことになる以上、慎重に進めるべきだと思う。一方、内閣府の公募締め切りまで1ヶ月程度であり、十分に議論                                                                    |  | 厳しいと思うが、ひと月で頑張っていきたいと思っている。説明会も実施できるように尽力していく。                                                                                                                               |

|                                                                            |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
|----------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>するには時間が足りないと感じる。住民の理解を深め、納得のいく答えを出すため、今回の公募は見送るというのも一つの手ではないか。</p>      |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| <p>既存集落からの積極的撤退はするべきではないが、マイカー前提で公共交通不便な郊外に広げたところへの技術によるサービスは本末転倒。</p>     | <p>意見として承る。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |
| <p>スーパーシティー構想に限らず、今後も説明会を実施する際は対面と合わせてオンラインでも実施してほしい。参加しやすくよかった</p>        | <p>他部局にも共有していきたい。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| <p>スーパーシティー構想内容にあるものはすでに日本以外では民間が実用化されているのでは。運用及び規制を行政が行えば良い社会ができるのでは。</p> | <p>既に他地域で実装されているものもあれば、そうでないものもある。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| <p>世界の明日を見せてほしい。</p>                                                       | <p>実現していきたい。つくばの使命だと考えている。この取組をしないと持続的な観点で市民を守れない。特に公共交通や移動について、困っている人が多い。買い物も病院も行けない。ここに対して、新しい技術のできる限り使って、都市経営の中に位置づけてやっていく。</p> <p>まずはオプションを増やすこと。ゼロイチの二元論の話ではない。</p> <p>今回の説明会も、オンラインにしたことでオプションが増えた。ネット投票でも同じこと。同じようにオプションを増やすことで、カバーできる層もある。規制があってできないこと、進んでいない状況がある。それを破って技術を住民に還元し、フィードバックを貰ってより良いものを世界に提供してく。それが使命。</p> <p>これからも対話を大事にしながら事業を進めていきたい。</p> |
| <p>(事後意見)</p> <p>1 今後とも定期的に意見・要望を収集して欲しい。現時点ではあまりにも多く</p>                  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |

|         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |  |
|---------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
|         | <p>の要素が含まれるため、日常との関連の中でとらえるには市民としての学習も必要かと思われる。尚、ここでいう意見・要望は「市民として支援できることはないか」も含む。</p> <p>2 総務省の公開文書を含みカタカナ語が多すぎる。該当または近似する日本語の熟語を先ず使用するよう、お願いしたい。カタカナ語で表記される語は日本語の熟語の後に括弧でくくり配置して欲しい。この場合は他の言語でも差し支えない。この件は、つくば市が単独で書き換えるのは抵抗もあるだろうが、今後多くの市民の賛同を得ながら息の長い活動を進めてゆくためには、避けて通れない事のように思われる。</p>                                                                                                                              |  |
| オープンハウス | <p>シェアサイクルなど移動手段の選択肢を増やすことは、様々な属性の人たちにとっての移動の機会や自由度をあげることでありよいと感じる。しかし、現状の公共交通（特にバス）において、人口増に見合った便数や路線網が整備しきれていないように感じる。中心部においても、自家用車での移動が必須となる状態では、渋滞の解消や交通弱者の移動しやすい社会は難しいと考えている。様々な交通サービスを実現し、さらに維持していくためには、移動に不自由のない人たちにも自家用車よりもそれらのサービスを利用してもらえるような環境づくりが大事だと思う。東京向きの住民も増える中でより都市的な移動を求める人も増えている。広域移動の手段はつくバス等でかなり整備されてきているように感じるが、中心部の短距離、高頻度運行されている区間は大学方面以外ほとんどないのではないだろうか。最先端の技術を取り入れることは、多くの人の不安を解消し、様々なニーズ</p> |  |

|  |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |  |
|--|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
|  | <p>に对应えられる可能性が増えることに繋がると思うので大賛成ではあるが、「いつでも」そのサービスが使えるようにならなければ定着しないと考えている。採算面でも厳しいこともあるかもしれないが、高水準のサービスをどう維持していけるかについて考えていくことができれば良いと思う。不安、不便を感じている人を救うためには、どう多くの人を巻き込んで支持されるものにしていくか、サービスの維持または向上が可能なレベルで継続できるようにするためにはどうすべきか、が常に意識できていれば良いと感じる。私を含めた健常者と言われる自家用車を使った移動で現状不便を感じていない人にとって、これは良い政策だと思えるようなスーパーシティであってほしい。</p> |  |
|  | <p>イーアスつくば、イオンモールつくば、ララガーデン、クレオスクエアなど大型商業施設も多いので、買い物難民対策などで連携すれば便利だと思う。</p>                                                                                                                                                                                                                                                  |  |
|  | <p>世界では環境問題が注目され、SDGs 達成が目標となっているが、そうした視点からの取組が展示の中で少なかった。今後はこうした点に注目すべきか。</p>                                                                                                                                                                                                                                               |  |
|  | <p>これからの時代、スーパーシティを名乗るからには SDGs の達成等「環境」のキーワードは盛り込むべきと思う。例えば生活に密接に関係ある、一般市民にできることだけでも、ゴミ削減とか、リサイクル推進などあげられると思う。その意味で、展示の中では、生分解性プラスチック「P Life」や環境型食器「E dish」は興味深い。</p>                                                                                                                                                       |  |
|  | <p>企業の提案内容を良く吟味してから始めるようにして欲しい。一度、東／西大通の北の端から南の端まで、夜、自転車で走ってみて欲しい。どれだけ危ないか。街灯増やしたり、道の穴塞いだり、木の根でデコボコなの</p>                                                                                                                                                                                                                    |  |

|  |                                                                                                                                                                                                                                         |  |
|--|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
|  | 何とかして欲しい。そうしたことをこまめに迅速にやっていく事の方がおろそかになってしまうなら、何を言われても信じられない。                                                                                                                                                                            |  |
|  | <ul style="list-style-type: none"> <li>中心部の交通、移動の不便さ、もっと高頻度にバスが運行されれば（水戸のように）</li> <li>高齢者をターゲットにしたサービスを考えるケースが多いが本当にサステナブルなのか。家族に頼ってサービスが使われないケースが多い。もっと若い人もターゲットに（東京通勤層）</li> <li>歩いてまわれる街づくりになっていないから、活気が生まれない。</li> </ul>           |  |
|  | <ul style="list-style-type: none"> <li>自動運転パーソナルモビリティは実現してもらいたい。外出しやすくなる。高齢者は外出しにくくなり、結果的に認知症につながっている。</li> <li>病院は専門が細分化しすぎていて分かりづらい。オンラインで調べられると使いやすい。</li> <li>自分のかかりつけ医が分からない。</li> <li>自分のPHRを保有できることは良いこと。医者にかかりやすくなる。</li> </ul> |  |
|  | <ul style="list-style-type: none"> <li>小田地域づくりに関わっている。地域での支え合い体制をつくろうと動いているので、積極的に連携していけたら良いと思った。</li> <li>スーパーシティとして、住民からの意見を聞くときに、行政へ住民側からアクセスするのではなく、AI等活用してネット上に落ちている意見も自動で収集してまとめるような機能がつかれると良いと思う。</li> </ul>                     |  |
|  | 今回は小田地域がスーパーシティの選定を受けるということで、お話を伺った。選定された場合どのような連携できるか楽しみである。                                                                                                                                                                           |  |
|  | 小田小交流プラザと社会福祉協議会の協                                                                                                                                                                                                                      |  |

|               |                                                                                                                                                                    |   |
|---------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---|
|               | 同で地域づくり（防犯・防災・福祉の総合）を始めているので、ぜひ協力させて欲しい。                                                                                                                           |   |
|               | <ul style="list-style-type: none"> <li>カスミの移動スーパーに顔認証がつくと、買い物が楽になると思う。</li> </ul> 荃崎内でも格差がある。市内隅々まで利便性を上げて欲しい。                                                     |   |
|               | スーパーシティの実現に向け、ご協力させていただきたい。よろしくお願いします。                                                                                                                             |   |
|               | プロパンガスの料金に偏りがある。賃貸なので、自由に選ぶことができない。（高い。1人暮らしで6,000円／月。）                                                                                                            |   |
|               | 構想の内容については、全てをいっぺんにできるものではないと思うので、どれからどのように進めていきたいのか、スケジュール案を示して欲しいと思う。そうでなければ、遠い未来の話なのか、数年後の話なのかが区別できず、構想内容に対する自分の立ち位置がイメージできない。自分としては、進めやすい構想から始めた方がよいのではないかと思う。 |   |
|               | 筑波大学など、学術機関の知恵を活用して、市民の還元する取組についてはつくばならではのもので、歓迎したい。目指すゴールや内容を様々な立場や年齢の方々に伝えるコミュニケーションや発信方法は、工夫していくとよいのではないか。若年層は、SNS、アニメ、マンガ。高齢者は対面での密な会話や写真など、うまく活用されたい。         |   |
|               | つくば市ならではの可能性を感じる。40年住んでいるが、交通インフラの整備以外にもそのくらいかかっているのでは、長期的視野を持って、利便性、快適性、省エネ、エコなどの両立のため、最小公倍数を目指したプランがあると良い。小学校のアイデアも参考になると思う。                                     | — |
| 区長等<br>との意見交換 | <ul style="list-style-type: none"> <li>地域のために自分にできることをやっていきたいと思っている。</li> <li>宝陽台が対象地域となることについて</li> </ul>                                                         |   |

|       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |  |
|-------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| (宝陽台) | は歓迎。句会の推進体制の中にもスマートシティ担当を置きたいと思っている。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |  |
|       | <ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者であっても、好奇心旺盛な人も多く、機器が普及されれば上手く活用していけると思う。</li> </ul> <p>画面が大きいので、スマートフォンよりもタブレットの方が使いやすいと思う。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |  |
|       | <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルインフラの操作について、気軽に相談できる体制は必要。</li> </ul> <p>若い人でなくても、デジタルインフラに精通している人はいると思う。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                    |  |
|       | <ul style="list-style-type: none"> <li>毎月の自治会広報誌の全戸配布や公民館の施設管理（予約管理、鍵の受渡し、利用料の集金作業）の負担がかかっている。</li> <li>市のサーバー上に自治会ホームページを作成し、そこでイベントや住民の取組などの情報発信ができればと思っている。牛久市ではそれができている。</li> <li>高齢者の見守りについては需要が高い。独居高齢者も多く、2020年には孤独死が1件発生した。</li> <li>交通の便が非常に悪い。バス停まで非常に遠く、団地内につくバスは通っていない、牛久市の「かっぱ号」が循環している。</li> <li>小学校の学区について、すぐ近くに牛久第2小があるが、そこには通えず、遠く離れた茎崎第3小への通学を余儀なくされている。身近にも、子供に同じ思いをさせたくないとの理由で学園の森に転居してしまったという人がいる。子供が集まらない。</li> </ul> |  |
|       | この地域は区会加入率が非常に高いので、区会役員が前に立って、地域をまとめる意義があると思う。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |  |

|                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |  |
|-----------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--|
| 区長等<br>との意見交換<br>(小田) | せっかく小田を選んでもらったのであれば、地域をよくするために動いていきたい。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |  |
|                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者は特にスマートフォンに対する抵抗感がある。スマートフォンよりもタブレットのほうがいい。</li> <li>馴染み深いテレビを活用してサービスを提供したほうが利用者也増えるのではないかと。小田には通っていないが、ケーブルテレビを利用することも一案。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                                                                              |  |
|                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>電動車いすに乗れる元気な高齢者ばかりでなく、ベッドから起きることすらできない高齢者もいる。もっと小田の実態に照らし合わせたサービス内容にしてほしい。</li> <li>小田小学校の跡地を交流プラザとして活用しているが、まだまだ賑わいが足りない。</li> <li>小田地域を1日中自動運転バスが循環していれば、家に籠っていた高齢者が外に出て、人と交流するきっかけとなるかもしれない。</li> <li>高齢者の見守りという意味では、一人で家に籠る高齢者とオンラインで接続し、気軽に友達や孫と交流できるようにすることで、認知症を防止することや新しいデジタルサービスを使ってみようというきっかけにもできるかもしれない。</li> <li>観光分野のサービスについて、宝篋山のすぐ麓に無料駐車場があるため、登山客が下山後すぐに帰ってしまい、地域のお店には寄ってもらえていない。小田の宝篋山や歴史的建造物を生かすことで、観光客が増</li> </ul> |  |

令和3年2月26日

政策イノベーション部スマートシティ戦略室

|  |                                                                                   |   |
|--|-----------------------------------------------------------------------------------|---|
|  | え、地域の商店が活性化されれば、住民も刺激を受けるかもしれない。                                                  |   |
|  | <ul style="list-style-type: none"><li>カタカナ言葉を減らすなど、高齢者に配慮した内容にしてみようと思う。</li></ul> | — |



# つくばスーパーサイエンスシティ構想

※前回からの修正箇所は  
赤字で修正

資料 3

“人々とコミュニティのつながりを力に 人々の多様な幸せ（ウェルビーイング）に貢献するスーパーシティ”



社会全体が一人ひとりを包み込み、支え合う「誰一人取り残さない」精神のもとで、世界最高峰の科学技術を結集し、デジタル、ロボティクス等の最先端技術の社会実装と都市機能の最適化を進めていく。  
これにより、市民と市民、市民と行政のつながりを深化しつつ、出口の見えない社会課題の克服や革新的な暮らしやすさを実現する市民中心のスーパーシティを目指す。



## ＜デジタルインフラ整備＞

マイナンバー・マイナンバーカード利用拡大  
高齢者向けスマホ／タブレット配布、スマホアドバイザー配置

## ＜先端的サービスの実装＞

### 行政

インターネット投票、多言語ポータルサイトアプリ、庁内データ共有・利活用、市民意見収集によるEBPM

### 移動

交通ネットワークの最適化、自動運転車のオンデマンド配車、**搭乗型移動支援用具**、送迎バスシェアリング

### 物流

自動配送ロボットや**小型無人機（ドローン）**等による配送最適化

### 医療 介護

医療情報や生活習慣情報活用による健康寿命延伸・救急医療高度化、遠隔医療、学校の体調管理デジタル化

### 防犯 防災 インフラ

無人機器やAI等による建物・道路・橋梁の点検・診断、防災・災害情報**基盤**、地域防犯システム

## データ連携基盤

＜民間事業者等のコミット＞  
つくばスマートシティ協議会（産学公40機関加盟）と連携

＜大胆な規制・制度改革＞  
公職選挙法、住民基本台帳法、道交法、薬機法等

## ＜住民等の意向の把握＞

住民投票、市長キャラバン、オープンハウス、市民アンケート、市有識者会議、パブリックコメント

＜住民等の個人情報の適切な取扱い＞ つくば市個人情報保護条例等、つくば市プライバシーポリシー等、市役所職員必須のデータ利活用研修、つくばスマートシティ倫理原則

## 成功事例を他地区に展開



全体統括者  
(アーキテクト)  
筑波大学 鈴木健嗣 教授

## ＜研究成果の社会実装＞

つくばの研究機関から生み出される研究成果を、実証実験を経て社会実装。

### ③ 社会実装



企業、市

### ② 実証実験



企業、市

### ① 基礎・応用研究

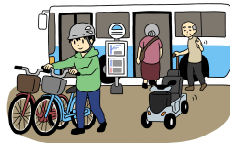


大学・国研、企業  
(市内約150機関)



# スーパーシティ基本方針案概要

## つくばスーパーサイエンスシティ構想 “Empowered Citizens and Inclusive Communities”



「誰一人取り残さない」包摂の精神のもとで、世界トップレベルの科学技術を結集し、デジタル、ロボティクス等の最先端技術の社会実装と都市機能の最適化を進めていく。  
これにより、市民と市民、市民と行政のつながりを深化しつつ、出口の見えない社会課題の克服や革新的な暮らしやすさを実現する市民中心のスーパーシティを目指す。



### <デジタルインフラ整備>

マイナンバー・マイナンバーカード利用拡大  
高齢者向けスマホ配布、スマートフォンアドバイザー（仮称）配置

### <先端的服务の実装>

#### 行政

インターネット投票、多言語ポータルサイトアプリ、庁内データ共有・利活用、市民意見収集によるEBPM

#### 移動

交通ネットワークの最適化、自動運転車のオンデマンド配車、パーソナルモビリティ、送迎バスシェアリング

#### 物流

自動配送ロボットやドローン等による配送最適化

#### 医療 介護

医療情報や生活習慣情報活用による健康寿命延伸・救急医療高度化、遠隔医療、学校の体調管理デジタル化

#### 防犯 防災 インフラ

無人機器やAI等による建物・道路・橋梁の点検・診断、防災・災害情報プラットフォーム、地域防犯システム

データ連携基盤

### <民間事業者等のコミット>

つくばスマートシティ協議会（産学公40機関加盟）と連携

### <大胆な規制・制度改革>

公職選挙法、道交法、オンライン診療の適切な実施に関する指針等

<住民等の意向の把握> 住民投票、市長キャラバン、オープンハウス、市民アンケート、市有識者会議、パブコメ、市長マニフェスト

<住民等の個人情報の適切な取扱い> つくば市個人情報保護条例等、つくば市プライバシーポリシー等、市役所職員必須のデータ利活用研修、つくばスマートシティ倫理原則

先端的服务に随時導出



アーキテクト（全体統括者）  
筑波大学 鈴木健嗣 教授

### <研究成果の社会実装>

つくばの研究機関から生み出される研究シーズを、実証実験を経て社会実装。

#### ③ 社会実装

企業、市

#### ② 実証実験

企業、市

#### ① 基礎・応用研究

大学・国研、企業  
（市内約150機関）

# スーパーシティで目指すつくば市の未来

科学と技術  
を人々へ

移動の自由と  
健康な自立を

安心と活力  
を人々へ

持続可能な社会を

信頼と支援  
を人々へ

人生の段階を支える  
行政サービスを



人々の幸せ（ウェルビーイング）に貢献するスーパーサイエンスシティ

# 『オンラインでいつでもどこからでも選挙の投票を』

## つくば市が抱える問題

- 投票所までの移動手段がない。公共交通で市内全域を網羅できておらず、自家用車がないと移動が困難である。
- 仕事や学校があり投票に行く時間がないなど、時間的、場所的な制約を受けており、投票率向上を妨げる一因となっている。



## 目指す未来と取組内容

- 投票における時間的、距離的負担を大きく軽減でき、移動が困難な方・忙しい方でも投票可能となることで、投票率向上も期待される。また、投票所受付を最小化、投票結果集計も迅速化でき、職員の負担軽減とコストの削減につながる。



## 先端的サービス: インターネット投票

### 【従来の投票】



- ✓ 時間の制約 (投票所の開設時間)
- ✓ 距離の制約 (決められた投票所)
- ✓ 移動の制約 (投票所内外のバリアフリー)
- ✓ 財政負担 (場所と人の確保)
- ✓ 人的負担 (立会・残業・深夜労働)

### 【インターネット投票】



制約と負担を軽減し、いつでもどこからでも投票可能に



### 規制の特例措置

- 公職選挙法第38条における立会人
- 第44条における投票所での投票
- 第45条における投票用紙の交付
- 第46条における自書・投函
- 第68条における無効投票

# 『行政情報をいつでもどこでも誰でも使いやすく』

## つくば市が抱える問題

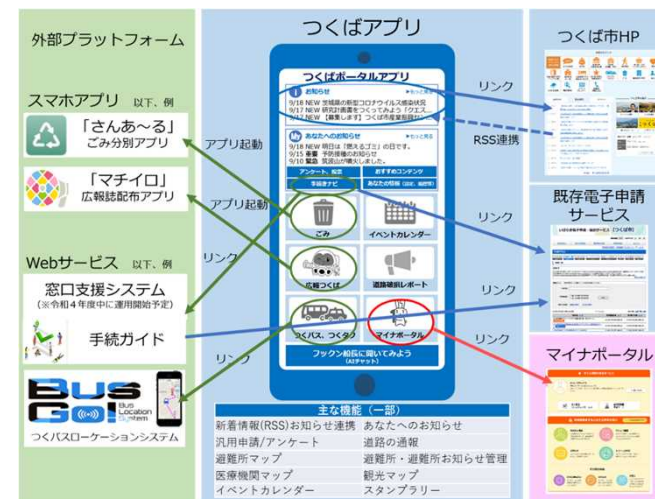
- ホームページなどに分散する情報にたどりつきにくい。関連部署が多く、それぞれバラバラに掲載されていることが多い。
- 自分が受けられるサービスを必要なタイミングに知ることが難しい。届出や手続をしたとき、一緒に行える手続が分かりにくい。
- 外国人の言語の壁による情報格差が発生。日本人と同じ情報が得にくい。

## 目指す未来と取組内容

- 分散する行政情報を集約し、多言語で表示するポータルサイトアプリを構築する。市民の希望(オプトイン型)により、属性情報に基づき個別化された情報発信も行う。さらに、マイナンバーカードを活用し、行政への様々な申請・手続をアプリ上から行えるようにする。



## 先端的サービス: 多言語ポータルアプリ



## 規制の特例措置

- 行政手続については、押印、添付書類の撤廃、対面規制の緩和など

大学生 Aさん



子育て、共働き Bさん



外国人研究者 Cさん



アクティブシニア Dさん



## つくば市が抱える問題

- 高齢者の病気療養や要介護の期間が長い。(平均寿命と健康寿命とのかい離)
- 医療と介護の分断によるサービスの空白地帯の存在。

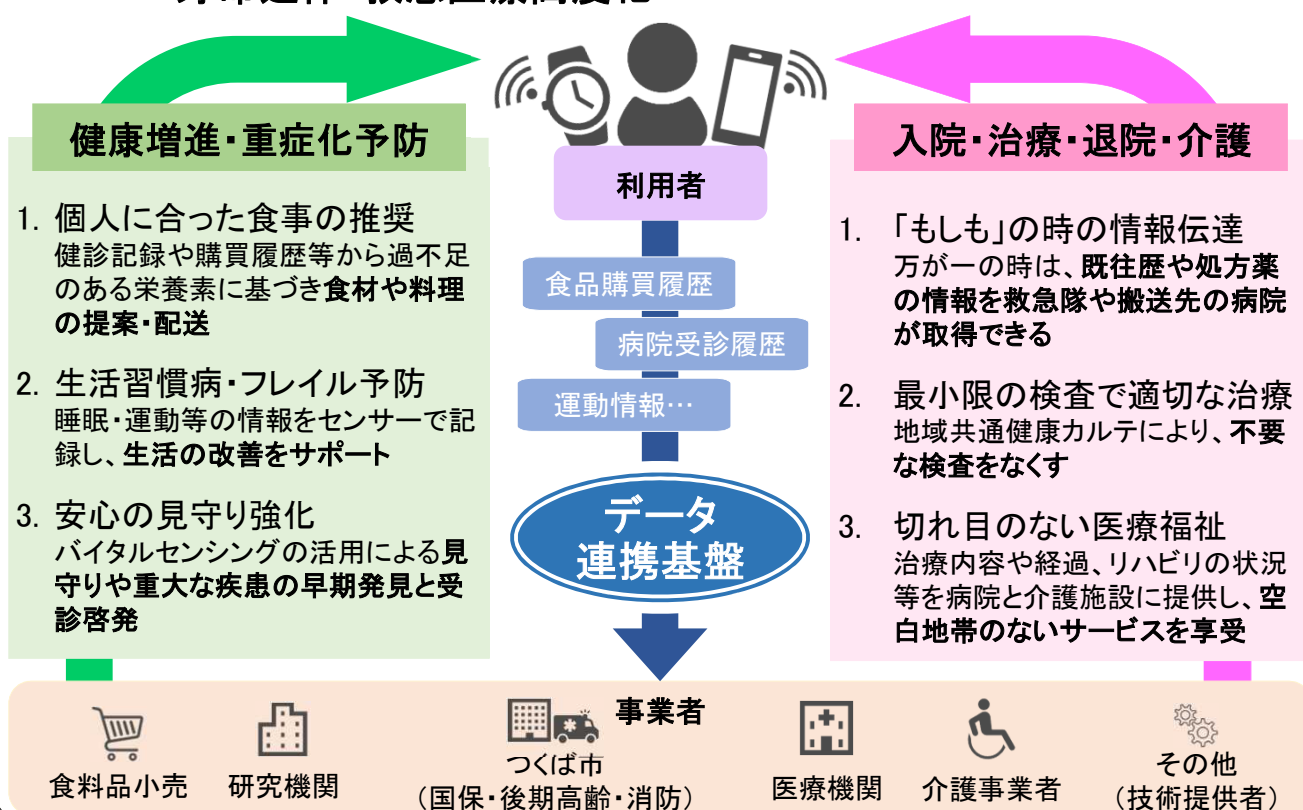


## 目指す未来と取組内容

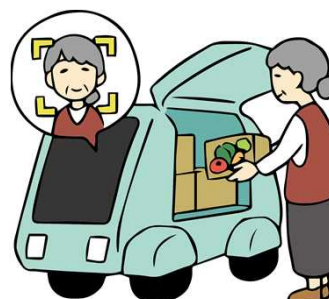
- 運動や食料品購買履歴などの生活習慣情報や健康診断結果などの医療情報を本人の希望で事業者等に共有化できる仕組みの構築。
- 各事業者は、共有されたデータを活用して、健康増進・生活支援・医療・介護等の個別サービスを提供。救急搬送時にも活用する。



## 先端的サービス：医療情報や生活習慣情報活用による健康寿命延伸・救急医療高度化



個人に合った食材が自動で配送され、顔認証で本人確認の上、受け取るイメージ▼



▲ウェアラブル・デバイスで日々の運動情報やバイタルデータを送信するイメージ

## 規制の特例措置

- 診療情報の提供に関する指針  
診療情報等の開示方法は、医療機関の管理者が指定できることになっており、個人の希望により電子データでの開示ができるようにする必要がある。
- 個人情報保護法施行令9条  
個人情報の開示は、書面交付が基本で、例外も請求者の同意の下、取扱事業者が決定。

## つくば市が抱える問題

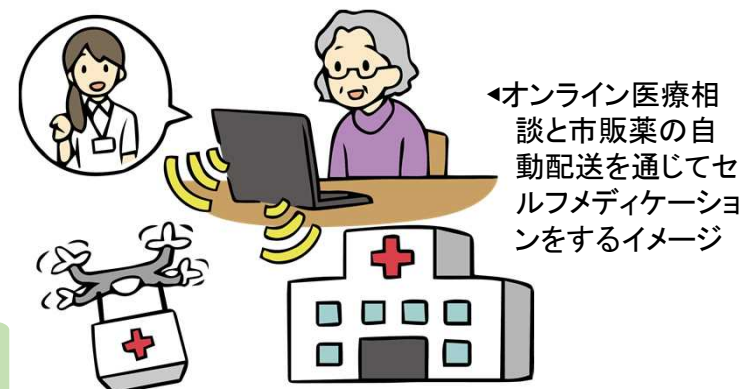
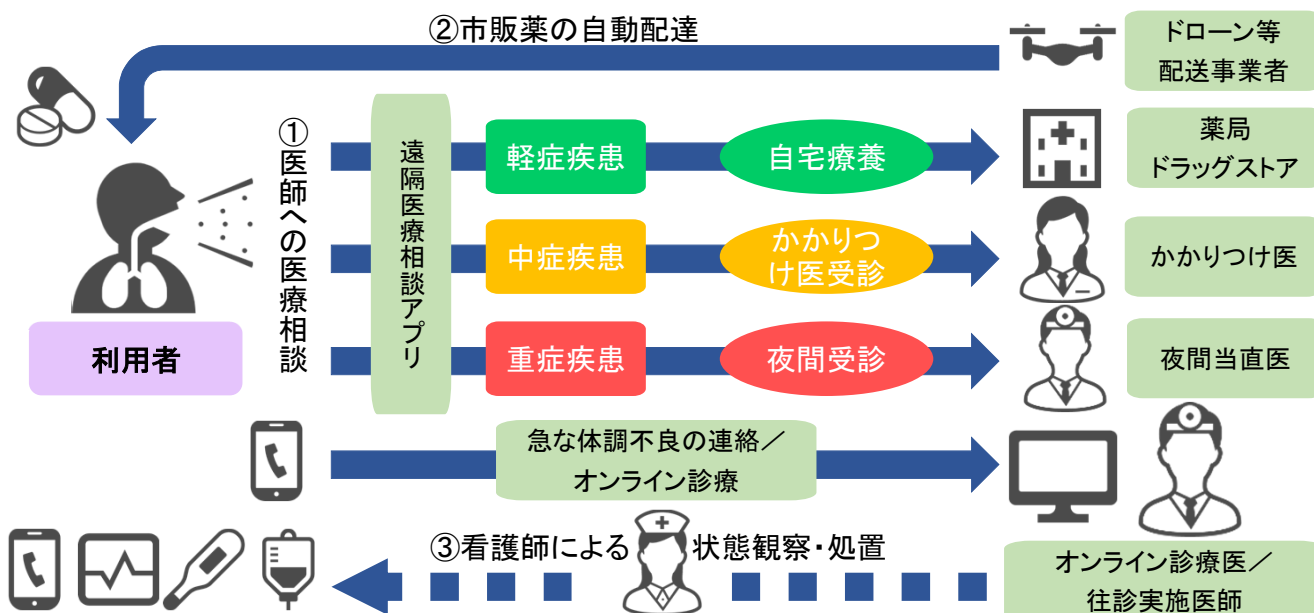
- 自宅から病院が遠く、高齢だが自分で運転して行かなくてはならない。
- 感染症予防の観点から、病院を受診しづらい。

## 目指す未来と取組内容

- スマートフォン等で医師に医療相談、市販医薬品の購入、医療機関の受診を簡便に行える仕組みを構築する。
- 看護師等の医療従事者が患者に付き添うことで、質の高い遠隔診療も推進する。

## 先端的サービス:遠隔医療の推進

- ①スマートフォンアプリを通じた医師への医療相談による医療トリアージ
- ②(自宅療養の場合)医師に推奨された市販薬をドローンや自動配送ロボット等を活用して自動配達
- ③看護師等の付き添いで質の高い遠隔診療を実現



### 規制の特例措置

- 運送業許可に関する規制  
薬の配送には、一般市民等による代理購入・配送が現実的だが、現行法では報酬の受け取りを目的とした配送には運送業許可が必要。
- 小型無人機や自動配送ロボットに関する規制  
航空法や道路交通法等、小型無人機(ドローン)の飛行や自動配送ロボットの公道走行に関する規制は多い。

## つくば市が抱える問題

- 郊外の買い物が困難(特に移動が困難な住民)
  - ・ 近くにお店がない。
  - ・ 重い荷物を運ぶのが大変。
  - ・ 欲しい時にすぐ荷物が届かない。



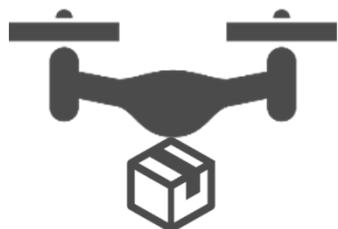
## 目指す未来と取組内容

- 郊外であっても都市部と変わらない利便性の高い暮らしに資する。また、担い手が不足している配送ドライバーの補完の役割も果たすことが可能となる。



## 先端的サービス: 自動配送ロボットやドローンによる買い物の利便性の向上

### ドローン配送



#### 自動飛行で配送し帰還

- 生活必需品の配送
- 医薬品等の配送
- 災害時の緊急物資輸送



中山間地域等の過疎地

### 自動配送ロボット



#### 完全無人で荷物配送

- 食料品や日用品の配送
- 非接触による配送



郊外のベッドタウン



### 規制の特例措置

- ドローンに関する法規制(航空法、電波法など)
- 自動配送ロボットに関する法規制(道路交通法など)

必要な時に欲しいものが届くという先進的な買い物体験

# 『必要な時、必要な場所へあらゆる移動手段を』

## つくば市が抱える問題

- 公共交通で市内移動をするのが不便
  - ・ 自家用車がないと、買い物や通院など日常生活を送りづらい
- 高齢者、障がい者を支える移動手段が不足
  - ・ ひきこもりがちになり社会参加が低下、送迎など家族の負担、交通事故の増加



## 目指す未来と取組内容

- 自動運転車によるオンデマンド乗合サービス
  - ・ 希望の乗降場所、時間等に応じて乗降できる自動運転車による乗合サービス
- パーソナルモビリティのシェアリング
  - ・ 一人乗りのコンパクトな車両を用いた新たな近距離移動サービス



## 先端的サービス：交通ネットワークの最適化とパーソナルモビリティ導入・自動運転車のオンデマンド配車

乗りたい時に行きたい場所まで  
自由に移動  
自動運転車によるオンデマンド乗合サービス



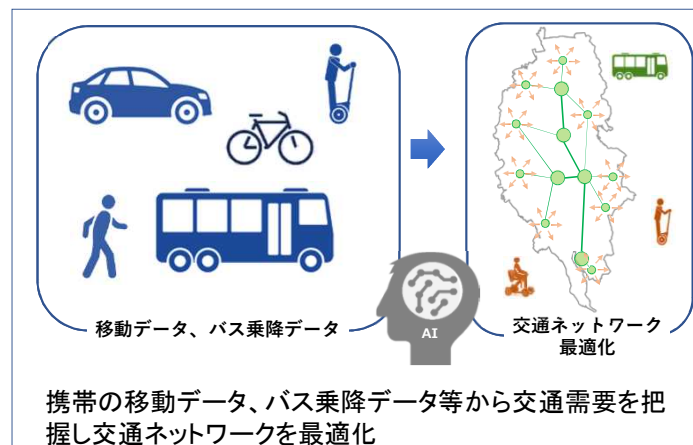
つくばMaaS  
(ポータルアプリ機能)

高齢者や障がい者などの移動をサポートする  
パーソナルモビリティの  
シェアリング



多様なデータと連携することで、最適な配車、安全な自動運転、利便性の高いサービスを提供

### データ連携基盤



### 規制の特例措置

- 乗合バス事業者の運行計画及び運賃等の許可申請要件の緩和(柔軟な変更)
- 規格外モビリティの公道走行
- 道路使用許可の要件緩和
- モビリティの自動運転(保安要員の不要化、無人走行)

【画像提供】

NTTドコモ株式会社、CYBERDYNE株式会社、筑波大学

## 令和 2 年度（2020 年度）第 4 回つくば市行政経営懇談会会議録要旨

議事（1）令和 2 年度（2020 年度）つくば市行政経営懇談会提言（案）について

|   | 意見等                                                                                                                                                                                                     | 対応等                                                                                                                                       |
|---|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | <p>アンケート行う場合、人口に対して何パーセントという目標サンプリング数を最初に設定したほうが、より多くの市民の意見を集められるのではないか。</p> <p>また、当初設定していた場所で意見を集めることが難しい場合には実施場所を変更するなど、柔軟に対応すると良いのではないか。</p> <p>数値目標を設定し、それを達成すべく適切な収集方法と柔軟な対応をとることが求められるのではないか。</p> | <div> <p>■提言の追加を行わない</p> </div>                                                                                                           |
| 2 | <p>手法等によっては、数値目標の設定が足枷となる場合がある。対象を検討した上で設定していかなければ難しいのではないか。</p>                                                                                                                                        |                                                                                                                                           |
| 3 | <p>何にでも数値目標を設定すると、それを達成することが目的となり、本来の趣旨と離れてしまう可能性がある。</p>                                                                                                                                               |                                                                                                                                           |
| 4 | <p>市民委員については審議会等ごとに小論文や面接等により選考を行うか、無作為抽出による委員等候補者名簿から依頼を行っているが、市民委員をやってみようと手を挙げた人たちを登録、データベース化し、その中から各審議会等に参加いただくという人選の方法もあるのではないか。</p>                                                                | <div> <p>■提言に追加する</p> <p>5 ページ、「5 提言」</p> <p>③の 2 つ目</p> <p>参加を希望する市民の情報をもっと積極的に活用するため、リストを作成しても良いのではないか。なお、その際はある程度時限的な登録とする。</p> </div> |

|   |                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|---|----------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 5 | <p>市職員は生活者でもあり、市民としての考え方や立場と業務との板挟みになり、大変かと思う。もう少し職員の本音を施策にうまく反映できると、市民よりの発想が出てくるのではないか。</p> | <div data-bbox="874 226 1331 443" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>■提言に追加しない</p> <p>提言書には反映されないが、今後取組を進める上での検討課題とする。</p> </div>                                                                                                                                                            |
| 6 | <p>体裁について、なぜ①～③の三点に絞って検討しているのかというところの言及がない。3の「現状と課題」か4の「検討」で補足すると読みやすいのでは。</p>               | <p>【事務局提案】</p> <p>案1：「現状と課題」に若者の参加率が低いというバックデータを載せる。</p> <p>案2：検討の書き方として、大前提は解説しないが、「主に審議会等の市民委員の参加について協議を行った。この協議を踏まえ、①～③の特にこの三つについて、つくば市における～」とする。</p> <div data-bbox="874 1019 1331 1236" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>■提言書を修正する</p> <p>3 ページ、「4 検討」</p> <p>事務局案2のように修正。</p> </div> |
| 7 | <p>5の「提言」①の三つ目で希望分野に関する選択肢の追加を記載しているが、現状を知らずに提言書を読む人がいると思うので、現状と変更後の内容について記載したほうが良いのでは。</p>  | <p>【事務局補足】</p> <p>提言書は行政経営懇談会から市長に提出するものであり、市民向けのものではないが、例えば、提言書の中で文言の補足は行わないが、市のホームページに掲載する際に補足的な説明や提言の解説をつけるという方法はある。</p> <div data-bbox="874 1713 1331 1977" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>■提言書の修正は行わない</p> <p>提言書そのものに付記等は記載しないが、提言書がホームページ等に掲載される場合には解説等を追加する。</p> </div>          |

|    |                                                                                                                                                                          |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 8  | <p>5の「提言」①の最後の文について、ジェンダーバランスや居住地等に偏りがないよう配慮するという一文を追加するという意味がわからない。必ずしも偏りがないということだけを追求する必要はなく、特定の層から選ぶ必要がある場合もあるのではないか。</p>                                             | <div data-bbox="874 226 1331 539" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>■提言を修正する<br/>4 ページ、「5 提言」<br/>①の4 つ目</p> <p>必ずしも偏りがない状態にする必要はない。</p> </div>                                                                                                                                                            |
| 9  | <p>仕事を持っていると昼間の会議は休暇を取得しなければならない。裁判員制度と同様に市の市民委員として会議に参加する場合は特別休暇を使えるというような制度があると良い。つくば市から会社や研究所等に口添えしてもらえるとありがたい。</p>                                                   | <p>【事務局補足】</p> <p>対職場で審議会等に出席するために休暇を取ることを正当化できるようにということであれば、例えば、委員から希望があった際、審議会等の担当課等から市民委員の職場に配慮していただくための文書を出すことはできる。</p> <div data-bbox="874 1019 1331 1424" style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>■提言に追加する<br/>4 ページ、「5 提言」<br/>②の2 つ目<br/>③の7 つ目（再掲）</p> <p>審議会等の市民委員として参加しやすい職場環境のために広報、喚起する。</p> </div> |
| 10 | <p>提言書を一般の人たちが読んだ場合にわかりにくい言葉があるため、付記などの記載があると良いのではないか。</p> <p>また、自分が市民委員に参加するようになった場合には周囲の誘いや口コミがきっかけになると思う。市の広報で審議会等のコラムのようなものがあると、市民の目に触れる機会も増え、参加のハードルも下がるのではないか。</p> | <p>【事務局補足】</p> <p>提言書は行政経営懇談会から市長に提出するものであり、市民向けのものではないが、例えば、提言書の中で文言の補足は行わないが、市のホームページに掲載する際に補足的な説明や提言の解説をつけるという方法はある。</p>                                                                                                                                                                                                  |

|    |                                                                        |                                                                                           |
|----|------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------|
|    |                                                                        | <div> <p>■提言書の修正は行わない</p> <p>提言書そのものに付記等は記載しないが、提言書がホームページ等に掲載される場合には解説等を追加する。</p> </div> |
| 11 | 対象者の絞り込みということについては、AIやビッグデータを利用し、協議事案等に対して適切な人を選定するというのも方法の一つとして考えられる。 | <div> <p>■提言に追加しない</p> <p>提言書には反映されないが、今後取組を進める上での検討課題とする。</p> </div>                     |

議事（２）スーパーシティ基本方針について

|   | 意見等                                                                                                                      | スマートシティ戦略室<br>回答等                                                            |
|---|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 対象地域が４つということだが、それ以外の地域が取り残されるのではないか。                                                                                     | ３月末の内閣府に対する申請の段階では、４地域に絞り、進めていきたいと考えているが、将来的には横展開をして、これらの地域だけが特別にはならないようにする。 |
| 2 | 年配の方がスマートフォンを使うことには相当困難が伴うのではないか。タブレットのような大きなもの、簡単に使える形にしなければ難しいのではないか。例えば、コミュニケーションロボットや見守りAIロボット当を活用したほうが、効果が高いのではないか。 | 御意見として承る。                                                                    |
| 3 | 高齢者に生きる喜びを与える、回復して成長させる（レジリエンス）というような形の宣言も必要ではないか。                                                                       | 御意見として承る。                                                                    |
| 4 | 決済について、地域デジタル通貨を入れ、様々なサービスの支払いができる構想も取り入れるといいのではないか。さらに、イニシャルコインオフ                                                       | 御意見として承る。                                                                    |

|   |                                                                                                                                                                                  |                                                                                                                                                                                                                                                               |
|---|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|   | <p>ァリング(IC)、仮想通貨なども入れて資金調達を行い、市民に使ってもらうという次元まで伸ばしてもいいのではないか。</p>                                                                                                                 |                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 5 | <p>先進的サービス実装には含まれていないが、教育も重要である。先進的なことも大切だが、新型コロナウイルス感染症対策で実施されたオンライン授業等で困っている人もいる。そのような点についても盛り込んでもらいたい。</p>                                                                    | <p>御意見として承る。</p>                                                                                                                                                                                                                                              |
| 6 | <p>4つの地域に先進サービスを実装とあるが、5つの項目全てを実装していくのか、それとも順を追って進めていくのか。</p>                                                                                                                    | <p>各地区で全項目を行うということとは考えていない。地区ごとに優先順位をつけて実施する。一方で、各地域の進捗を見ながら、ある地域では全項目を実施するということもあるかと思う。</p>                                                                                                                                                                  |
| 7 | <p>高齢者へのタブレット配布については、セコムやアルソック等が見守りに関する製品を既に出していると思うので、そういったところと一緒に取り組むのはどうか。一台で教育や防犯にも繋げることができるのではないかと。</p> <p>また、タブレットの配布というよりも、市職員が夜間対応もするなど、高齢者が会話をする機会をつくるほうが良いのではないかと。</p> | <p>タブレットを配布してサービスを受けられるので使ってください、ということとは良くないと思っている。コミュニケーションが大事になる。行政サービスのデジタル化となったとき、遠隔の方を対象に利便性を挙げるということもあるが、市役所側の業務負担も下がる可能性が同時にある。市役所職員が普段の事務作業に追われ、市民と直接話す時間が取れない、議論や調べものをする時間がないという現状がある。デジタル化により職員の事務負担が減れば、職員が周辺地区に足を運び、地域の人と直接話をする機会も増えるのではないかと。</p> |
| 8 | <p>この方針はおおよそ何年で達成するものなのか。</p>                                                                                                                                                    | <p>順次実施していくが、2030年に資料に書いてあるようなことが概ね全て達成できる。</p>                                                                                                                                                                                                               |
| 9 | <p>認定されれば国の補助金がでると思うが、予算はどうなっているのか。どれだけ市の予算をここに投入するのか。</p>                                                                                                                       | <p>金額は未定。</p> <p>採択された場合、内閣府から来年度に一億円+<math>\alpha</math>が配られることになっているが、資料に記載してあることは</p>                                                                                                                                                                      |

|    |                                                          |                                                                                                                                                                                                                                               |
|----|----------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|    |                                                          | <p>一億円では達成できないため、色々な方法を組み合わせる必要がある。</p> <p>例えば</p> <p>①既存の予算を振り分けて活用する。</p> <p>②民間サービスの延長線上で行政が負担することなく提供されるサービスもある。</p> <p>③利用料をいただく。</p> <p>④ソーシャルインパクトボンド（公共的な目的に賛同した人たちが少しずつ出資し、ビジネスとして成功した場合は出資した金額に対して投資分の利益が得られる。住民も含めて少額から出資できる。）</p> |
| 10 | 後日、資料に関する意見を市に送付することは可能か。                                | 可能。期限はとくに設けない。                                                                                                                                                                                                                                |
| 11 | 国の補助を受けた際は、いかにそれを継続して住みやすいまちを維持していくかということを考えなければいけないと思う。 | スーパーシティになるに当たっては、予算面も含めていかに持続可能な仕組みにできるかということも大事だと思う。                                                                                                                                                                                         |
| 12 | スーパーシティが採択された場合に専従の人を雇う予定はあるのか。                          | 新規で雇用するかは不明だが、来年度は専任をもう少し増やしたうえで、関係課等の職員にも兼任という形で入ってもらう予定でいる。                                                                                                                                                                                 |
| 13 | スマートシティ協議会について、官と民の役割分担、費用、経費、情報の取り扱いの整理はどの程度できているか。     | <p>住民の情報は参加する事業所が自由に使えるわけではなく、市役所が管理するということが大前提となり、企業から預かる情報も自由に共有されるわけではない。企業同士でコラボレーションとなった場合には、協議をした上でお互いにどのような技術を持っているのかなどを共有することは行ったほうが良いと思う。</p> <p>また、個人の人サービスを受けるときに複数の事業者間でその人のデータが共有されるということがある。</p>                                |

|    |                                     |                                                                                                                                 |
|----|-------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|    |                                     | <p>データはデータ連携基盤というところで共有するが、そこには参加している事業者が誰でもアクセスできるわけではなく、サービスを受けたいと思う住民が同意をした場合に限り、限定された事業者間で共有される。セキュリティの担保もできるように考えている。</p>  |
| 14 | <p>最終的にはマイナンバーで紐づくような形で管理されるのか。</p> | <p>マイナンバーの普及の度合いにもよる。マイナンバーが普及している前提であれば、マイナンバーを活用することで様々な共有を行いやすくなるが、マイナンバーで全て紐づけていくということが適切かどうかはわからないので、その辺りも引き続き考えていきたい。</p> |